
文部科学省認可通信教育

レポート課題集

B 共通基礎・福祉専門編

2017

2017

レポート課題集



B

共通基礎・福祉専門編

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2019年9月30日到着分まで
変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学通信教育部

目次

『レポート課題集』の活用方法	6
----------------	---

共通基礎科目

AA1001	禅のこころ	10
AB1002	ボランティア論	13
AB1020	科学的な見方・考え方	18
AB1145	基礎演習	24
AB1332	情報処理Ⅰ	26
AH1003	福祉と経済	35
AH1007	法の基礎（日本国憲法を含む）	40
AH1017	人間と教育	43
AH1026	政治学の基礎	47
AH1049	人権と福祉	55
AH1050	社会福祉学入門	57
AK1005	生命の科学	59
AK1016	健康科学	65
AL1011	コミュニケーション英語	70
AS1028	スポーツの心理学	79
AS1023	スポーツ（バレーボール）	83
AT1027	特講（子どもの貧困）	85

社会福祉学科関連 専門科目

DA2050	社会福祉の基礎	88
DA2142	福祉ボランティア活動	89
DA2145	基礎演習	93
DD2211	発達障害者の地域支援	94
DD2215	認知症介護論	96
DD3119	知的障害者福祉論	98
DD3161	発達障害者の理解と支援	103
DD4124・DD4196		
	ケアマネジメント論	108
DE2113	NPO論	115
DE3143	福祉リスクマネジメント	120

DE4125	◆福祉施設管理論	124
DF3110	公衆衛生学	129
DF3121	福祉用具と生活支援（福祉機器論）	134
DF3122	リハビリテーション論	141
DF3147	医療・福祉経済論	145
DH2109	福祉思想論	149
DH3123	◆福祉計画法	152
DH3144	家族法	156
DH4111	社会福祉法制	159
DH4115	国際福祉論	164
DL3280	レクリエーション概論	169
DL4281	レクリエーション実技	174
DL4282	レクリエーション事業	178
EA2195	障害の理解	180
EA3194	生活行動と人体	184
EA4193	介護技術	188
ZZ5991	卒業研究	192

特講・社会福祉学

DT2201	特講・社会福祉学1（介護保険と社会福祉士の課題）	194
DT2210	特講・社会福祉学10（スクール・ソーシャルワーク論）	196
DT2213	特講・社会福祉学13（福祉産業論）	198
DT2250	特講（防災士研修講座）	200

『レポート課題集』の構成

●2017年度は下記を参照してください

- A 社福・精保指定科目編、B 共通基礎・福祉専門編、C 心理専門編・・・2017年冊子版を発行（PDF版も通信教育部ホームページに掲載）
- D 特別支援編・・・2017年PDF版を通信教育部ホームページに掲載（または2015年冊子版を参照のこと。ただし一部変更あり）
- E 2008年度以前入学者科目 社会福祉士指定科目 および F 高等学校福祉科教員免許状関連科目・・・2015年PDF版を通信教育部ホームページに掲載（または『レポート課題集2014（心理・教職編）』を参照のこと）掲載冊子・ページは、次ページ以降の「科目別索引」でさがしてください。

●『レポート課題集』掲載順の変更と新科目コード・履修系統図

2015年版の『レポート課題集』より、科目コードの変更により科目の掲載順が変わりました。

科目コード（6桁）の意味は下記のとおりです。

- | | | |
|-----|---------------|---------------------|
| 1桁め | A：共通基礎科目 | C：社会福祉士・精神保健福祉士指定科目 |
| | D：社会福祉学関連専門科目 | E：教職免許状関連科目 |
| | F：心理学関連専門科目 | |

2桁め 科目順調整用コード

- | | | |
|-----|-----------|------------------------------|
| 3桁め | 1：共通基礎科目 | 2～5：専門科目（2：1年次以上配当 3：2年次以上配当 |
| | 4：3年次以上配当 | 5：4年次以上配当） |

4～6桁め 原則として、2014年度までの科目コード下3桁と同じ

また、各科目の関連を示した履修系統図は『レポート課題集 C（心理専門編）』p.204～207でご確認ください。

科目別索引

ページ数が入っているものは、この冊子に掲載されています。その他は、下記でご確認ください。

A→社福・精保指定科目編、B→共通基礎・福祉専門編、C→心理専門編
 D→特別支援編：通信教育部ホームページ「レポート課題一覧」または冊子版『レポート課題集2015D』
 E・F→『レポート課題集2014』または通信教育部ホームページ「レポート課題一覧」
 2007年版→『レポート課題集2007』 …… 2016年版→『レポート課題集2016』から閲覧してください。

ア行

CC3079	2009～	医学一般	A
CC3106	～2008	医学一般	E
DF3147		医療・福祉経済論	145
DE2113		NPO論	115

カ行

CL2065	2009～	介護概論	A
CL2120	～2008	介護概論	E
EA4193	2009～	介護技術	188
EB4903		介護実習	2016年版
EB4741・EB4704		介護実習事前事後指導	2016年版
EC3708		カウンセリング(教職免許取得希望者向け) …	F
FG2682		カウンセリングⅠ	C
FG2683		カウンセリングⅡ	C
FG3695		カウンセリング演習Ⅰ	C
FG3696		カウンセリング演習Ⅱ	C
AB1020		科学的な見方・考え方	18
FH3512		学習心理学	C
FC2515		家族心理学	C
DH3144		家族法	156
FC3504		環境心理学	C
AH1018		観光と文化	2014年版
AB1145		基礎演習	24
DA2145		基礎演習	93
EC2301		教育原理	F
EC4904		教育実習	F
EC4710		教育実習の事前事後指導	F
FE2513		教育心理学	C
EC3706		教育方法論(視聴覚教育等を含む)	F
EC5913		教職実践演習(高)	F
EC2702		教職論	F
DD4124・DD4196		ケアマネジメント論	108
EG4734		(軽度)発達障害教育総論	D
EG4733		(軽度)発達障害者の心理	D
AK1016		健康科学	65
EG4736		言語障害教育	D
AH1006		現代社会を見る眼	2008年版
DF3110		公衆衛生学	129
CM3069		更生保護制度論	A
CA4108		公的扶助論	A
EC3703		高等学校教育課程の意義と編成	F
CL2064	2009～	高齢者福祉論	A
CL2117	～2008	高齢者福祉論	E
DH4115		国際福祉論	164
AH1019		子どもと社会	2008年版
AL1011		コミュニケーション英語	70
EG4736		コミュニケーション障害教育→言語障害教育	D

サ行

FG3680		産業カウンセリングⅠ	学習期間終了
FG3681		産業カウンセリングⅡ	学習期間終了
FC2523		産業心理学	C
EG3737		視覚障害教育総論	D
EF3719		肢体不自由教育	D
EE4723		肢体不自由者の心理、生理・病理	D
CL2066	2009～	児童・家庭福祉論	A
FD2516		児童青年心理学	C
CL2116	～2008	児童福祉論	A
EG4735		自閉症教育総論	D
FC2514		社会心理学	C
CE4073	2009～	社会調査の基礎	A
DD4114		社会病理学	学習期間終了
CN3130	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅰ	E
CN4131	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅱ	E
CN3082	2009～	社会福祉援助技術演習A	A
CN4083	2009～	社会福祉援助技術演習B	A
CN5084	2009～	社会福祉援助技術演習C	A
CP5901	～2008	社会福祉援助技術現場実習	E
CP5132	～2008	社会福祉援助技術現場実習指導	E
CP5907	2009～	社会福祉援助技術実習	A
CP3190	2009～	社会福祉援助技術実習指導A	A
CP5191	2009～	社会福祉援助技術実習指導B	A
CE3070	2009～	社会福祉援助技術総論	A
CE3071	2009～	社会福祉援助技術論A	A
CE3072	2009～	社会福祉援助技術論B	A
CJ3126	～2008	社会福祉援助技術論Ⅰ	E
CJ3127	～2008	社会福祉援助技術論Ⅱ	A
CJ4128	～2008	社会福祉援助技術論Ⅲ	E
CJ4129	～2008	社会福祉援助技術論Ⅳ	E
AH1050		社会福祉学入門	57
CA3104		社会福祉原論(職業指導を含む)	A
DA2050		社会福祉の基礎	88
DH4111		社会福祉法制	159
DF4112		社会保険論	2008年版
CA4107		社会保障論	A
CM4076		就労支援サービス論	A
EK3711		障害児教育Ⅰ	2011年版
EK3712		障害児教育Ⅱ	2011年版
EK4905		障害児教育実習	2011年版
EK4716		障害児教育実習事前事後指導	2011年版
EK4714		障害児の教育課程	2011年版
EK3715		障害児の指導法	2011年版
FE3518		障害児の心理	C
EK4713		障害児の生理・病理	2011年版
EH4906		障害者教育実習	D
ED3718		障害者教育総論	D
EH4740		障害者教育実習の事前・事後指導	D
CD2118		障害者福祉論	A
EA2195	2009～	障害の理解	180
FD2502		生涯発達心理学	C
AB1332		情報処理Ⅰ	26

DK4692	職場のメンタルヘルス……………	2016年版
FF2511	人格心理学……………	C
AH1049	人権と福祉……………	55
DK3690	人的資源論……………	学習期間終了
FF2519	心理アセスメント……………	C
FA2501	心理学概論……………	C
FB3508	心理学研究法Ⅰ……………	C
FB3509	心理学研究法Ⅱ……………	C
FB2505	心理学実験Ⅰ……………	C
FB2506	心理学実験Ⅱ……………	C
FB4507	心理学実験Ⅲ……………	2008年版
FF3520	心理療法……………	C
FF3521	心理療法各論……………	C
AS1028	スポーツの心理学……………	79
AS1024	スポーツ（バングolf）……………	学習期間終了
AS1023	スポーツ（バレーボール）……………	83
EA3194	2009～生活行動と人体……………	184
AH1026	政治学の基礎……………	47
CQ4140	精神医学……………	A
CS4139	精神科リハビリテーション学……………	A
CU3151	2012～精神障害者の生活支援システム……………	A
CQ3136	精神保健学……………	A
CW4141	～2011 精神保健福祉援助演習……………	A
CW3157	2012～精神保健福祉援助演習A……………	A
CW4158	2012～精神保健福祉援助演習B……………	A
CW5159	2012～精神保健福祉援助演習C……………	A
CR3138-CR3148	～2011 精神保健福祉援助技術各論……………	A
CR3156	2012～精神保健福祉援助技術各論……………	A
CR3153	2012～精神保健福祉援助技術総論Ⅰ……………	A
CR3154	2012～精神保健福祉援助技術総論Ⅱ……………	A
CR3137	～2011 精神保健福祉援助技術総論……………	A
CX5902	～2011 精神保健福祉援助実習……………	A
CX4908	2012～精神保健福祉援助実習A……………	A
CX5909	2012～精神保健福祉援助実習B……………	A
CT3150	2012～精神保健福祉のサービス……………	A
CT4152	2012～精神保健福祉の制度……………	A
CS3155	2012～精神保健福祉の理論……………	A
CS3133	～2011 精神保健福祉論Ⅰ……………	A
CT3134	～2011 精神保健福祉論Ⅱ……………	A
CT4135	～2011 精神保健福祉論Ⅲ……………	A
CX4188	2012～精神保健福祉援助実習指導A……………	A
CX5189	2012～精神保健福祉援助実習指導B……………	A
EC3707	生徒指導論（進路指導を含む）……………	F
AK1005	生命の科学……………	59
AA1001	禅のこころ……………	10
EC4709	総合演習……………	学習期間終了
ZZ5991	卒業研究……………	192・C

夕 行

CA3105	地域福祉論……………	A
EF3727	知的障害教育……………	D
EE4721	知的障害者の心理……………	D
EE4722	知的障害者の生理・病理……………	D
DD3119	知的障害者福祉論……………	98
EF3730	聴覚障害教育……………	D
EE4725	聴覚障害者の心理……………	D
EE4726	聴覚障害者の生理・病理……………	D
EG4732	重複障害教育総論……………	D
DA3146	統計情報を見る眼……………	C
EC3705	特別活動の指導法……………	F
ET3771	特別支援教育支援員概論……………	D
AT1027	特講（子どもの貧困）……………	85

DT2201	特講・社会福祉学1（介護保険と社会福祉士の課題）……………	194
DT5205	特講・社会福祉学5（社会福祉士国家試験対策講座）……………	A
DT5206	特講・社会福祉学6（精神保健福祉士国家試験対策講座A）……………	A
DT2210	特講・社会福祉学10（スクール・ソーシャルワーク論）……………	196
DT2213	特講・社会福祉学13（福祉産業論）……………	198
DT2250	特講（防災士研修講座）……………	200
FT2604	特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）……………	C
FT2605	特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）……………	C
FT2608	特講・福祉心理学8（ストレスとつきあう心理学）……………	C
FT2609	特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）……………	C

ナ 行

FC2689	人間関係論……………	C
AH1017	人間と教育……………	43
AJ1004	人間と宗教……………	2008年版
DD2215	認知症介護論……………	96
FH3510	認知心理学……………	C

ハ 行

EG4734	発達障害教育総論……………	D
EG4733	発達障害者の心理……………	D
DD2211	発達障害者の地域支援……………	94
DD3161	発達障害者の理解と支援……………	103
FF3524	犯罪非行心理学……………	C
EF3729	病弱教育……………	D
EF4731	病弱教育総論……………	D
EE4724	病弱者の心理・生理・病理……………	D
EC3704	福祉科の指導法……………	D
DF3121	福祉機器論→福祉用具と生活支援……………	134
CC4080	2009～福祉行政と福祉計画……………	A
CE4074	2009～福祉経営論……………	A
DH3123	～2008 福祉計画法……………	152
DE4125	～2008 福祉施設管理論……………	124
DH2109	福祉思想論……………	149
CC2101	福祉社会学……………	A
CC2103	福祉心理学……………	A
AH1003	福祉と経済……………	35
AH1021	福祉と生活……………	学習期間終了
CB3063	2009～福祉法学……………	A
CB3102	～2008 福祉法学……………	E
DA2142	福祉ボランティア活動……………	89
DF3121	福祉用具と生活支援……………	134
DE3143	福祉リスクマネジメント……………	120
AJ1008	文学入門……………	2006年版
AH1007	法の基礎（日本国憲法を含む）……………	40
CD4075	2009～保健医療サービス論……………	A
AB1002	ボランティア論……………	13

ラ 行

FF2522	ライフサイクルと福祉心理学……………	C
DF3122	リハビリテーション論……………	141
FF3503	臨床心理学……………	C
AJ1009	歴史を見る眼……………	2014年版
DL3280	レクリエーション概論……………	169
DL4282	レクリエーション事業……………	178
DL4281	レクリエーション実技……………	174
DK4691	労働法……………	2016年版
FD2517	老年心理学……………	C

『レポート課題集』の活用方法

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を表します。「R：レポート+科目修了試験」「SR：スクーリング+レポート」「RorSR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』p.4（またはp.2）で確認ください。

履修方法＝Sの科目についてレポート課題はありません。教科書の有無も科目によりそれぞれですが、本冊子に「スクーリング講義概要」が掲載されています。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、1単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「1年以上」と記載のある科目は、1年生以上（2～4年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

担当教員欄は、今年度から主としてレポート添削指導をおこなう教員名を提示することになりました（S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、「心理学概論」などのレポートは添削指導員が担当します。

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を示しています。意識して学習を進めてください。

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを多くの科目は15回に分けて掲載しています。一部の4単位の科目は30回に、1単位の科目は8回などに分けられています。ポイントを参考に、教科書を読んでいってください。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は充分理解したことになります。

テーマ部分の（ ）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。過去の版や教科書を所持している方は当てはまりませんが、ポイントの箇所をさがしたり自分で調べたりしていきましょう。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。参考図書を読み、文献に掲げることが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認をお願いします。それ以外の科目は参考図書を読むことは必須とはしていません。学習内容を深めたい場合は、教科書とともに参考図書を読むことをお奨めします。また、先生が掲げた以外の参考図書の活用も可能です。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』6章（2017年版4章）を参照してください。

●アドバイス

レポートをまとめるにあたってのアドバイスが掲載されています。よく読んでレポートに取り組んでください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行います。レポートは学習の途中成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

【レポートにおける観点別ルーブリック評価】

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことからの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①～④のいずれか2つ以上が満たされている。	①～④の3つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年(初版)・引用ページ(引用の場合)を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ(※課題により要求されない場合もある)	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて(事例を挙げる等)まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は何えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

●科目修了試験 評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が掲載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしばって学習してください。

なお、科目修了試験の評価割合についてはとくに指示がない科目では、レポートの合格は必要ですが、試験100%で評価されます。「レポート30% 試験70%」などという基準が記載されている科目は担当の先生が自身で調整をして、レポート分の点数を加味し科目修了試験の採点結果が出されます。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」にあげられた「卒業までに身につけてほしい力」との関連であげたものです。

共通基礎科目



産能大学などの単位互換協定にもとづく科目の単位の一部も、共通基礎科目に含めることができます。
過去に開講されていたが新規履修登録ができない科目は、下表をご覧ください。

共通基礎科目 新規履修登録受付停止中の科目

科目コード	科目名	2016年度の状況	参照レポート 課題集
AM1018	観光と文化	新規履修登録受付停止。科目修了試験終了。 レポート提出は2017年4月1日まで。	2014年度版
AH1006	現代社会を見る眼	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目 修了試験受験は2019年3月31日で終了。	2008年度版
AH1019	子どもと社会	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目 修了試験受験は2019年3月31日で終了。	2008年度版
AJ1004	人間と宗教	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目 修了試験受験は2019年3月31日で終了。	2008年度版
AJ1008	文学入門	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目 修了試験受験は2019年3月31日で終了。	2006年度版
AJ1009	歴史を見る眼	新規履修登録受付停止。科目修了試験終了。 レポート提出は2017年4月1日まで。	2014年度版
AS1023	スポーツ (バレーボール)	新規履修登録受付停止。スクーリング終了。 レポート提出は2018年4月1日まで。	本冊子 p.83

※上記以外の科目については、すでに学習期間が終了しています。

禅のこころ

	単位数	履修方法	配当学年
科目コード	AA1001	担当教員	斎藤 仙邦



■科目の内容

禅といえばあなた方は何を連想するでしょうか。たいていの人は、薄暗い禅堂で足を組んで、目を半分閉じてじっと座っている僧を連想するでしょう。また、実際に座禅を体験したことのある人は、足のしびれや、じっとしていることのつらさとともに、静寂な時間の新鮮な経験や終わったときの爽快感などを思い出すでしょう。

私たちはまた、禅がさまざまな文化現象にかかわっていることも知っています。禅僧の書いた文章、書、墨絵に高名なものが数多くあります。茶の湯や能などの伝統芸能、剣道などの武芸にも禅の精神は生きています。つまり、禅は心を静め、精神を統一し、自らの感性を高めるなかで美意識や自己探求と深くかかわってきました。さらに、禅はストレスの多い生活のなかで不安や悩みを抱える人、あるいはもっと深く、人生の根本問題と向き合っている人、それらの人にとって問題解決のための手段のひとつともなってきました。

以上、禅に関することをいくつかあげてみました。この科目では、通信教育という制約があるため、禅がどのような思想か、また歴史的にはどのように発展してきたのについて理解することを目的とします。しかし理解といっても、歴史、人物、思想内容という事柄の理解だけを求めているのではありません。禅とかかわるなかで、自分とはなにか、生きるとはなにか、人生とはなにかという問題意識をもってもらいたいと思います。

■到達目標

- 1) 禅の歴史と思想について簡潔に説明できる。
- 2) 日本文化と禅の関係について簡潔に説明できる。
- 3) 道元の思想の特徴を簡潔に説明できる。
- 4) 各自で坐禅を体験してみる。

■教科書

柳田聖山著『禅と日本文化』講談社学術文庫、1985年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	禅と日本文化① 禅とはなにか	禅についての概括的理解。	記述は難しくないが時系列や文化圏のスケールが大きいので注意すること。
2	禅と日本文化② 禅の修行	禅の修行の独特なところを理解する。	禅特有の用語についてよく理解できない場合は辞書を参照してみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	禅と日本文化③ 禅の歴史	仏教の開祖であるブツダの教えが禅として中国に伝わり展開する歴史。	ブツダの教えの核となることを理解することが大切です。
4	禅と日本文化④ 日本の禅	禅は日本において現在まで生命を保ち続けた。その日本の禅の近代までの歴史。	禅が日本に伝わる時代の交際関係もよく把握しておくことが大切です。
5	禅と日本文化⑤ 禅の本質 1 生死の自由	人の生の本質は生死である。生きるとは、死とは、その問いに禅がどのように答えたのかが書かれています。	この回から第10回までは思想的、文化的な問題が扱われます。難しいようですがここにいる自分にとって最も身近な問題を扱っています。自分に引き入れて理解してください。さらに、社会福祉系の勉強をされている方には基礎学として重要です。是非よく考察して理解してください。
6	禅と日本文化⑤ 禅の本質 2 本来無事の禅	人はそもそも仏であるという出発点から、その思想により人生において本当の安心とはなにかが書かれています。	安心して生きるとは何か、さらには本当の意味で安心して生きるとはなにかについて考えてください。
7	禅と日本文化⑤ 禅の本質 3 脚下のこととしての禅	「脚下照顧」の意味について学びます。	良く生きるということのヒントです。
8	禅と日本文化⑤ 禅の本質 4 矛盾の哲学としての禅	矛盾の哲学としての禅を西田幾多郎の哲学を用いて説明しています。	純粋な哲学に近いので理解するには難しいかもしれませんが。興味のある人は西田哲学について調べてみましょう。
9	禅と日本文化⑥ 禅と日本人 1・2 禅と日本人の美意識 禅と日本人の死生観	禅が日本人の美意識と死生観に与えた影響の大きさについて学びます。	日本人特有の美意識や死生観について理解を深めておくことは大切です。
10	禅と日本文化⑥ 禅と日本人 3・4 禅と日本人の自然観 禅と日本人の宗教心	日本人の自然観の特徴である人間の文明をも包み込む自然主義について学びます。さらに日本人の宗教観の特徴についても学びます。	自然観や宗教心についての理解も重要です。前回と今回で日本人の内面性の特徴が解説されましたが、そこに禅がどれほど大きな役割を果たしたかについてよく理解してください。
11	純禅の道を求めて① 近世日本の禅を創る－白隠	日本に伝わった宋朝臨済宗を集大成し、日本人の宗教として再編成した白隠について学びます。	この回からは日本における禅の展開について学びます。主要な三人の仏教者が登場しますがその個性的な生涯と思想についてよく理解してください。
12	純禅の道を求めて② 近世日本の仏教改革－隠元	江戸の初めに日本に帰化し、黄檗山万福寺を創建した隠元による仏教改革とその意義について学びます。	日本仏教の宗教儀礼に大きな影響を与えた事実について学んでください。
13	純粋の道を求めて③ 全一の仏法を求めて－道元	曹洞宗開祖である道元の事績と、彼の禅の精神について学びます。	道元の禅思想についてはレポート課題や試験によく出ますから特に丁寧に覚えてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	無字のあとさき①② 唐木順三のこと・狗子と仏性	禅の歴史において第一に有名な公案「狗子に仏性ありや」をめぐる諸問題を扱います。	公案の世界に触れてください。
15	無字のあとさき③ 趙州以後	前節の公案がその後、どのように展開したかについて書かれています。	この章を理解するだけでなく、あとがきも良く読み、筆者のこの本を書いた意図についても考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	教科書の『禅と日本文化』の編 (p.7～122) の論旨を簡潔にまとめなさい。
2 単位め	道元禅の特質についてまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス
筆者は、禅が日本文化に与えた影響を様々な観点から考察し日本文化の特質を論じています。
それぞれの節の終わりではその論旨がまとめられているので、筆者の論の進め方によって極端にならずにまとめてください。感想や自分の意見は必要ありません。文字数以内で最大限必要なことをまとめてください。

2 単位め アドバイス
教科書の「純禅の道を求めて—白隠・隠元・道元」の編 (p.123～236) を読むことが前提ですが、それでは十分でないので他の図書も参考にまとめてください。

■科目修了試験 評価基準

教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」「論理的思考力」「自己管理能力」を身につけてほしい。

■参考図書

鎌田茂雄著『禅とはなにか』講談社学術文庫、1979年
鈴木大拙著『禅仏教入門』春秋社、2000年
道元著『正法眼蔵随聞記』岩波文庫
鎌田茂雄著『正法眼蔵随聞記講話』講談社学術文庫、1987年
道元著『典座教訓・赴粥飯法』講談社学術文庫、1991年
Books Esoterica 第3号『禅の本』、1992年

ボランティア論			単位数	履修方法	配当学年
			2単位	R or SR	1年以上
科目コード	AB1002	担当教員	小野 芳秀		



■科目の内容

ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今どのようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。

本科目のレポートの2単位めの課題は、担当教員が課題を提示する「出題方式」(2-1)、または学習者が関心のあるテーマを自由に課題として設定する「選択方式」(2-2)のいずれかを選択してください。

■到達目標

- 1) ボランティア活動の定義について説明できる。
- 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。
- 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。
- 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。

■教科書

柴田謙治・原田正樹・名賀亨編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年
(最近の教科書変更時期) 2010年8月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアとは何か (第1章)	ボランティアの性格、目的、関連する思想について理解する。 キーワード：自発性、ボランティアリズム、利他主義、互酬性	教科書をよく読み、ボランティアの性格、関連する思想について理解を深める。
2	ボランティア活動の現状と課題 (第2章)	ボランティア活動の現状、課題と動向について理解する。 キーワード：特定非営利活動促進法(NPO法)、地縁型組織、テーマ型組織、CSR(企業の社会的責任)	教科書をよく読み、内容を理解する。なお教科書の表2-3 NPO法人の活動分野」は現在20分野となっている。どの分野が追加されているが自身で調べ確認しておくこと。また認定NPO法人制度についても調べておくこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	ボランティアと現代社会 (第3章)	インフォーマルサービスの担い手としてのボランティアの意義と価値について理解する。 キーワード：インフォーマルサービス、福祉コミュニティ、QOL、社会福祉協議会、ボランティアセクター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
4	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み (第4章)	日本におけるボランティアの普及・推進の歩みについて理解する。 キーワード：COS、セツルメント運動	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
5	ボランティア活動に期待される社会的役割 (第5章)	学び・自己実現の装置としてのボランティア活動の意義、期待される社会的役割について理解する。 キーワード：ノーマライゼーション理念、ソーシャルアクション	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。ボランティア活動が「地域福祉の担い手」にとどまらず、ボランティア自身の「自己実現＝生きがい」につながるとはどのような意味か自分なりに整理してみる。
6	地域社会のボランティア (第6章)	これからの社会に必要とされる地域社会のボランティアについて改めて理解する。 キーワード：ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョン	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
7	環境とボランティア (第7章)	環境ボランティアの具体的活動について理解する。 キーワード：環境活動、環境カウンセラー	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
8	災害ボランティア (第8章)	災害ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：災害サイクル、自立のためのボランティア、災害ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。また、「東日本大震災」等の大規模災害において、被災者の生活復興に関してどのようなことが課題となっているのか自身で調べておくこと。
9	国際ボランティア (第9章)	国際ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：NGO、シンパシー、エンパシー	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
10	ボランティア学習 (第10章)	ボランティア学習の実際、留意点について理解する。 キーワード：ボランティア学習、インフォーマル・エデュケーション	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター (第11章)	ボランティアコーディネーター、ボランティアセンターの意義と役割について理解する。 キーワード：ボランティアコーディネーター、ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
12	ボランティア組織の運営 (第12章)	ボランティア組織の運営と人材育成について理解する。 キーワード：OJT、Off-JT、SD	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
13	ボランティアの可能性と展望 (第13章)	ボランティアの可能性と展望について理解する。 キーワード：ボランティアリズムの逆説	教科書をよく読み、内容を理解する。
14	先人から学ぶボランティア (終章)	日本社会の性質とボランティアに関する考察においてボランティアがどのように捉えられているのか理解する。 キーワード：主体性と互酬、双方向性	教科書をよく読み、内容を理解する。
15	学習者自身の考察 (第1～終章)	学習者自身でボランティアの意義と役割について考察する。 キーワード：自身にとってのボランティア	教科書の第1章から終章までの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してみる。

■レポート課題

1 単位め	<p>以下の1、2の両方の課題に解答してください。</p> <p>1：①「地域コミュニティ」、②「地球環境問題」、③「国際協力」、④「災害とボランティア」のいずれか一つのテーマについて、ボランティア活動の背景としてどのようなことが問題となっているのか説明しなさい。</p> <p>2：上記1で選択したテーマについて、問題解決に向けた取り組みとして具体的にどのような活動が考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>
2 単位め (2-1または2-2の いずれかを選択)	<p>2-1 (出題方式) ボランティアコーディネーターの役割と意義について説明し、ボランティア活動を推進するうえで具体的にどのような取り組み、あるいは仕組み(システム)作りが考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。</p> <p>2-2 (選択方式) ボランティアに関する内容であなたにとって関心のあるテーマを一つ自由に選択し、そのことに対するあなたの自由な意見を述べなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

テキストは一通り目を通されることをお勧めします。各単位の課題ごとの、指定箇所をよく読んで理解を深め、キーワードを参考にしながら課題を整理しましょう。

2 単位めの課題をレポートに記載する際は、「2-1」または「2-2」の番号を明記してください。**レポート学習が初めてという方は、「2-2」の「選択方式」から取り組んでみてください。**

1 単位め アドバイス

1：テキストの第5～9章を参考に、①「地域コミュニティ」、②「地球環境問題」、③「国際協力」、④「災害とボランティア」のいずれか一つのテーマを選択し、どのようなことが問題となっているのか整理しましょう。

2：①～④のテーマにおける活動の具体例は、学習者自身の活動経験を問いません。日常生活の中であなたが必要と考える活動、またそれらの活動を支援するための仕組みとして考えられるもの等、あなたの自由な意見を述べてください。なお、1と2で選択したテーマが同一である必要はありません。

2 単位め アドバイス

2-1 (出題方式)

テキストの第11・12章を参考にボランティアコーディネーターの必要性や有用性について述べてください。また、地域におけるボランティア活動を活性化するための方策についてあなたの自由な意見を述べてください。実際の取り組み事例等の紹介でも構いませんが、その場合、現在抱えている課題や改善案についても述べてください。

①タイトル
②序 論
③本 論
④結 論
(⑤参考文献)

図1：「2-2」課題のレポート構成

2-2 (選択方式)

ボランティアについて関心のあるテーマを自由に選び、構成(図1)を参考にレポートを完成させてください。(例)は、あくまでもレポートの内容を具体的にイメージして頂くための参考例です。例示にとらわれることなく自由に作成してください。

①タイトル→(例)「ボランティア組織の運営における個人負担を軽減させる方法について」等。

②序 論→レポートで「何について書こうとするのか」を明らかにします。また、何故このテーマを選択したのか自身の動機や問題意識について述べてください。

(例)「ボランティア団体が特定の個人に負担を強いる形で運営されている場合、どのようにしたら個人の負担を軽減することができるのか、組織運営方法の改善策について考えてみたい」等の内容。

③本 論→「序論」で提起したテーマについて具体的にどのようなことが課題になっているのか、それに対して調べた内容、具体的解決策や自身の考え等を自由に述べてください。

(例)「実際にどのようなことが問題となっているのか」、「調べた結果どのような解決策があるのか」、「課題に対して自身はどのような解決策を考えるのか」、「自身はどのようにその問題を考えるのか」等。

④結 論→序論で述べたテーマの「答え」についてまとめてください。

(例)「以上、〇〇という課題に対して、～という解決策があることについて述べた」等の内容。

⑤参考文献→引用や参考にした文献・資料等があれば明記してください。表記方法の詳細については『学習の手引き』等を参考にしてください。「番号」、「著者名（編者名）」、「書名（論文名）」、「雑誌名・巻数」、「出版社」、「出版年次」、「引用ページ」（特に引用したページがなければ「出版年次」までの記載で可）の順。

(例) 1) 柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい, 2010年 p.78

課題テーマの例としては、「中高生の学校教育におけるボランティアの単位化の是非について」、「善意とボランティア活動について」、「自身のボランティアに対するイメージ」、「ボランティアに関する新聞記事から考えたこと」、「ボランティアの運営に関すること」、「ボランティアを受ける側からの視点」等、ボランティアに関係するテーマであればどのようなものでも構いません。

◆2単位め選択問題のレポート内容を学習に関する研究データまたは教材として活用させていただくことにつきましてご理解とご協力をお願いいたします。なお、レポートの使用にご同意頂けない方は、レポートの1ページ目の余白にその旨を明記してください。レポートは上記の目的以外、個人が特定される形での使用はいたしません。なお、使用の諾否がレポートの評価に反映されることは一切ありません。

■科目修了試験 評価基準

試験問題に沿って自身の見解や適切な解答が記述されているかを問います。

教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「応用的知識」「レポート作成力」「問題解決力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

科学的な見方・考え方

	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R or SR	1年以上
科目コード	AB1020	担当教員	大内 真弓



■科目の内容

現代の生活において、メディアでは数多くの情報が瞬時に飛び交い、欲すれば余りあるほどの情報が容易に手にできるようになりました。しかし、自分では十分に理解していると感じている情報をいざ誰かに説明しようとしてみると、意外とうやむやな理解であったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきな論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられ、指摘されると気付く場合も多いようです。特に通信教育のように「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった（書きたかった）」、「そういう意味も含めて書いた」と思って書いていても、実際に文字になって表れていなければ読み手側には全く伝わりません。またどんなに素晴らしい意見やもっともらしい結論であっても、そこに至る道筋（説明）が納得のできる展開になっていなければ、単なるアイデアやひらめきと言われても仕方のないことです。

池内了は『科学の考え方・学び方』の中で、いわゆる理系分野である自然科学では科学の構造を「自然現象」―「物質の運動」―「法則」というつながりと考えることができる、と説明しています。さらに、深く考察すれば人間や社会の動きにも一定の法則性が認められ、どのような原理のもとに、どのような行動（運動）をとったか、それはどのような結果（現象）になったかというつながりの中で理解できる、と続けています。ここにも「現象」―「運動」―「原理」という構造があるというわけです。大学では後者を人文科学と呼んでいます。他にも、社会を人間と対比した形とみなしてひとつの研究対象とする社会科学や、人間研究のうち特に人間行動にかかわる分野を行動科学とする分類などがあります。つまり学問として考えるということは、科学的に考えることを意味します。その考える過程では、突如としてアイデアやひらめきが生まれ、時には飛躍があったり堂々巡りがあったりするかもしれません。しかし科学的に考えたことを示すということは、結論までの道筋（説明）で生じている隙間を丹念に補い、誰にでも納得できるように簡潔な表現で全体を再構成することで、論理的に説明できることが要求されます。論理的に説明するひとつの方法として、資料（図または表）の利用があげられます。文章だけで進めるよりも、資料を提示しその分析結果を述べることで、わかりやすくより説得力が増す内容に仕上げることが出来ます。本科目では自身の考えを論理的に組み立て、資料を利用して表現する力を養う一助となることを目指します。

■到達目標

- 1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。
- 2) 聞かれていることに的確に答えることができる。
- 3) 資料で示されている内容を、正確に読み取ることができる。
- 4) 先入観や一般論を混在させずに、事実のみを根拠とすることができる。

- 5) 飛躍がないように論理を組み立て、他者を納得させることができる。
- 6) 科学的根拠により納得できたか否かを明確に判断できる。

■教科書

野矢茂樹著『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	論理とは何か (序章)	思考の結果を、「できるかぎり一貫した」「飛躍の少ない」「理解しやすい形」で表現する。	思考の道筋をそのまま表現するのではなく、できるかぎり平易な言葉を用います。また、「相手に正確に伝える」ということを意識して、文章の組み立てや順番にも配慮しましょう。
2	さまざまな接続関係 (第1章)	さまざまな主張のつながりを正確に把握する。	言葉と言葉の関係をていねいにとらえてみましょう。前後の文章を含んで繰り返し読み、内容を正確に把握しましょう。
3	接続の構造 (第2章)	議論を読み解くトレーニングをする。何気ないところにも注意して、ていねいに考えながら読み、全体の意味を把握する。	先入観にとらわれることなく、示されている事実のみを正確にとらえましょう。
4	議論の組み立て (第3章)	議論の構造をとらえる段階を経て、組み立てられるようになる。	伝える順番に気を配るだけでもわかりやすさが異なります。また、全体の主張の方向を常に意識しながら組み立てましょう。
5	論証の構造と評価 (第4章)	根拠を挙げながら主張し、議論を構築する。	単に主張を並べただけでは議論にはなりません。何を言いたいのかだけにこだわらずに、なぜそう言えるのかを合わせて示す習慣をつけましょう。
6	演繹と推測 (第5章)	演繹と推測の違いを理解し、ある事柄を根拠として何らかの結論を導く手法を獲得する。	事実をもとにして議論を進めていく際に、論理に飛躍や矛盾が生じないように配慮しなければなりません。まずは、これらの手法が使われる目的の違いをしっかりと把握しましょう。
7	価値評価 (第6章)	価値や判断を巡る主張において、それを推奨・推進する根拠、あるいは逆に拒否・抑止する根拠の扱いを理解する。	仮定を含む論証の場合には、どのような良いことが生じるか、あるいはどのような悪いことが生じるかを指摘し、それによってその選択をすべきか否かを判断するという形をとります。このような論証の構造に迷わされないようにしましょう。
8	否定 (第7章)	ひとくちに否定といっても、そのあり方は否定する主張に応じて異なる場合がある。議論を混乱させないために、否定について確実に理解する。	「それは違う」と否定されたことのみ反応して議論を空転させないように、どの部分を否定しているのか、どのタイプの否定なのかを正確に把握することが重要です。
9	条件構造 (第8章)	条件文の構造を持った主張を使いこなすための基礎トレーニングを行う。	単純な形であれば間違いは起こりませんが、複雑な形になってくると案外混乱をまねくことが多くなります。「逆・裏・対偶」を例に、確実に使いこなせるようにしておきましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	推論の技術 (第9章)	存在文を含む推論、消去法、背理法を理解しマスターする。	平易な文章を例にして繰り返しトレーニングすれば、容易に理解することができます。これら3つの技術を使いこなせば、表現の幅が大きく広がります。
11	批判への視点 (第10章)	議論を作るために、自分の意見にも常に批判的でなければならない理由を理解する。	自分の議論を組み立てるときには、常に自分自身に対して批判のまなざしをもち、それに答えられるようにして議論を組み立てていくと、全体として説得力のある主張を作ることができます。
12	論文を書く① (第11章)	問題のポイントをつかむ。	「自分の言いたいことを述べる」ことを求められているのに、与えられた字数を埋める習慣から抜け出せないでいると、何について論じているのかさえも不明瞭になります。主張の明確な文章を書くためには、テーマの設定は大変重要なポイントです。
13	論文を書く② (第11章)	問題を分析し、主張の方向性を検討する。	「なぜそれを言いたいのか」という明確な動機がないままに、言いたいことから、または言えることから書いていくと、著者の意見がどこに向かうのかがあやふやになり、主張が弱い文章になります。筋を通した展開になるように、常に議論の方向を意識しましょう。
14	論文を書く③ (第11章)	文章を組み立てる。	それぞれの文章の主張はわかるものの、順序を考えないで羅列したために、全体として非常に伝わり難い構成になってしまう場合があります。全体の流れを意識して組み立て、随所に客観的な科学データを挿入すると、読み手に伝わり易い文章になります。
15	論文を書く④ (第11章)	推敲し論文を完成させる。	要求されている字数の9割以上を目標にしてみましよう。さらに、字数を満たすことで満足することなく、時間をおいて読み直し、誤字脱字はもちろんのこと、全体の構成や展開も再検討し、完成度を高めて提出しましょう。

■レポート課題

1 単位め	(1) テキスト68ページの練習問題4の問2について、解答例以外の解答をできるだけ多くあげなさい。 (2) 同上の問題文を読み、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ自分自身の考察を述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（別レポートは論述式）
2 単位め	(1) テキスト159ページの練習問題10の問5において、(例1)～(例4)からひとつの論題を選び、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ解答しなさい。 (2) 自分で論題を設定し、上記(1)に準じて解答しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（別レポートは論述式）
3 単位め	テキスト167ページの課題1について、テキストを参考にして論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。

4 単位め

環境問題に関するテーマを設定し、自分自身の考察を十分に入れて論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1～4 単位めまでの課題は、その流れに沿って学習を進めることで徐々に理解が深まり、次第に力がついていくものと思われますので、数字の順に従って課題に挑戦することをお勧めします。

1 単位め
アドバイス

課題(1)については、第4章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、丁寧に読み進めて理解を深め、できるだけ多くの解答をあげてください。

課題(2)は、課題(1)と同じ問題文を読んで、賛成でも反対でもどちらでもかまわないので、自分自身の考えを述べることを求めています。ただし科学的に考えることを要求している科目であるため、主観的な意見では納得できません。資料を用いることを要求していますので、インターネットや新聞、書籍などを検索して、論理を進めるために適した資料を見つけ出してください。適切な資料を見つけたら、コピーまたは印刷などをして保存しておきます。その資料を丹念に分析し、レポート中でその分析結果を述べ、そのページに上端部分のみ貼付してください。レポート中では出典を明らかにして「図(表)1に示すように～」「～の結果を図(表)2に示す。」というように提示し、その資料が何を示しているのか、どのように解釈できるのか、この論理にどうかかわるのか、などを詳細に述べてください。その資料の信憑性が低ければ、論理を補強するものになり得ませんから、論理に説得力を持たせるためには、可能な限り公的な資料であることが望ましく、資料の選択は大変重要となります。このような論理展開からこの結論が導かれるのであるなら、読み手が賛成派であっても反対派であっても十分に納得できるというレポートを書いてください。

課題(1)と課題(2)の字数配分については、恐らく課題(2)の方が圧倒的に多くなると予想できますが、それぞれに特に制限は設けませんので、全体で提示されている字数の9割以上となるようにしてください。

なお、数字の表記方法は、2桁以上の場合原稿用紙1マスに2つずつとします。この基本はすべての課題に共通です。

2 単位め
アドバイス

課題(1)については、第10章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、4つの例から1つを選び解答してください。論理を展開する上で、1単位めと同様に資料を貼付することを要求しています。1単位めの解説を参考にして同様に取り組んでください。

課題(2)は、課題(1)と同様に進めますが、自分で論題を設定してください。同じく資料を貼付することを要求していますが、論題に合わせた資料を探すのが難しいと感じた場合は、利用しやすい資料を先に探してから論題を設定するという方法でもかまいません。

3 単位め アドバイス

いよいよテキストも終盤です。第11章の流れに沿って考え、2,000字のレポートを仕上げてください。結論は賛成論でも反対論でもどちらでもかまいません。適切な資料を貼付し、著者の考察を入れて自由に論じてください。ただし、長くなると文章を組み立てる基本が曖昧になってしまうことがあるため、十分に推敲し矛盾のないように述べてください。

4 単位め アドバイス

本科目の総括として、「環境問題」と言われるなかから自由にテーマを選び論題を設定し、資料を貼付しかつ十分な考察を交えて論じてください。「環境問題」にかかわる内容であれば問題となっている地域や社会における注目度などは問いませんが、テーマの選択は大変重要です。最も関心のあるテーマであれば、好奇心が掻き立てられるため比較的スムーズに進められると思います。ただ、資料が少ないテーマを選択した場合は、論理を展開する上で十分な裏付けができなくなり、主観に偏った流れになる恐れがあります。そういう意味では、関心の度合いのみで選択するのではなく、まずは数多くの資料に当たってみて、そのなかから興味の得られるものを選択する方法が望ましいかもしれません。資料は納得できる論理を展開する上での重要な武器ですので、慎重に選択してください。以下に環境問題と関係する Web ページアドレスをいくつかあげますので、参考にしてみてください。

環境省 <http://www.env.go.jp/>

環境 goo <http://eco.goo.ne.jp/>

PET ボトルリサイクル推進協議会 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/>

アルミ缶リサイクル協会 <http://www.alumi-can.or.jp/>

スチール缶リサイクル協会 <http://www.steelcan.jp/>

公益財団法人古紙再生保健センター <http://www.prpc.or.jp/>

日本ガラスびん協会 <http://www.glassbottle.org>

チームマイナス6% <http://www.team-6.jp/>

JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>

福祉と環境には接点が見出せないと思われるかもしれませんが、生活環境の実情を知り改善していくことは、より良い生き方をするために、そしてより健康に生活するために必須であると考えられます。地球規模的な問題も取り上げられていますが、ぜひ他人ごとと片付けずにそれぞれの目線で考えた問題として捉え論じてください。

参考図書として以下に3冊をあげます。1冊目1)は、主に科学的な考え方をするということがどういうことかを、若い世代へのメッセージとして大変平易に述べられており読みやすいものです。ただし、具体的な例として述べられているのは、自然科学の分野についてです。2冊目2)は科学雑誌に連載されたエッセーをまとめたもので、さまざまな視点から考えている姿勢が楽しさを増します。3冊目3)は2冊目の著者の専門分野である動物行動学を切り口として、生物の持つ不思議な特長について読み解くことを試んでいます。著者は「生物がつまらない暗記科目などではないことを知って欲しい」ために書いているので、論理的思考を学ぶためだけでなく、生き物についての読み物として大変面白いと思います。ただ、いずれの参考図書を手にしたとしても、自身が丹念に考え考察し、

導き出した論理を組み立てるトレーニング抜きには目標は達成できません。そういう意味での参考図書であることをご理解ください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 自分の主張をわかりやすく述べることができる。
- 2) 自分とそれ以外の意見を明確に分けて論じることができる。
- 3) 科学的なデータを正確に読み取り分析することができる。
- 4) 図や表の正しい引用方法を理解し、実践に用いることができる。
- 5) 科学的なデータ（図や表）から得られた情報を活用し、説得力のある議論を構成することができる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」「問題解決力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 池内了著『科学の考え方・学び方』岩波ジュニア新書、1996年
- 2) 長谷川眞理子著『科学の目 科学のこころ』岩波新書、1999年
- 3) 長谷川眞理子著『生き物をめぐる4つの「なぜ」』集英社新書、2002年
- 4) 狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方』慶應義塾大学出版会、2015年

基礎演習

	AB1145	担当教員	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			1単位	S(演習)	1年以上
科目コード	AB1145	担当教員	寺下 明(上)/門脇 佳代子(中)/ 小野 芳秀(下)		



※本科目は2016年度より専門選択科目から共通基礎科目に科目区分が変更されました(2016年度以降の履修登録者は共通基礎科目(科目コード AB1145)となります)。

※2015年度までに履修登録済みの方へ

2016年4月に、科目コード AB1145に変更されています。一部の方は、科目コード DA2145のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

本科目では、人間や社会に関する様々な諸問題から自由にテーマを設定し、グループ毎に話し合い、議論された内容について資料を作成し、最後にグループ発表を行っていただきます。一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加する演習形式です。受講生の自由な視点からの、活発な議論を期待します。またグループ学習を通じ、普段の学習方法についての情報交換や学習仲間を作る機会にもしてください。

■到達目標

- 1) 一つのテーマや話題について討議し、他者の意見を傾聴しながら、新たな気づきを得、またそれらを自身の中で再構築し表現することができる。
- 2) レジュメの作成を通じてレポート学習の手順を理解し、要点を押さえたレポートを書くことができる。
- 3) 学友の輪を広げることができる。

■教科書

特に指定しません。自身が関心を持つテーマの資料等があればスクーリング受講時に持参してください。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・グループ分け・テーマ設定
2	グループワーク①	資料を元にグループで話し合い
3	グループワーク②	資料を元にグループで話し合い
4	グループワーク③	資料を元にグループで話し合い

回数	テーマ	内容
5	グループワーク④	レジュメの作成
6	グループ発表①	グループ発表と討議
7	グループ発表②	グループ発表と討議
8	スクーリング試験	グループワークの感想をまとめる

■講義の進め方

グループワークとグループ発表、個人レポート（感想）提出を行う。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（80％）＋スクーリング試験（20％）で評価。グループワークや討議への参加状況や発表内容から総合的に評価します。グループ内で積極的に協力し合い、必要に応じて助け合って課題に取り組んでください。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。自身に関心を持つテーマの資料等があればスクーリング受講時に持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

福祉・心理・教育等の分野から関心のあるテーマ（格差・障害者支援・子育て等）について、話題提供ができるよう概要を整理し、ある程度自身の見解を持ってスクーリングに臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

演習で取り組んだテーマについて、不明点や調べ足りなかった部分があれば、各自でさらに掘り下げてみましょう。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「コミュニケーション力」「レポート作成力」「情報コミュニケーション技術 (ICT) 活用力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

情報処理 I

	単位数	履修方法(授業形態)	担当学年
			2単位 R or SR(実習) 1年以上
科目コード	AB1332	担当教員	岩田 一樹



2014～2015年度にかけて社会福祉学科・福祉心理学科の学生に対して、「共通基礎科目」扱いの科目となりました。

Microsoft Office2013（もしくは2016or2010）がインストールされた Windows パソコンが必要となります。課題はメールによる提出となります。

スクーリング受講の場合は、p.34記載の受講条件の達成が必要です。

■科目の内容

かつて、情報処理技術は、一部の専門家のみが扱う技術でした。しかし、近年では、電子メールによる意思疎通、ブログによる情報発信、さらには、SNS（Social Networking Service）を介する擬似社会の創出等、一般の人々にまで情報技術の利用が浸透してきました。

一方、職業人における情報処理技術は、ワープロ・表計算といったソフトの操作、ネットワークとデータベースを利用した種々の情報管理・分析・活用と、専門性が特化されてきています。このような状況の下で、基本的な情報処理技術（統計処理等）を身につけておくことは必須のものとなっています。

本科目では「情報機器の操作」として、Microsoft 社の Windows と Office の基本的な操作を習熟することを目的としています。

■到達目標

本科目の到達目標は、「データを自分で分析し、その内容を発信できるようになる」ことです。

この目標を達成するため、

- 1) 文書作成技術の習得を目的とした Word の基本的な操作法についての課題
- 2) 数的データ分析技術の習得を目的とした Excel の基本的な操作法についての課題をレポート課題として設定しています。

そして、修了には、現実の統計データを与え、各々でそれを数値分析・図表化し、論理的な結論を導く課題を課しています。

■教科書

『学生のための Office2013 & 情報モラル』 noa 出版、2014年

(最近の教科書変更時期) 2014年 4月

※スクーリング受講者で、Office2010対応の教科書をお持ちの方は、必要部分のコピーを配付します。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	書体の操作	書体の変更法を修得する	文章は“文字”によって構成されますが、その可読性、視認性、判読性は書体に大きく左右されます。書体の特性を理解し、適切な書体を選択することで、伝わりやすい文章の作成ができます。
2	文書体裁の操作①	インデント、文字間の設定法を修得する	文書は、文字と余白から構成されますが、余白は文書を一瞥した際の印象に大きな影響を与えます。適切なインデント、文字間を使用することで、読み手に伝わりやすい文書の作成ができます。
3	文書体裁の操作②	行間、段落間の設定法を修得する	文書は、文字と余白から構成されますが、余白は文書を一瞥した際の印象に大きな影響を与えます。適切な行間、段落間を使用することで、読み手に伝わりやすい文書の作成ができます。
4	文書検索と置換	文書内から特定の文字列の検索、および、文字列の置換法を修得する	検索は作業効率と関連がありますが、このことは、文書内においても、例外ではありません。検索したい語を素早く検索でき、場合によって、特定の語を全て置き換える等の処理を修得することで、作業効率を上げることができます。
5	表の挿入	表の挿入法を取得する	数字をただ並べるよりも、表を用いた方が、受け手に内容を伝えやすいことは少なくありません。文書内に表を作成し、書式設定を自在に操作することで、より受け手の理解を得られる文書の作成が可能となります。
6	図の挿入	図の挿入法を取得する	文書の内容は、文章のみで説明を行うよりも、図を用いて、視覚的に伝えた方が、迅速に読み手に伝わります。文書内に、図を作成したり、挿入したりすることで、より受け手の理解を得られる文書の作成が可能となります。
7	文書体裁の操作③	ページ設定法を修得する	1ページに記載される情報の分量は少なすぎても、多すぎても、内容が伝わりにくくなります。適切なページ設定を行うことによって、受け手が理解しやすい文書、レポートの作成ができます。
8	スタイルの設定	スタイル設定法を修得する	Wordには“スタイル”という機能があります。適切なスタイルを作成し、それ設定することで、書式設定の回数を削減することができ、効率的に書式の整った文書を作成できるようになります。
9	関数の使用①	関数の検索方法と操作法を修得する	関数の使用によって、データ分析が効率化できます。関数を使用するには、まず、目的の機能を有する関数を検索し、その使用方法を調べる必要があります。特に使用頻度の高い関数を例に、引数や、それを参照する順番等を学ぶことで、関数使用についての大まかなイメージを掴みましょう。
10	関数の使用②	分岐がある関数の操作法を修得する	人が判断を行うように、判断（分岐）を行う関数が存在します。分岐を含んだ関数を適切に使用することで、それまで、手作業でしか実施できなかった処理を自動化し、作業を効率化することができます。
11	罫線操作	罫線の操作法を修得する	表は、その見栄えによって、受け手が負う負担が大きく左右されます。罫線の種類を適切に選択し、読み手が見やすい表を作成しましょう。
12	ページの設定	ページ設定法を修得する	1ページに記載される情報の分量は少なすぎても、多すぎても、内容が伝わりにくくなります。適切なページ設定を行うことによって、受け手が理解しやすい表の作成ができます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	データ分析①	並び替えの方法を取得する	データ分析において多用される処理は、並び替えと抽出です。並び替えとは、ある規則に従って（例えば、大きい順、小さい順 等）データの順番を変えることです。表内における特定の情報で並び替え処理を行うことで、得られたデータの特徴を見出すことができます。
14	データ分析②	抽出方法を修得する	データ分析において多用される処理は、並び替えと抽出です。抽出とは、特定の項目（男のみ、65歳以上のみ 等）に属するデータのみを表示することです。得られたデータにおいて、特定の項目で抽出処理を行うと、標本の特性を見出すことができます。
15	グラフ作成	グラフ作成法を修得する	データの内容は、表のみで説明を行うよりも、グラフを用いて、視覚的に伝えた方が、迅速に相手に伝わります。適切なグラフを用いて、データを整理することで、より相手の理解を得られる文書の作成が可能となります。

■レポート課題

1 単位め

以下に記すいくつかの Microsoft Word の操作手順の解説文書を作成してください。解説文書は Microsoft Word を使用して作成してください。また、手順の解説は、画面のキャプチャー画像を用いて、どのような手順で操作を行うのか、手順1つ1つを詳細に、わかりやすく説明してください（目安として、中学生が読んで理解できる内容）。解説は、すべての問について1つのファイルに作成してください（操作画面のキャプチャー方法は「アドバイス」で解説します）。

1 1 ご自分のお名前を入力して次の書式設定を行う操作手順

- (ア) フォントを「MS ゴシック」に設定する。
 - (イ) フォントサイズを24に設定する。
 - (ウ) 中央寄せする。
 - (エ) フォントの色を「赤」にする。
 - (オ) 文字列を太字に設定する。
 - (カ) アンダーライン（下線）を引く。
- ・段落の書式設定（文字寄せ、インデント、タブ）。

2 2 次の文章を入力して、インデントの設定を行ってください（なお、[] で囲まれている箇所は記載する必要はありません）。

[次の文章を入力して1行目に1字の左インデントを設定。2行目以降のふら下げインデントは0字に設定]
「さて、過日ご請求いただきました弊社新商品パンフレットを送付いたします。ご検討いただき、なにとぞご用命いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。」
[次の文章を入力して全体に左2字、右2字のインデントを設定]
「日時_20XX年8月6日(☆) 12:00(雨天の場合は延期)
目的地_香澄公園 野外炉」

3 3 「日時」と「目的地」の後にある「_」を tab に置き換えて、この2行に「タブとリーダー」設定を行い、「20XX」と「香澄公園」の開始位置が「10」にそろるように設定。

4 4 「日時」と「目的地」を均等割り付け設定で6字に設定。

5 罫線の作成と編集

- (ア) 5行×4列の表を作成する。
- (イ) 列幅を1列目40.9mm、2列目50mm、3列目17mm、4列目50mmに設定する。
- (ウ) 1行目の1列目と2列目を結合する。
- (エ) 表全体を4文字分右にインデントする。

6 図形描画

- (ア) 下記の文章を入力して、適当なクリップアートを挿入し、「文字列の折り返し」に「四角」を設定して文章の右にクリップアートが来るように設定する。

「そろそろ待ちに待った夏休みがやってきます♪。エコサークル Wings では、サークル設立5周年記念イベントとして、『エコなバーベキュー大会』を香澄公園にて実施します。友人やクラスメイトを誘ってレッツバーベキュー～！」

7 印刷設定：1ページの行数を「40行」に設定する。**8 ページ番号の挿入**

- (ア) ページ番号を「ページ下部」に挿入してください。その際に「番号のみ3」を選択してください。
- (イ) ページ番号の書式設定で「1ページ」「2ページ」のように、「ページ数」の後ろに「ページ」という文字が表示される書式を設定してください。

9 スタイル設定

- (ア) 次の文章を入力して、「第1章 小学生の携帯電話所持について」に「見出し1」のスタイルを設定、「第1節 大人側の視点」に「見出し2」のスタイルを設定してください。

「第1章 小学生の携帯電話所持について
 第1節 大人側の視点
 小学生が携帯電話を所持することにより、不当請求されるゲームや社会犯罪に巻き込まれるケースも多く発生している。そのため、大人は子どもの携帯電話所持を危惧への窓口としてとらえがちである。」

作成したレポートは「課題1（自分の学籍番号氏名）」というファイル名で保存し、メールに添付して提出してもらいます。提出先のアドレスは ur@tfu-mail.tfu.ac.jp です。宛先欄に入力し、「件名」を「情報処理1課題1（自分の学籍番号 氏名）」とし、本文に何かひと言入力してから、添付・送信してください。

2 単位め

以下に記すいくつかの Microsoft Excel の操作手順の解説文書を作成してください。解説文書の作成には Microsoft Word を使用してください。手順の解説は、画面のキャプチャー画像を用いて、どのような手順で操作を行うのか、手順1つ1つを詳細に、わかりやすく説明してください（目安として、中学生が読んで理解できる内容）。解説はすべての問について1つのファイルに作成してください（操作画面のキャプチャー方法は「アドバイス」で解説します）。

1. 関数挿入ダイアログボックスの使用方法：IF 関数を例に、関数挿入ダイアログボックスの使用方法を解説してください。
2. 罫線設定の中で「格子」「外枠太罫線」「二重線」の設定方法を解説してください。

3. 「印刷」メニューで「印刷の向き」を変更する方法を解説してください。

4. シート名の変更方法を解説してください。

5. データの並べ替え

次の表は、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成22年3月31日現在）」の「平成22年住民基本台帳年齢別人口（都道府県別）」より作成した、東北6県の男女別人口と、男女別65才以上人口です。この表を Excel の新しいブックに作成して、次の問に答えてください。

県	ふりがな	男性	65才以上男性	女性	65才以上女性
青森県	あおもり	667,377	141,526	738,158	212,378
岩手県	いわて	645,922	146,227	699,085	214,322
宮城県	みやぎ	1,132,240	217,767	1,197,104	299,023
秋田県	あきた	523,940	127,913	584,297	193,693
山形県	やまがた	566,781	131,708	609,978	189,499
福島県	ふくしま	998,942	207,901	1,052,684	294,801

- (ア) 新しい列を右に追加して計算式を使って、各県の男女を合計した人口を求める手順を解説してください。列名は「人口」と入力してください。
- (イ) 新しい列を右に追加して計算式を使って、各県の65才以上の男女を合計した人口を求める手順を解説してください。列名は「65才以上人口」と入力してください。
- (ウ) 新しい列を右に追加して計算式を使って、各県の人口に占める65才以上の割合を求め、%表示する手順を解説してください。列名は「65才以上人口割合」と入力してください。
- (エ) 表全体を65才以上人口の割合が高い順で並べ替える手順を解説してください。

6. 積み上げ横棒グラフの作成

次の表は、上記の表から「65才以上男性」と「65才以上女性」の人口データのみを取り出したものです。この表を Excel のワークシートに作成して、このデータを元にした「積み上げ横棒グラフ」を作成する手順を解説してください。ただしグラフは次の条件を満たすものとしてください。

- ・縦軸は「軸のオプション」の「軸を反転する」チェックボックスをオンにして、縦軸項目が「青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島」の順になるように設定。
- ・このグラフが表しているデータに適切なタイトルを自分で考え、グラフタイトルを追加。
- ・凡例の位置を下側に変更。
- ・横軸ラベルとして「人」を追加。

県	65才以上男性	65才以上女性
青森県	141,526	212,378
岩手県	146,227	214,322
宮城県	217,767	299,023
秋田県	127,913	193,693
山形県	131,708	189,499
福島県	207,901	294,801

作成したレポートは「課題2（自分の学籍番号氏名）」というファイル名で保存し、メールに添付して提出してもらいます。提出先のアドレスは ur@tfu-mail.tfu.ac.jp ですので、「宛先」欄に入力し、「件名」を「情報処理1 課題2（自分の学籍番号 氏名）」とし、本文に何かひと言入力してから、添付・送信してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

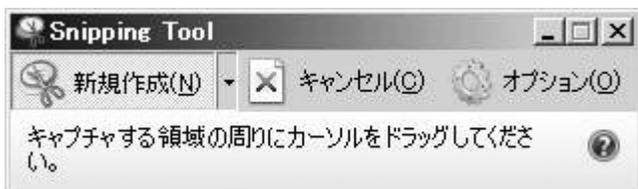
本科目の性格上、Windows OS がインストールされているパソコンを操作することが主題となります。そのためパソコンがあること、インターネット接続と電子メールの送信ができる環境があることが前提となっています。

課題については Windows 版の Microsoft Office2010または2013または2016がインストールされていることが前提です（Mac 版は不可）。教科書である『学生のための Office2010 & 情報モラル』または、『学生のための Office2013 & 情報モラル』の内容を学習した後に、テキストを参照しながら取り組むことを想定しています。

教科書だけでは解決できない問題があった場合は、Windows のスタートボタンをクリックし「ヘルプとサポート」を使用し、必要な情報について検索を行ってください。

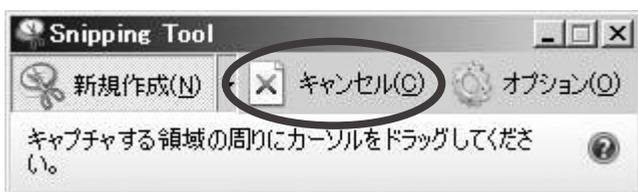
(1) 操作画面キャプチャーの方法について

Windows 7 ならびに 8 には操作画面を取り込むための「Snipping Tool」というソフトウェアがあります。Windows7においては「スタート」ボタンをクリック→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「Snipping Tool」を選択することで起動します。Windows8においてはマウスを右下に合わせ、「すべてのアプリ」→「Snipping Tool」をすることで起動します。くわしい操作方法については、下記の図のをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

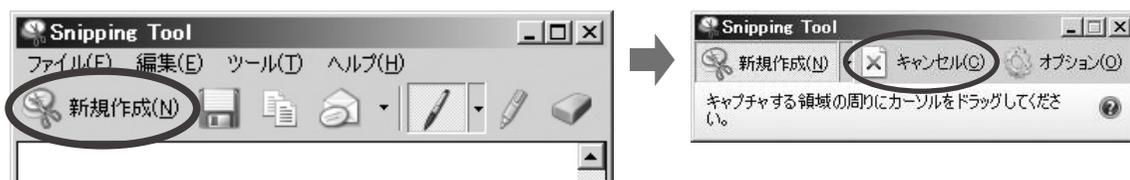


操作中の Word や Excel の状態をそのままキャプチャーする手順は次の通りです。

① Snipping Tool が起動したばかりの状態であれば「キャンセル」ボタンをクリック。



すでに何かキャプチャーしている状態であれば、「新規作成」をクリックしてから、「キャンセル」をクリック。



②右の図のような、プルダウン状態をキャプチャーするには、プルダウン状態でキーボードの [Ctrl] キーを押しながら [PrintScreen] キーを押します。詳しくは Snipping Tool のヘルプから「メニューの切り取り領域をキャプチャーするには」を参照してください。なお [Print Screen] キーはパソコンの機種によって [Print Scn]、[PrtScn]、[Prt Sc] というように、省略された名前になっている場合があります。またノートパソコンの場合 [Fn] キーを押しながら操作する場合があります。Print Screen キーが見あたらない場合は、使用しているパソコンの説明書を確認してください。



キャプチャーした図は、「ファイル」メニューの「名前をつけて保存」で、「ファイルの種類」を「ポータブル ネットワーク グラフィックス ファイル (PNG)」に設定して、適当なフォルダに保存してください。



保存した画像を Word に読み込んで使用する手順はテキスト41ページの「図の挿入」を参照してください。

※ 「Snipping Tool」がインストールされていない場合

Snipping Tool が見あたらない場合でも、Print Screen キーを操作して操作画面をキャプチャーすることができます。詳しく「ヘルプとサポート」で「ヘルプの検索」キーワードに「printscreen」と入力して検索されるヘルプ項目から「画像の取り込みを行う (PrintScreen)」を選択して、取り込み方法を確認してください。Snipping Tool を使用しない場合、Print Screen キーを押すと画面全体が画像データとしてクリップボードに取得されます (Alt キーを押しながら Print Screen キーを押すと現在操作している画面のみキャプチャーされます)。これを Word に「貼り付け」すると、解説したい部分よりも、解説と関係のない部分の方が大部分になってしまふことがあります。その場合、「書式」メニュー(貼り付けた画像をクリックするとメニューバーの中に出現します)の中の「トリミング」を使用して、不要な部分をカットしてください。トリミングについての解説が Word のヘルプ項目「図をトリミングする」に掲載されています。

● 1 単位め解説

この課題では、操作手順をできるだけ詳しく、わかりやすく解説してください。操作方法の解説を作成することが最終的なゴールとなります。操作を行っただけでは不可です。例えば課題1-(ア)では入力されている自分の名前のフォントを「MS ゴシック」に設定する方法を解説しなければなりません。例えば次のような解説を想定しています。

1-(ア) 名前のフォントを MS ゴシックにする

①「福祉太郎」を範囲指定する。

福祉太郎

②「ホーム」タブの「フォント」で「MS ゴシック」を選択する。

The screenshot shows the Microsoft Word interface with the 'ホーム' (Home) tab selected. The 'フォント' (Font) group is expanded, showing a list of fonts. 'MS ゴシック' is highlighted with a black box, and a callout bubble with the text 'クリック' (Click) points to it. Other fonts visible include Arial, Century, and MS 明朝.

③フォントが変更される。

● 2 単位め解説

Excel の基本的操作についての課題です。教科書をすべて読み理解してから取り組んでください。

1～4 では、ご自分で適当なサンプルデータを用意して、そのデータを操作する画面のキャプチャーを用いて解説を作成してください。

5 はデータの作成部分の解説は不要です。(ア)(イ)(ウ)(エ)についての解説を作成してください。

6 は特にテキストを参照しながら取り組んでください。

■ レポート学習の到達目標

ワードについては、ページ設定とフォントの操作ができるようになることを目標にしています。

エクセルについては、基本的な関数の探し方と使い方および内容の理解、目的のグラフの作成ができるようになることを目標としています。

その上で、エクセルで処理・グラフ化した情報を、ワードを用いて文書化できることが最終的な目標です。

■ 参考図書

『よくわかる Microsoft Word 2010ドリル』、富士通エフオーエム出版、2010年

『よくわかる 初心者のための Microsoft Excel 2010』、富士通エフオーエム出版

『よくわかる初心者のための Microsoft Word 2010』、富士通エフオーエム出版

『文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶ Office 活用術2010対応』、noa 出版

『繰り返して慣れる！完全マスターWord 2010』、noa 出版

『繰り返して慣れる！完全マスターWord 2013』、noa 出版

『繰り返して慣れる！完全マスターExcel 2010』、noa 出版

『繰り返して慣れる！完全マスターExcel 2013』、noa 出版

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、1単位め課題の提出をしてください。完全にできていない方は途中のものを提出してください。受講者多数で受講定員を超える場合は、提出のない方は受講できませんので、ご了承ください。

また、スクーリングでは『試験・スクーリング 情報ブック』『スクーリング講義概要』記載のとおり、『学生のための Office2013&情報モラル』の Section 1、Section 2 STEP 2 STEP 4 の内容を実習形式で行います。受講前に予習をしてきてください。

■科目修了試験 評価基準

本科目の修了試験評価基準は、以下に示す通りです。

- 1) 題意把握・内容理解 (40%)
 - ・題意が正確に理解されている。
 - ・課題に沿った解答がされている。
 - ・課題に対し、適切な処理が行われている。
 - ・解答すべき事が不足なく記載されている。
- 2) 専門用語が正しく用いられている論理構成・考察力 (40%)
 - ・レポートの展開が合理的である。
 - ・処理が正しい手順で実施されている。
 - ・教科書の丸写しではなく、自分なりの工夫が見られる。
- 3) 表現・文字の正確さ (20%)
 - ・誤字・脱字がない。
 - ・文章が冗長でない。
 - ・適切な図表が使用されている。
 - ・適切な語彙が使用されている。
 - ・改行・改段落・改ページが適切である。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」「情報コミュニケーション技術 (ICT) 活用力」を身につけてほしい。

福祉と経済		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1003	担当教員	小松 洋吉	



■科目の内容

現代の福祉は経済システムの重要な一分野である。国民経済の稼ぎによって、社会保障や福祉の充実をはかるのみではなく、福祉の充実には経済成長の効果がある。そこで、ここでは①まず経済学とはどのような科学であるのか。経済学の考え方について学習する。②国民の幸福度を高めるための政府の役割について学習する。③国民所得水準は我々の生活そのものである。国民所得がどのようなプロセスで決定されるのか。④国民生活の安定をめざして総需要の大きさをコントロールする政策がとられる。それは具体的にどのような内容であるか。以上の点について学習する。

経済学は数字や式、図が多くてむずかしいイメージがあるかもしれませんが。少しの知識を身につけておくだけで、物の見方・考え方が変わってきます。視野も広まることでしょう。受講者はなるべくスクーリングにも参加ください。なおいっそう、福祉と経済のかかわりが理解できるようになることでしょう。楽しく学習できること、また学習の結果、社会の動きがわかり、楽しさが増えることを願っています。

■到達目標

- 1) 福祉と経済がどのように関わっているか、自分の考えを整理し、説明できる。
- 2) 社会保障が行われる根拠として、「分配問題としての市場の失敗」がある。これについて、解説できる。
- 3) 国民所得の決定プロセスについて、すなわち、総供給＝総需要、貯蓄＝投資 で決まるプロセスについて、説明できる。
- 4) 有効需要の原理をふまえて、総需要管理政策について説明できる。とくに、アベノミクスとはどういう政策なのかについて説明できる。
- 5) 「混合経済体制、応能負担、応益負担、現物給付、現金給付」について説明できる。

■教科書

小暮太一著『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本—絶対わかりやすい経済学の教科書』マトマ出版、2011年

(最近の教科書変更時期) 2011年10月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	経済学の考え方～その1 (p.14～30)	経済学の考え方の基本について学び、経済社会における諸問題を考え、解明に役立てる。 キーワード：稀少性、トレード・オフ、機会費用、サンクコスト、限界、インセンティブ	経済学の基本的考え方を学ぶにあたり、左にあげたキーワードについて説明できるようにしておきましょう。それによって、実体経済の姿や諸問題の解明に役立つでしょう。
2	経済学の考え方～その2 (p.30～49)	経済学の考え方の考え方の基本について学び、経済社会における諸問題を考え、解明に役立てる。 キーワード：収益逡減の法則、神の見えざる手、均衡市場の失敗	これまでの学習をふまえて、限られた資源、すなわち、時間やお金をどう配分するのがベストを考え、説明できるようにしましょう。
3	家計の目的 (p.56～66)	家計が自分の生活をよりよいものにするために、お金と時間をどう使えばいいのかについて考えてみましょう。 キーワード：選択、効用、限界効用、代替効果、所得効果、上級財、下級財	キーワードについて説明できるようにしておきましょう。それをふまえて、最適な資源の配分方法を理論的に説明してみましょう。
4	企業の目的 (p.67～86)	企業は利潤の極大化を求めて行動します。そこにどういう理論が働いているのかについて学習してみましょう。 キーワード：完全競争市場、プライステイカー、独占市場、限界収入、限界費用	限界収入＝限界費用にて利潤極大化が達成されるそのプロセスについて説明できるようにしましょう。
5	政府の目的 (p.87～112)	政府が国全体の幸福度を高めるために何をしなければならないのかについて下記のキーワードについて学習しながら考えていきましょう。 キーワード：余剰、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、資源の再配分、外部性、市場支配力、累進課税制度、最低賃金制度、政府の失敗	あげたキーワードのうち、とくに、資源の再配分と政府の失敗については説明できるようにしておきましょう。
6	需要と供給の話 (p.113～)	需要曲線、供給曲線はどのようにして作られるのかについて理解し、均衡点がどのように動くのかについて学びましょう。 キーワード：需要曲線、供給曲線、所与の価格、供給過剰、需要過剰、均衡点、均衡価格、均衡取引量	需要曲線、供給曲線とは何かを説明し、さらに、両曲線がシフトしたとき均衡点はどのように動くのかについて説明できるようにしておきましょう。
7	不完全競争市場の話 (p.129～134)	不完全競争市場とは何か。さらには独占企業の利益最大化について理解しましょう。 キーワード：不完全市場、独占企業、超過利潤、参入阻止価格	不完全競争、独占市場の特性について説明できるようにしておきましょう。独占企業が、利潤最大化のためには、限界収入＝限界費用となるところで生産量を決定します。このプロセスについても説明できるようにしておきましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	マクロ経済学って何 (p.136~152)	国の経済を全体的（マクロ）にみる目的はどこにあるのかについて理解しましょう。 キーワード：失業率、インフレ率、古典派経済学、ケインズ経済学、価格が伸縮的、短期と長期、有効需要の原理	マクロ経済学の目的は何か、マクロ経済学における家計と企業の関係はどのようなものか、長期と短期の考え方はどう違うのか、さらには、古典派経済学とケインズ経済学のちがいについて整理し、説明できるようにしておきましょう。
9	短期の経済（ケインズ経済学） (p.153~170)	国民所得とは何か、国民所得はどのようなプロセスを経て決定されるのかについて学びましょう。 キーワード：国民所得、三面等価の原則、在庫投資消費、投資、政府支出、輸出	国民所得が、消費+投資+政府支出+輸出で決まるプロセスについて説明してみよう。
10	貨幣の影響 (p.171~182)	貨幣とは何か、貨幣の機能、貨幣需要とは何かについて理解しましょう。 キーワード：貨幣、貨幣需要	貨幣の供給量が利率にどのように影響するのか、その利率が債券価格にどのように影響するのか、利率が投資にどう影響するのかについて説明できるようにしましょう。
11	なぜ国民所得をコントロールするのか (p.183~194)	国民所得をコントロールする総需要管理政策とは何か、また具体的政策手段について学習しましょう。 キーワード：総需要管理政策、金融政策、財政政策、クラウデンクアウト、流動性のわな、量的緩和政策	失業をへらすための総需要管理政策としてどのような政策が考えられるか。さらに、デフレからの脱却政策としてどのような政策が考えられるか、説明してみよう。
12	IS - LM 分析 (p.195~220)	IS 曲線、LM 曲線とは何か、両曲線がどのような性質をもっているか、どのようなときどのように移動するのかについて学習してみましょう。 キーワード：IS 曲線、LM 曲線、IS-LM 曲線の変化、フィリップス曲線	市場には財（生産物）市場、金融（貨幣）市場がある。両市場は互いに影響受け、また、与え合っている。そこで、政府支出を増やしたとき IS 曲線はどう変化するのか、通貨供給量を増やしたとき LM 曲線はどう変化するのか、そのプロセスについて説明してみよう。
13	長期の経済 (p.220~233)	長期の経済では、供給量が需要量を定めるこのプロセスについて理解しましょう。 キーワード：完全雇用、完全雇用国民所得	長期と短期のちがいをふまえ、長期の規模が何で決まるのかについて説明できるようにしましょう。
14	長期の経済における失業 (p.234~238)	長期の経済規模は、どれだけ生産できるかによって変化します。先進国は高い技術水準、高生産性をもっており経済が発展するが、発展途上国では経済発展が容易ではない。このプロセスについて学びましょう。	自然失業率とは何かについて説明できるようにしましょう。
15	長期の経済における政策 (p.239~)	長期の経済において政府はどんなことをすれば、国民が幸福であるのかについて学習しましょう。	マネタリズムの考え方を整理し、説明できるようにしましょう。さらに、ケインズ型の財政政策の有効性についても説明してみよう。

■レポート課題

1 単位め	経済学の考え方について、次のキーワードを参考に整理してみよう。 (キーワード) 稀少性、トレードオフ、機会費用、神の見えざる手、均衡
2 単位め	経済社会における政府の役割について、次のキーワードを参考に整理してみよう。 (キーワード) 資源の再配分、所得の再配分、市場の失敗、政府の失敗
3 単位め	国民所得決定プロセスについて、次の事柄を参考にまとめてみよう。 総供給＝総需要にて決定する。 総供給とは国内総生産＋輸入である。 総需要とは消費＋投資＋政府支出＋輸出である。
4 単位め	総需要管理政策とは何か。また、財政政策、金融政策、為替政策の手段について整理してみよう。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストの該当ページについて明示しています。参照のうえ取り組んでみてください。またむずかしくて整理ができそうにないという方は、キーワードについてゆっくり理解を深めてまとめてみてください。新聞・ニュース等経済社会の話題に関心を寄せつつ課題に取り組んでみましょう。前述しましたが、スクーリング参加によって課題の取り組みが容易になり、より効果があがることを約束しておきます。

1 単位め アドバイス

テキスト pp.14～48、特に pp.17～20、pp.35～38を学習のうえでまとめてみましょう。経済学の理論体系はたしかに膨大です。しかしむずかしく考える必要は一切ありません。経済学は人々の幸福を追求する科学です。この分野を少しかじっておくだけで、物の見方・考え方に幅が生まれるでしょう。世の中の仕組みや動きがわかるようになるはずですよ。テキストをゆっくり読んでまとめてみてください。むずかしいと思う方は、キーワードだけでも説明してください。

2 単位め アドバイス

テキスト pp.87～112を参考にしてください。政府が国民の暮らしの満足度を高める役割を担っていることはいまでもありません。たとえば、環境、教育、社会保障、安全、国際平和等々。そのために、税の徴収、国債の発行、財政投融资（例：新幹線）、サービスの提供、ODAなどを政府が行っています。政府の役割を課題に示したキーワードを中心に学習しつつ、まとめてみてください。むずかしいと思う方は、キーワードについての説明をまとめていただいても結構です。

3 単位め アドバイス

テキスト pp.139～170、特に pp.158～170を参考にしてください。国民所得水準は我々の生活水準そのものです。そればかりか、海外にも影響を及ぼします。たとえば、わが国が好況で国民所得水準が高ければ、海外にもたくさんの援助が可能になります。また海外からの輸入も拡大し、海外の成長に寄与できます。ここでは、次の用語も参考にしながらまとめてみてください。

(用語) 家計と企業、貯蓄と投資、総供給と総需要、有効需要の原理、消費、投資、政府支出、輸入と輸出

4 単位め
アドバイス

テキスト pp.183～194を参考にしてください。総需要管理政策について学習し、その上で、財政政策、金融政策の具体的手段について学習してみましょう。たとえば、不況下にあるとき、財政政策として減税をする、金融政策として量的緩和策をとるなど、どのような状態にあるときどのような政策が有効かについて考えてみましょう。

※なお、特例としてスクーリング受講者のレポート課題はスクーリング時に指示された別の課題を4つ提出でも結構です。できるだけ、スクーリングにご参加ください。お目にかかれずことを楽しみにしています。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 経済学の基本的考え方を理解したうえでまとめること。
- 2) 国民経済の循環と国民所得の決定メカニズムについて十分認識していること。
- 3) そのうえで、経済政策が行われる理論的根拠について理解していること。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

法の基礎(日本国憲法を含む)

		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1007	担当教員	菅原 好秀	



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。

■科目の内容

福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。

■到達目標

- 1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。
- 2) 成年後見制度について解説できる。
- 3) 民法の全体像について説明することができる。
- 4) 法の解釈について説明することができる。
- 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。

■教科書

志田民吉編著『改訂 法学』建帛社、2007年

※1・2・4章のみを範囲とする

(最近の教科書変更時期) 2012年2月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	日本国憲法の基本原理	日本国憲法第13条の「個人の尊重」について学びます。	個人の存在価値と何か、また、個人の差異はなぜ必要なのかについて考えてみましょう。
2	基本的人権	社会権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について学びます。	朝日訴訟と堀木訴訟の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
3	統治機構	国会・内閣・裁判所と三権分立について学びます。	立法・行政・司法の各機関の相互関係を三権分立の視点から理解することが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	地方自治	地方自治の制度趣旨について学びます。	地方自治の制度趣旨である住民自治・団体自治を踏まえて、地方自治の現状と課題について理解することが重要です。
5	民法の基本原則	民法の全体像について学びます。	民法の総則・物権・債権・親族・相続において、相互の関係性について理解することが重要です。
6	総則	民法の意思表示を中心に学びます。	心裡留保、虚偽表示、錯誤について理解することが重要です。
7	物権	民法の物権の種類と内容について学びます。	物権の種類について具体的事例を挙げて説明できることが重要です。
8	債権	民法の債権の種類と内容について学びます。	債権の種類について具体的事例を挙げて説明できることが重要です。
9	成年後見制度の概要	成年後見制度の概要について学びます。	後見・保佐・補助の各事例について説明できることが重要です。
10	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現状と課題について学びます。	成年後見制度の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
11	更生保護制度	更生保護制度の制度概要について学びます。	更生保護制度の制度概要、各制度趣旨について具体的に説明できることが重要です。
12	保護観察制度	保護観察制度の制度概要について学びます。	保護観察制度の制度趣旨、各内容について具体的に説明できることが重要です。
13	保護観察制度の現状と課題	保護観察制度の現状と課題について学びます。	保護観察制度の現状と課題について今後求められる対応策について説明できることが重要です。
14	医療観察制度	医療観察制度の制度概要について学びます。	医療観察制度の成立背景、制度趣旨について具体的に説明できることが重要です。
15	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題について今後求められる対応策について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	日本国憲法の基本的人権について論じてください。
2 単位め	統治機構について論じてください。
3 単位め	不法行為について論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
4 単位め	成年後見制度について論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

基本的人権の制度趣旨と各人権の分類を示しながら、社会権を中心に言及してください。また、社会権で問題となった裁判事例について、判例の内容を踏まえて自説を展開してください。

2 単位め アドバイス

統治機構における「国会」「内閣」「裁判所」の各意義について述べたうえで、三権分立の視点から相互の関係性について論じてください。また、判例についても言及してください。

3 単位め アドバイス

不法行為の要件・効果を論じたうえで、使用者責任の内容について判例を踏まえて言及してください。

4 単位め アドバイス

成年後見制度の「後見」「保佐」「補助」の各制度趣旨、内容を示した上、成年後見制度の問題点についてあなたの考えを論じてください。

■科目修了試験 評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」「論理的思考力」「自己管理能力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 渡辺信英編『行政法の基礎』南窓社、2010年
- 2) 渡辺信英編『福祉社会の家族法 親族編』南窓社、2008年
- 3) 渡辺信英編『介護事故裁判例から学ぶ福祉リスクマネジメント—高齢者施設編』南窓社、2006年
- 4) 渡辺信英著『更生保護制度』南窓社、2011年
- 5) 志田民吉編著『社会福祉サービスと法』建帛社、2005年

人間と教育		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1017	担当教員	寺下 明	



■科目の内容

今日の教育をめぐる課題は、どれ一つをとってみても、わたしたちひとりひとりの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。学ぶ、知る、考える、成長するとはどういうことなのか。その営為に教育はどうかかわっているのか。暴力やいじめ、非行はなぜなくなるのか。不登校や学校崩壊はなぜ起こるのか。グローバル化、IT化、知識基盤社会の到来は、教育のあり方やわたしたちの生活や成長にどのような影響を及ぼしているのか。教育の改革は、どのように行われようとしているのか。

教育を問うということは、何をどのように問うことなのでしょう。まず、教育は、歴史・社会・文化のすべての全体的な関連のなかで営まれる活動です。それゆえに、わたしたちは、教育あるいは人間とは何か、ということについて改めて問い直さなければなりません。なぜ、人間にとって教育が必要なのか、人間にとって教育とは何か、に答えなければなりません。その問いに対する解答は、教育の実践を根本において強く支えてくれるでしょう。

■到達目標

- 1) 教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。
- 2) 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。
- 3) 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。

■教科書（「教育原理」と同じ）

寺下明著『教育原理 第2版』ミネルヴァ書房、2013年

（最近の教科書変更時期）2013年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	教育とは何か (1章)	教育とは何かについて学ぶ。 キーワード：伝達、就業性、可塑性、生理的早産、社会化、狼に育てられた子	教育とは何かについて、人間は「教育的存在」であるという視点から考えてみる事が重要。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	人間の成長・発達 (2章)	人間の成長の特徴を遺伝と環境の問題を踏まえて考える。 キーワード：タブラ・ラサ説、環境閾値説、三歳児神話	子どもの成長と発達の特徴を、とくに文化的環境や教育との関連で考えてみる。
3	脳科学からみた発達 (2章)	脳科学の成果から、教育の問題について考えてみる。 キーワード：アタッチメント、社会脳、利己的な遺伝子、文化化	社会脳説を中心に、人間は文化環境によってつくられるのかを検討してみたい。
4	子ども観と子育て①西欧の子ども観 (3章)	西欧の子ども観の変遷をたどる。 キーワード：小さな大人、精神白紙説、近代家族、子どもの誕生	歴史の中で、さまざまな子ども観をたどることによって、子どもと大人の関係について考えてみる。
5	②日本の子ども観 (3章)	日本の子ども観と子育てについて学ぶ。 キーワード：子宝思想、母性原理社会、甘え、恥の文化、七歳までは神のうち	子ども観と子育てのあり方を欧米と比較しながら、日本社会の基本構造と教育の特質を明らかにしたい。
6	教育の目的①古代・中世の教育目的 (4章)	教育の理想ないし目的が、時代や社会とともに変化し、国家や社会の事情によって異なることを概観する。 キーワード：ソフィスト、イデア、ロゴス、自由七科	古代の教育目的の根底にどのような子ども観や人間観があるのかを考えてみたい。
7	②ルネッサンス期・近代の教育 (4章)	ルネッサンスおよび近代の教育の特徴について学ぶ。 キーワード：人文主義教育、公教育、新教育	近代においてさまざまな教育改革が行われたが、その背景にあるルソーやペスタロッチ、コンドルセ、デューイの教育理論についても理解しておきたい。
8	③日本の近代教育 (4章)	日本の近代における教育の目的を理解する。 キーワード：学制、教育勅語、大正自由教育	「富国強兵」を国家の目標に掲げた近代日本の義務教育の制度はどのような教育観であったのか考察を加えたい。
9	④日本の戦後教育 (4章)	戦後教育の教育理念について理解する。 キーワード：アメリカ教育使節団、教育基本法	教育の目的は何か、何のための教育かを問うことは、教育によって実現される価値や意義を追求し、教育の本質を明らかにすることにもなる。
10	日本の近代化と教育①江戸時代の教育遺産 (5章)	日本が近代化に成功した要因として、近代以前における教育の普及と充実を理解しておきたい。 キーワード：寺子屋、藩校、私塾	江戸時代にはさまざまな教育の場があり、豊かな教育活動が行われていた。その中でも、庶民の教育機関であった寺子屋について、その現代的意義を学んでおきたい。
11	②儒教の伝統 (5章)	儒教が近代化の原動力になったのかを検証する。 キーワード：儒教文化圏、社会倫理	儒教をはじめ江戸時代のバラエティーに富んだ教育が、日本の近代化に貢献したことを考察したい。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	③立身出世と学校 (5章)	学問や教育が立身出世につながるということが、以後の日本の社会の基本信念となり、学校信仰を生み出していくことを学ぶ。 キーワード：札幌農学校、科挙、学歴社会、近代公教育	日本における学校の優越性は、お上の学校の性格としてだけでなく、民衆の側から見て、実利的効用という点で、学校はその価値を認められるようになったことを理解したい。
13	現代教育に問われているもの①戦後教育 (6章)	戦後教育の流れを学習指導要領の変遷を通して学ぶ。 キーワード：スプートニク・ショック、落ちこぼれ、不登校、いじめ、学級崩壊	学習指導要領改訂の変遷をたどりながら、現代社会の縮図としての学校教育の問題点を検討する。
14	②生涯学習と教育改革 (6章)	これからの教育をどのように構想していけばよいのかを探求する。 キーワード：学習社会、自己実現、ラーニング・トゥー・ビー	さまざまな学校教育の改革を生涯学習体系のなかに位置づけて展望したい。
15	③学校教育の課題 (6章)	学校教育の抱える課題について考える。 キーワード：ハイパー・メリトクラシー、隠れたカリキュラム	学校教育の課題については、教育は理想社会をめざして、現実を自ら作り変えられるような人間を育成するところに求められているという視点から考えてみたい。

■レポート課題

1 単位め	人間は「教育的存在」であることを踏まえて、「教育」について定義しなさい。
2 単位め	子どもの発達における「素質と環境」の問題について、考えを述べなさい。
3 単位め	日本の子ども観と、子育ての日本の特質について述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
4 単位め	日本の近代公教育の特徴について述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス
教育とは何かについて、カントの「人間は教育されねばならない唯一の被造物である」という言葉の意味を考慮して、まとめてください。テキスト1章を参考にしてください。

2 単位め
アドバイス
子どもの発達をめぐる問題は、諸科学の研究成果をもとにした人間としての「事実」に立脚することが重要です。そして、さらに重要なことは、人間は歴史的・社会的環境をもち、「意味」のある世界に生きているということです。したがって、発達をめぐる問題は、事実としての人間と、価値に関わる社会や文化の領域（広い意味での環境）を包含せざるを得ないのです。こうした視点から、子どもの発達の特徴を教育との関連で考察してください。テキスト

2章を参考にしてください。

**3 単位め
アドバイス**

子どもをどう見るか、子どもはいかなる意味の世界に生きていたのかを通して、逆に大人や人間とは何かを問い直してみましょう。さらに、子育てのあり方を欧米と比較しながら、日本社会の基本構造と教育の特質を明らかにします。テキスト3章を参考にしてください。

**4 単位め
アドバイス**

日本の近代化は、黒船ショックによって路線が選択されました。「富国強兵」「殖産興業」を近代化の目標に掲げ、国家による強制教育の制度を確立し、短期間のうちに合理的かつ機能的に近代化に必要な知識技能を国民に身につけさせることでした。こうして中央集権的教育行政、画一的教育が行われることになりました。そのような背景を理解し、近代日本の公教育の特徴についてまとめてください。テキスト4章、5章を参考にしてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 問題の意図を正しく理解し、問題にそって論理的に解答がなされている
 - 2) 自分なりの視点をもって、問題に取り組んでいる
 - 3) 専門用語の意味などについて、正確に理解している
- などを基準に評価する。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

テキスト章末記載の文献を参照してください。

政治学の基礎		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1026	担当教員	長谷川 雄之	

■科目の内容

本科目では、私たちが日々の生活を送るうえで、必ずと言っていいほど向き合っている政治 (Politics) を理解するために、政治学 (Political Science) を基礎から学びます。政治学は、例えば、少子高齢化や東日本大震災からの復興といった諸問題に対して、現在、国がどのような政策を採用しているのか、そして、その政策がどのように立案・決定されているのか、という点を論理的かつ実証的に説明します。本科目は、その第一歩として、政治制度、民主主義の理論、政党制、政治史、政策過程などの基本事項を学びます。また、流動的な国際社会の動向を的確に把握するため、国際政治学もあわせて学び、外交・安全保障政策に対する理解を深めます。

■到達目標

- ・近現代における国家の役割の変容について、「夜警国家」及び「福祉国家」という言葉を用いて簡潔に説明することができる。
- ・市民革命を経て成立した近代国家の基本理念について、「立憲主義」、「国民主権」及び「権力分立」という言葉を用いて説明することができる。
- ・西洋における自由主義思想の発達について、「自然権」及び「社会契約説」という言葉を用いて説明することができる。
- ・日本の議院内閣制とアメリカの大統領制について、それぞれの政治制度の特徴を簡潔に説明することができる。
- ・政策過程について、政策ステージとアクターの関係に言及しながら、簡潔に説明することができる。

■教科書

中村昭雄著『基礎からわかる政治学（増補新装版）』芦書房、2014年

■在宅学習15のポイント

(第6、7、10、22、23章は対象範囲としません。)

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
1	政治とは何か？ 【教科書 第1章】	代表的な政治の定義を紹介しつつ、「政治とは何か？」という基本的な問題を考える。 キーワード：政治の概念、権力、支配の手段、公共の福祉、小さな政府、大きな政府	政治の概念は、多義的であり、分かりにくいものですが、先ず3つの大きな分類を確認し、その次に4人の著名な学者の定義を読むことで、理解が深まります。また、「小さな政府」や「大きな政府」、「夜警国家」、「福祉国家」という言葉は、この後の回で何度も出てきますので、ここでその意味を確認しましょう。	第1章 政治とは何か
2	「政治学」の発展 【第2章・第3章】	古代から現代に至るまでの政治学の発展過程を学び、伝統的政治学と現代政治学の違いを理解する。 キーワード：自然権、社会契約説、伝統的政治学、現代政治学、シカゴ学派、ポリアーキー、新制度論	ここでは政治学の発展について、大きな枠組みで理解することを目指します。第2章と第3章は密接につながっていますので、連続して読み進めると理解が深まります。キーワードのうち、とくに「自然権」「社会契約説」について説明できるようにしておきましょう。	第2章 政治学の歴史 / 第3章 行動論的政治学とその発展
3	政治権力と支配の正当性 【第4章・第5章】	強制力という観点から、権力の基本的な定義を整理した上で、支配の正統性について3つの分類を用いて学習する。 キーワード：警察力、強制力、合法的支配、伝統的支配、カリスマ的支配	具体的な例を挙げてみると理解しやすくなります。例えば、政治権力の箇所では、公権力を行使する警察官、カリスマ的支配の箇所では、歴史上の登場人物であるヒトラーやスターリンに対する個人崇拜など具体的な事例を念頭におくと、理解がより深まります。	第4章 政治と権力 / 第5章 支配の正当性
4	「民主主義」とは何か？ 【第8章・第9章】	政治思想とイデオロギーに関する基本事項を整理した上で、民主主義(democracy)という言葉の様々な側面について学習する。 キーワード：王権神授説、社会契約説、信託、抵抗権、イデオロギー、自由民主主義、参加デモクラシー論	政治思想の箇所では、とくに「社会契約説」の成り立ちについて説明できるようにしましょう。また、現代の主要なイデオロギーについて、形成過程を整理した上で、それぞれの主張を簡潔に説明できるようにしましょう。民主主義の発展過程については、自由主義との関係に注目して学習すると理解が深まります。教科書にもある通り、民主主義という言葉は多義的ですが、この機会に「民主主義とは何か？」考えてみましょう。	第8章 政治思想とイデオロギー / 第9章 デモクラシーの理論

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
5	立憲主義と議会政治 【第11章・第12章】	<p>近現代における議会政治の発達過程を学び、近代国家の基本理念（とくに立憲主義と権力分立）を理解する。</p> <p>キーワード：市民革命、議会政治の三原則、立憲主義、法の支配、権力分立</p>	<p>西洋において議会制が発達する過程を市民革命という言葉を用いて説明できるようにしましょう。また、昨今話題となっている「立憲主義」や「法の支配」といった言葉の意味を正確に説明できるようにしましょう。さらに、一院制と二院制の短所と長所を整理し、日本の議会制度について考えてみましょう。</p>	<p>第11章 近代国家と議会政治 / 第12章 近代国家の政治原理</p>
6	日本と諸外国の政治制度 【第13章】	<p>主にイギリス・日本における議院内閣制とアメリカ型の大統領制、フランスの（半）大統領制について、それぞれの発展過程及び制度的特徴を学び、日本と諸外国の政治制度について理解する。</p> <p>キーワード：議院内閣制、立憲君主制、大統領制、第五共和制、三権分立、連邦制、抑制と均衡、衆議院の優越</p>	<p>各国の政治制度について、それぞれの制度的特徴を説明できるようにしましょう。先ず、アメリカ、フランス、イギリスの政治制度について整理しましょう。その際、「厳格な三権分立」、「抑制と均衡」、「大統領の権限」、「国王は君臨すれども統治せず」などが特に重要なキーワードとなります。その上で、日本の政治制度について学習すると、より理解が深まります。</p>	<p>第13章 主要諸国の政治制度</p>
7	官僚制と行政国家 【第14章・第15章】	<p>行政の拡大にともなう「行政国家化現象」を理解した上で、現代の官僚制の特徴を学習する。</p> <p>キーワード：福祉国家、行政の優位、議会政治の危機、管理社会、個人情報、監視社会、M. ウェーバー、省庁間対立</p>	<p>「行政国家」について、「揺り箒から墓場まで」「消極政治から積極政治への転換」「福祉国家」「公共事業」といったキーワードを用いて説明できるようにしましょう。また、官僚制の基本事項について、教科書で紹介されている M. ウェーバーの概念を整理した上で、日本の官僚制の問題点を考えてみましょう。</p>	<p>第14章 現代の行政国家 / 第15章 現代社会と官僚制</p>
8	議会における立法過程 【第16章】	<p>アメリカ・イギリスの議会制度を概観した上で、日本の国会における立法過程を詳しく学ぶ。</p> <p>キーワード：委員会中心主義、本会議中心主義、内閣法制局、党議拘束、自由投票</p>	<p>「委員会中心主義」や「本会議中心主義」、「党議拘束」、「自由投票」といったキーワードについて説明できるようにしておきましょう。日本における内閣提出法案の立法過程について、「内閣法制局」の果たす役割を理解した上で、法案が国会に提出される前と提出後の流れを説明できるようにしましょう。</p>	<p>第16章 議会と立法過程</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
9	選挙 【第17章】	選挙の基本原則を理解した上で、選挙制度の類型を学び、それぞれの制度問題点を把握する。 キーワード：選挙の基本原則、多数代表制、小選挙区制、少数代表制、大選挙区制、比例代表制、選挙公約	先ず選挙の基本原則（5つ）について、それぞれ説明できるようにしておきましょう。それぞれの選挙制度については、教科書の表14及び表15を参考にしながら、長所と短所を整理して学習し、それぞれの制度の問題点を指摘できるようにしておきましょう。	第17章 選挙制度
10	政党と政党制 【第19章・第20章】	「政党とは何か」を理解するために、政党の成立条件、機能、存立要件を整理する。その上で、政党政治が展開される枠組みである政党制について学習する。 キーワード：政党の成立条件、政党の機能、政党の存立要件、政党制の分類、55年体制	概念的で難しい回ですが、左記のキーワードについて、それぞれ説明できるようにしてきましょう。政党制については、G. サルトーリの分類を参考に学習を進めましょう。現代日本の政党制について記述した箇所を先に読むと、理解が深まります。	第19章 現代政治と政党 / 第20章 政治社会と政党制
11	圧力団体と市民運動 【第21章】	圧力団体が発生した背景を整理した上で、それがアメリカ社会で果たしてきた役割を理解する。市民運動・住民運動について、圧力団体との類似点・相違点を把握しながら、その意義を考える。 キーワード：圧力政治、福祉国家、ロビイング、参加デモクラシー	圧力団体が発生した背景について、教科書で示されている5つのポイントを整理しましょう。また、アメリカにおけるロビイングについては、教科書の表19を参考にしながら学習を進めると理解がより一層深まります。	第21章 圧力団体と住民運動

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
12	マス・メディアと政治 【第24章・第25章】	<p>マス・メディアがもつ政治的効果について、いくつかの既存研究を紹介しながら学習し、それが選挙や世論形成において果たす機能を理解する。その上で、現代の大衆社会における様々な問題点を明らかにする。</p> <p>キーワード：コミュニケーションの二段階の流れ、課題設定機能、沈黙の螺旋モデル、大衆社会、多元的社会、政治的無関心、世論の政治</p>	<p>まず、第25章冒頭で「大衆社会とは何か」を確認しましょう。その上で、左記のキーワードについて、それぞれ説明できるようにしておきましょう。既存研究における理論については、具体的な事例（例えば、「郵政選挙」、「アベノミクス解散」など）を念頭におくと理解が深まります。</p>	第24章 政治的コミュニケーション / 第25章 大衆社会の政治
13	日本政治 【第26章】	<p>日本政治（史）について、主に議会、選挙、地方政治といった制度的観点と政治文化の観点から学問的に理解する。</p> <p>キーワード：日本国憲法、中選挙区制、55年体制、小選挙区制、日本の圧力団体、中央省庁再編</p>	<p>実践的な内容の第14回に備えて、第13回では、その事前準備を行います。これまでと重複する箇所もありますが、もう一度、日本政治の基本的なシステムについて整理し、理解を深めましょう。</p>	第26章 日本の政治
14	政策過程の分析 【第18章】	<p>立法政策について学習した上で、政策過程の5つのステージとそれぞれのステージに関与するアクターを整理し、日本の政策過程について理解を深める。</p> <p>キーワード：政策研究、立法政策、政策過程の5つのステージ、諮問機関、意思決定</p>	<p>第1回目から第13回目までに学んできた政治学の基本事項を活用して、政策過程について学びます。この回が終わった後、新聞やインターネットで今話題となっている政府の政策について、どのように立案・決定・実施されているのか、学問的に説明することにチャレンジしてみましょう。</p>	第18章 政策と政策過程
15	国際政治 【第27章】	<p>国際政治・安全保障の基礎を学び、冷戦終焉後の国際社会が抱える様々な問題について理解を深める。</p> <p>キーワード：主権国家、グローバリゼーション、勢力均衡、軍備拡張競争、国際連合安全保障理事会、国連憲章、PKO、地域紛争</p>	<p>流動的な国際情勢について理解を深めるためには、国際政治の基礎知識が不可欠です。まずは左記のキーワードについて説明できるようにしておきましょう。国際連合の機能は多岐にわたりますが、図25を参考にしつつ、主に安全保障理事会の機能について学習しましょう。</p>	第27章 国際政治

■レポート課題

1 単位め	以下の三つの設問について、いずれか一つを選択し、答えてください。 ① 近現代における国家の変容について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「夜警国家」、「福祉国家」、「揺り籠から墓場まで」 ② 近代国家の基本理念について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「立憲主義」、「名誉革命」、「法の支配」、「権力分立」 ③ 社会契約説について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「王権神授説」、「自然権」、「信託」、「抵抗権」 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
2 単位め	以下の二つの設問について、いずれか一つを選択し、答えてください。 ① 政策ステージとアクターについて、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「5つのステージ」、「政策決定」、「官僚」、「フィードバック」 ② ニュースなどで取り上げられている日本政府の様々な政策（例えば、「議員定数の削減をめぐる国会の制度改革」や「少子化対策のための子育て支援等の社会保障政策」、「集団的自衛権の行使容認をめぐる安全保障政策」等々）の中からご自身で一つの政策を選び、本科目で学んできた政治学の知見を活かしつつ、その政策について論述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

政治は、私たちの日々の社会生活と深く関係しています。日ごろからインターネットやテレビ、新聞を通じて政治の話題に関心を持ちつつ、学習を進めてください。その際、うわさ話や不確かな情報、感情論に左右されず、より正確な事実関係を確認し、政治学の知見を活かして、批判的かつ客観的に物事をみるよう心掛けてください。より正確な事実関係を把握するための手段として、例えば、法令や国会の議事録などの一次資料の使用が挙げられます。最近では、インターネット上の法令や議事録のデータベース、各省庁ホームページの資料も充実してきましたので、引用の方法（下記）に注意しながら積極的に活用しましょう。

各回の学習については、「在宅学習15のポイント」で挙げたキーワードに注意しながら、教科書を読み進めてください。重要なキーワードについては、教科書のほかの章にも出てきますので、教科書本文を中心に、原典紹介、コラム、資料などを利用して、意味を説明できるようにしておきましょう。とりわけ、レポート課題の1単位目に関係する、本科目の第1回目から第7回目までは、「立憲主義」や「法の支配」、「権力分立」といった極めて重要な概念を扱っています。さらに、「小さな政府」や「大きな政府」、「行政国家」といった概念は、今後、社会福祉の学習を進めていく上で、必ず理解しておかなければなりません。

また、末尾にあげた参考図書に限らず、積極的に図書館等で関係する文献を探し、レポート作成の際に活用してください。参考文献の探し方については、『学習の手引き』2016年度まで入学者は9章、2017年度入学者は5章を参照してください。参考文献を用いる場合、『学習の手引き』2016年度まで入学者は6章、2017年度入学者は4章を必ず読んで、適切に使用してください。とくに、インターネット上の情報については、情報の信ぴょう性のチェックは勿論のこと、URLとアクセス日を明示するなど、基本的なルールを確認しましょう。

例) 国会会議録検索システム (<http://kokkai.ndl.go.jp/>)【2015年12月8日アクセス】

1 単位め
アドバイス

主に前半部（第1回から第7回）から出題していますが、いずれも科目全体を通じて理解しておく必要のある極めて重要な内容です。設問①②③の中から一つを選んで答えてください。設問は、いずれも指定されたキーワードをすべて使う必要がありますので、教科書や参考図書などでその意味をしっかりと確認した上で執筆してください。

【設問①】

この設問は、社会保障費の削減と介護の現場の人手不足など、身近な社会問題と非常に深く関係しています。（教科書）本文以外にも、379頁から381頁の資料や下記の参考図書⑨などが執筆の上で参考になります。

【設問②及び③】

これまでどのような歴史を経て、現代の民主主義国家が存在するのかを理解する上で欠かせない知識を問うものです。（教科書）本文以外にも、107頁から108頁の原典紹介（12）と（13）、152頁の原典紹介（17）、さらに下記の参考図書③などが執筆の上で参考になります。また、設問②では、「立憲主義」や「法の支配」といった最近話題のキーワードも含まれていますので、図書館や書店などで気になった本を手にとって、どのようなことがいま話題となっているのか確認してみましょう。

1単位目では、キーワードの意味について、正確に理解しているか、という点が評価の最大のポイントとなります。とくに「到達目標」と「在宅学習15のポイント」の「学びのポイント」の箇所で挙げた重要なキーワードについては、何度もその意味を確認しましょう。

【設問①】

2 単位め
アドバイス

設問①は、第14回を中心に後半部から出題しています。政策過程を分析する上で、欠かせない知識を問う問題ですので、再度、教科書第18章を一通り読みましょう。その上で、「5つのステージ」、すなわち「課題設定」、「政策立案（政策形成）」、「政策決定」、「政策実施」、「政策評価」等のキーワードについてそれぞれ説明できるようにしておきましょう。政策過程に関与するアクターについては、教科書297頁のコラム（27）や382頁の資料（20）も参考になります。

【設問②】

設問②は、ご自身でレポートの課題設定（レポートで取り上げる政策の選択）を行う応用問題です。課題設定のために日ごろからインターネットや新聞などでニュースをチェックしておきましょう。課題設定に際して、本科目の各回のキーワードの意味をもう一度確認し、身近なニュースと照らし合わせて、具体的にどのような事例があるか、考えてみましょう。そうすれば、おのずと政治学的な知見がご自身のレポートで活かされるようになります。執筆に際しては、政策に対する様々な見解について調べ、論理的かつ客観的な視点を常に持ち、単なる感情論にならないよう十分に気をつけましょう。この点が評価の際に最も重要なポイントとなります。

また、レポートを書き始める前に、その書き方を学ぶ必要があります。先ず『学習の手引き』6章（2017版4章）「レポート学習」をじっくりと読みましょう。

■科目修了試験 評価基準

- ・ 設問の内容を理解し、論理的に答えることができているか。
- ・ キーワードの意味について、正確に理解した上で、論述がなされているか。（とくに「科目の到達

目標」と「レポート課題1単位目」で列挙したキーワードは必須です)

- ・客観的な視点を持ち、設問に取り組んでいるか。
- ・参考図書を用いる場合、その引用方法が適切であるか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「政治学に関する基礎的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

【政治学】

- ①辻中豊『政治学入門－公的決定の構造・アクター・状況』放送大学教育振興会、2012年
- ②久米郁男ほか『政治学（補訂版）』有斐閣、2011年
- ③宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年

【日本政治】

- ④薬師寺克行『現代日本政治史－政治改革と政権交代』有斐閣、2014年
- ⑤中北浩爾『自民党政治の変容』NHK出版、2014年

【国際政治】

- ⑥中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年
- ⑦細谷雄一『国際秩序－18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』中央公論新社、2012年
- ⑧植木千可子『平和のための戦争論－集団的自衛権は何をもたらすのか？』ちくま新書、2015年

【福祉】

- ⑨宮本太郎『福祉政治－日本の社会保障とデモクラシー』有斐閣、2008年

■その他

教科書ではあまり触れられていない外交・安全保障分野は、政治学における最も重要な分野の一つです。スクーリングでは、東アジアの安全保障環境、日本版 NSC（国家安全保障会議）、自衛隊の統合運用、ウクライナ情勢、ロシアの戦略環境認識、日露関係など、喫緊の動向も交えながら、外交・安全保障分野についても詳しく解説します。詳細は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。

人権と福祉		単位数	履修方法	配当学年
		1単位	S	1年以上
科目コード	AH1049	担当教員	田中 治和	



■スクーリングで学んでほしいこと

人権や福祉という言葉（用語）は、比較的世の中で語られ、聞かされ、その大切さは、多くの人々が認めるところです。特に福祉系学部・学科では、人権は重要なキーワードであり、社会福祉実践の根源には、《人権》があり、人権の具体的形態の一つに《福祉》があるといえましょう。

そこで、このスクーリングでは、《人権と福祉》という枠組みで、社会福祉学を学ぶ方々—社会福祉専門職を目指すか否かを一切問わず、社会福祉の本質を考究する入口・手掛かりとして、人権と福祉的諸課題（要介護・“しょうがい”・貧困）とを関連しながら講義します。また併せて、それへの感想等について、受講者がゆっくりと考え、話し合える場となればと考えております。

■到達目標

- 1) 人権と福祉の基本的事項について説明できる。
- 2) 社会福祉実践と社会福祉学研究の根源的課題の基本的枠組みが説明できる。
- 3) 社会福祉学をより深く学びたいと思う。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	人権と福祉の言葉（用語）の整理	世界人権宣言等の概説、並びに福祉と社会福祉の概念整理する。
2	要介護の課題からの考察	高齢者の要介護の文献を講読し、介護する根拠と意味についての文献を講読します。
3	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
4	“しょうがい”の課題からの考察	“しょうがい”の言葉を吟味し、人間の在り方についての文献を講読します。
5	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
6	貧困の課題からの考察	路上生活者の事例から貧困概念を再吟味し、自立に関する文献を講読します。
7	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
8	まとめ	人間のいのち、及び生きる意味から、人間と福祉を問いかけることの大切さを考察します。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義内容に書きましたように、配布された文献を講読しながら進めます。

また話し合いは、少人数のグループから担当教員や全体に対して、各グループごとの発表・報告を求めることはありません。但し担当教員が、各グループを巡回しながら質問等を受けたいと思います。

■スクーリング 評価基準

試験100%です。試験に、自筆ノート、配布資料等一切持ち込み可とします。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。スクーリング時に資料を配布します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

特に必要ありません。もし可能ならばご自分なりの人権と福祉についての考えをまとめておいてください。（スクーリング時に、担当教員から受講者に対して「どう考えていますか…」等の個別的な問いかけはしません。）

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

スクーリング時に、文献紹介をしますので、良かったら読んでみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「応用的知識」「自己管理能力」「倫理観」を身につけてほしい。

■参考図書

スクーリング時に、適宜紹介します。

社会福祉学入門			単位数	履修方法	配当学年
			1単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1050	担当教員	三浦 剛		



※本科目は、2016年度より「社会福祉の基礎」(専門選択科目) から「社会福祉学入門」(共通基礎科目) に科目名および科目区分を変更いたしました(2016年度以降の履修登録者は共通基礎科目(科目コード AH1050) となります)。

※「社会福祉の基礎」(科目コード DA2050) を2015年度までに履修登録済みの方へ
2016年4月に、科目コード AH1050に変更されています。一部の方は、科目コード DA2050のままです。

■ 科目の内容

社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて理解する。
現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について理解する。
社会福祉の専門性について、価値、知識、技術の枠組みに沿って理解する。

■ 到達目標

- 1) 広義、狭義の社会福祉の概念が説明できる。
- 2) 現代社会における社会福祉制度の役割とその概要を説明できる。
- 3) ソーシャルワーク(狭義の社会福祉の実践)の枠組みが説明できる。
- 4) ソーシャルワークの過程、技術、実践をイメージし、具体的に説明できる。

■ 教科書

村川浩一、上野谷加代子監修『社会福祉基礎』実教出版、2014年

■ 在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉の歴史 (p.36~48)	社会福祉の歴史を学ぶ。 キーワード：貧困、社会病理	社会の問題であることを理解する。
2	社会福祉の理念 (p.18~29)	社会福祉の理念を理解する。 キーワード：ノーマライゼーション、自立、ソーシャル・インクルージョン	史的展開と関連づけて理解する。
3	社会福祉の概念 (p.72~77、p.146~157)	社会保障、社会福祉の概念を理解する。 キーワード：社会保険、公的扶助、公衆衛生	社会保障制度の各領域との比較で理解する。
4	生活と福祉 (p.50~65、p.8~17)	現代日本社会の福祉的課題について知る。 キーワード：少子高齢化、生活の変化、地域の変化	統計データをもとに理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	社会福祉制度 (p.78～145)	福祉的課題とそれに対応する制度を知る。 キーワード：貧困、生活困窮、虐待、障がい、要介護	社会福祉制度を必要とする実態を理解し、制度に関する基礎的な知識を得る。
6	ソーシャルワークの枠組み (p.166～193)	ソーシャルワークの枠組みを理解する。 キーワード：生態学的視点、生活モデル	視点、モデル、アプローチを意識して整理する。
7	ソーシャルワークの実際 (p.194～215)	ソーシャルワーク実践の実際を知る。 キーワード：ソーシャルワークの専門性	どのような価値に基づいて、どのような技術がどのような過程でおこなわれるかを、現実との関連を高めながら理解する。
8	まとめ	ソーシャルワークの概念、枠組み、過程、技術について、自分のことばで説明する。	事例も学んで、実践を具体的にイメージできるようにする。

■レポート課題

1 単位め	社会保障制度の中にソーシャルワーク（狭義の社会福祉）を位置づけ、ソーシャルワークの理念、枠組み（視点、モデル、アプローチやプロセス）についてまとめなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- ・「社会福祉学入門」の授業です。まず社会福祉が必要となった歴史的背景を理解し、福祉的課題を「社会の問題」としてとらえましょう。
- ・社会福祉制度の特徴を、社会保険との違い、公的扶助（生活保護制度）との違いなどを通して調べてみましょう。
- ・生態学的視点、生活モデルなどのキーワードを調べてみましょう。

【1 単位めレポート講評の基準】

「再提出」の場合

1. 題意が把握できていない
2. 誤字、脱字が多く、文章の意味が通らない表現である
3. その他（コメント欄を参照）

社会保障制度の意味がテキストなどの文献学習から把握できている（文献の内容をまとめている）

「可」

その上で、

- ・社会保障制度とソーシャルワークの関係が把握できている
- あるいは、
- ・ソーシャルワークの原則やプロセス、援助技術の内容などについて学習されている（文献の内容をまとめている）

「良」

これらのステップを踏まえ、

- ・ソーシャルワークの生態学的視点、生活モデルなどの枠組みに関する学習がされている

「優」

- ・これらが文献のまとめではなく、自分のことばで説明できている

「秀」（非公式）

*引用・出典明示 について
A：引用、註などの表示も適切 B：表示されている C：表示されていない、または不適切（「学習の手引き」を参照すること）

*「現実との関連づけ」について このレポートでは評点の対象としません（良い場合はコメント欄に記載）。

■科目修了試験 評価基準

- ・社会福祉の概念、ソーシャルワーク（狭義の社会福祉）の専門性の理解がポイントです。
- ・記述の分量は1,000字以上。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

生命の科学			単位数	履修方法	配当学年
			4単位	R or SR	1年以上
科目コード	AK1005	担当教員	阿部 一彦(上) / 渡部 芳彦(下)		



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

■科目の内容

生物、とくにヒトの生命を理解するということは、とても複雑で難しいことであると考えられがちでした。しかし、生命に関する研究が進むにつれ、思っていたよりもはるかに単純な現象の積み重ねによって、生命体が構成されていることがわかってきました。生命の科学では、ヒトを中心に、その生命活動を支える仕組みについて、一つ一つが単純な仕組みの積み重ねによって成り立っていることを確認しながら、生命の全体像に迫るように意識して学んでいきます。これらの学習を重ねることによって、どのような仕組みが生命活動を支えているのか、生きているということはどういうことなのかについて考える姿勢を身につけていきたいと考えています。

■到達目標

- 1) 生命維持を支える基本的なシステムについて分かりやすく説明できる。
- 2) 身体運動の基本的なシステムについて分かりやすく説明できる。
- 3) 脳の働きについて分かりやすく説明できる。
- 4) 専門職として将来かかわる人々の健康を考えるための基本的な知識について分かりやすく説明できる。

■教科書

阿部一彦編著 阿部昌子・渡部芳彦著『生命の科学（新訂版）』東北福祉大学、2015年（新訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	生命の科学への招待 (序章)	生命全体に共通な性質についての理解を進めるとともに、生命の多様性について考える基本的姿勢について学ぶ。	ヒトに関する生物学という視点で今後の学びの概要について考えてみましょう。共通性と多様性という視点から生命について学ぶことは、今後の学習にとって重要です。
	生命とは、生物とは (1章)	キーワード：生命誕生、人類の誕生、生命の共通性、生命の多様性 など	

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	ヒトの誕生と成長 (2章)	出生と同時に、新生児の体内ではどのようなことが起きているのかを理解する。また、母子の健康を傷害するものにはどのようなものがあるのかを理解する。 キーワード：受精、精子、卵子、着床、胎盤、臍帯、子宮、誕生、卵円孔、ボタロー管、母子の健康、乳幼児突然死症候群、ゆさぶられっこ症候群、人工授精、体外受精、高齢出産 など	誕生と成長の神秘性と素晴らしさについて考えてみましょう。とくに誕生時の新生児の体の変化については驚くばかりです。未熟なうちに誕生するからこそ、育児、養育が大切なのですね。
3	ヒトの生命を支える分業システム①消化器系と呼吸器系 (3章)	生命現象は単純な分業システムに支えられている。ヒトは他の生物を食事として取り入れ、酸素と反応させて生命活動を維持している。食物を取り入れ分解して吸収する消化器系、酸素を取り入れる呼吸器系について学ぶ。 キーワード：生命現象、分業システム、生化学反応、消化器系、呼吸器系、栄養素、酸素 など	一つ一つの分業システムの協調と協力のもとに生命現象が成立していることについて理解を進め、生命現象について総合的に考える姿勢を身につけましょう。生命の全体像を理解してさらに部分について考えるための基本を学ぶことはとても大切です。
4	ヒトの生命を支える分業システム②循環器系、泌尿器系、骨・筋系など (3章)	栄養素や酸素を運搬する循環器系、老廃物の処理にあたる泌尿器系について総合的に理解する。また、筋肉の収縮によって骨が移動することによって身体運動が行われるという、身体運動の基本について学ぶ。 キーワード：循環器系、冠状動脈、心臓、泌尿器系、腎臓、原尿、肝臓、骨、骨格筋、白筋、赤筋、筋収縮機構、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント、筋節、ATP、嫌気代謝、好気代謝	生命維持現象の基本について理解し、自分自身や家族、将来専門職としてかかわる人々の健康の維持について考えてみましょう。現実との関連をもとに学ぶと理解も深まります。
5	脳・神経系①情報処理過程の基本的理解 (4章)	神経の基本的性質ならびに脳機能について理解する。外部環境の情報を取り入れて、大脳で処理し、その処理に基づいて指令を発して生命活動を行っている過程について学ぶ。 キーワード：視覚、聴覚、シナプス、神経伝達物質、脳機能の局在、大脳皮質、連合野、運動野、体知覚野、大脳辺縁系 など	どのようにして外部の情報を取り入れ、どこで、どのようにして、それらの情報を処理し、どのような経路で指令を発しているのでしょうか。一つ一つ、素朴な疑問を解決することにより、複雑であると考えられる、脳・神経系について全体的な理解を進めることができます。
6	脳・神経系②原始的情動、記憶・言語中枢、内臓の調節など (4章)	原始的情動の調節機構や記憶のしくみ、言語中枢について学ぶ。さらに、生命維持の基本である内臓に関する情報が視床下部などによって調節されていることを学ぶ。 キーワード：記憶、言語中枢、大脳基底核、小脳、交差支配の原則、脊髄、脊髄神経、血液脳関門、血糖値、視床下部、自律神経、交感神経、副交感神経 など	快・不快や怒りや喜びなどの原始的情動はどこでコントロールされるのでしょうか、どのようにして記憶が行われているのでしょうか、言語はどのようにしてコントロールされるのか等について関心を持って学ぶことは、理解を深める原動力になります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	豊かな食生活をめざして (5章)	食物摂取の基本的知識となる栄養学的な理解、血糖の調節機構、口腔ケアなど多角的に食生活について理解を深める。さらに誤嚥性肺炎について理解する。 キーワード：食生活、咀嚼、消化と吸収、エネルギー代謝、恒常性、糖尿病、血糖値、インスリン、グルカゴン、口腔ケア、誤嚥性肺炎	豊かな食生活のための科学的な根拠を理解することは、生きがいの持てる生活を営み続けるためにも大切なことです。現実的な生活をイメージして考えることは学びを深める動機になります。
8	こころの健康・からだの健康①過剰ストレスについて (6章)	心と身体は別々のものではなく、相互に関連するものであることを学ぶ。慢性的過剰ストレスなどの心の問題が身体的症状をもたらす機構について理解するとともに、ストレスの解消法について考える。 キーワード：心身二元論、心身一元論、ストレス、精神的健康障害、過剰適応、不適応、心身症、大脳辺縁系、視床下部、交感神経、副交感神経、自律神経など	ストレス障害は誰にでも起こる可能性があります。ストレス障害についても一つ一つの理解を積み重ねることにより全体理解が進みます。関心を持って学ぶことがより良い理解をもたらします。
9	こころの健康・からだの健康②生活習慣病について (6章)	がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の発症のメカニズムについて理解を深める。あわせて、いかにして自分の健康を自ら守るのかについて考える。 キーワード：生活習慣、がん、ピロリ菌、虚血性心疾患、動脈硬化、脳血管疾患、脳卒中、糖尿病、メタボリックシンドローム、廃用症候群、生活不活発病など	慣れ親しんでいる生活習慣を改めることは、それが快適習慣なので、なかなか改めることが困難です。しかし、生活習慣病の実態と恐るしさを、発病の機構について理解が深まると、その予防を行う動機が高まります。
10	遺伝情報発現のしくみと遺伝子操作①タンパク質合成過程 (7章)	遺伝子DNAの複製、mRNAへの転写、塩基の三つ組み暗号にしたがった翻訳の過程について学び、タンパク質を合成する過程である遺伝情報発現の基本的なしくみについて理解する。 キーワード：遺伝情報発現、二重らせん構造、遺伝子、塩基配列、DNA、mRNA、アミノ酸、複製、転写、翻訳、イントロン、RNAポリメラーゼ、プロモーターなど	一見複雑と思われる遺伝情報の発現のしくみも、やはり、きわめて単純なメカニズムの積み重ねによって構成されているのです。一つ一つの理解の積み重ねが大事です。
11	遺伝情報発現のしくみと遺伝子操作②遺伝子操作などの理解 (7章)	遺伝子操作や遺伝子診断のしくみについて基本的な理解を進める。また、これらの技術が私たちの生活にどのように影響を与えるのかについて考える。 キーワード：染色体、減数分裂、ダウン症候群、遺伝子操作、PCR法、制限酵素、DNAリガーゼ、組換え技術、プラスミド、遺伝子診断、遺伝子疾患、出生前診断、発症前診断 など	遺伝情報発現のしくみが単純なメカニズムの積み重ねだからこそ様々な応用技術が開発されています。先端技術の概要理解とともにそれらの技術が社会に及ぼす影響についても考える姿勢を身につけましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	生体防御機構と感染症対策 ①免疫の理解 (8章)	液性免疫、細胞性免疫の基本について理解し、生体防御機構について学びを深める。また、生体防御反応が過剰に起こるとどのような障害としてあらわれるのかを理解する。 キーワード：一般的抵抗力、免疫、マクロファージ、樹状細胞、Tリンパ球、Bリンパ球、液性免疫、細胞性免疫、インターフェロン、アレルギー反応、自己免疫疾患 など	複雑と考えられる免疫の機構も液性免疫と細胞性免疫にわけて考えると理解が進みます。一つ一つの理解の積み重ねがやはり大切なのです。
13	生体防御機構と感染症対策 ②感染症の理解 (8章)	生活環境の変化や抗生物質の乱用などから新たな感染症が問題になっている。エイズをはじめ、様々な感染症について感染経路などを学び、予防について考える。 キーワード：エイズ、後天性免疫不全症候群、ヒト免疫不全ウイルス、新興感染症、再興感染症、抗生物質、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、エボラ出血熱、ウイルス性肝炎、結核 など	様々な感染症について理解することは、健康生活を維持するためにも大切なことです。身近な問題として理解し、感染症防止に努めたいものです。
14	加齢による心身の変化 (10章)	人間の多様性と心理的变化について、加齢（老化）との関係性から学び、豊かな生活をめざす人間のさまざまな活動について理解を進める。 キーワード：老化、歯周病、パーキンソン病、脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、廃用症候群 など	老化は誰もが避けられない問題です。しかし、私たちがこれまで蓄積してきた科学的な根拠を持ってこれらの問題に対処することで、さまざまな問題を克服したり、あるいはそれを受容して生きていくことができることについて理解を進めます。
15	医療と倫理 (11章)	インフォームド・コンセントについて考え、医師と患者が対等な協力関係のもとに治療に参加することの重要性を理解する。また、脳死後臓器移植について考える。 キーワード：インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオン、患者の権利、臓器移植、死体臓器移植、脳死臓器移植、生体臓器移植、心臓死、脳死、臓器提供意思表示カード、遷延性意識障害、植物状態 など	医療が進歩し、それらの応用をはかるにしたいが、医療と倫理に関するさまざまな問題が生じる可能性が常につきまといまいます。生命を大切にし、よりよく生きるためには、私たち自身が主体的にそして積極的に、生命、生活、人生について考えていく必要があります。

■レポート課題

1 単位め	次に示す(A)と(B)の2つの課題について、論じなさい。 (A) 誕生時のヒト新生児の身体機能の変化について論じなさい。 (B) ヒト成人の消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器（排出）系による生命を支える分業システムについて論じなさい。
2 単位め	次に示す(A)と(B)の2つの課題について、論じなさい。 (A) ヒトは、感覚器を通して周りの情報を脳に取り込み、情報処理して、それらに応じた行動をする。これらの一連の行為に関して、とくに脳・神経系の機能に着目して論じなさい。 (B) 筋収縮の機構と筋収縮のエネルギー代謝について論じなさい。

3 単位め	<p>次に示す(A)と(B)の2つの課題について、論じなさい。</p> <p>(A) 過剰ストレスが身体に与える影響について論じなさい。</p> <p>(B) ヒトの免疫系について論じなさい。あわせてエイズについても論じなさい。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題</p>
4 単位め	<p>次に示す(A)と(B)の2つの課題について、論じなさい。</p> <p>(A) 生活習慣病とは何か、また、日本人の死因の上位を占める悪性新生物、心疾患、脳血管疾患は、どのような生活習慣に基づいて発症すると考えられるのかについて論じなさい。</p> <p>(B) (1)誤嚥性肺炎について記しなさい。そして、口腔ケアの重要性について論じなさい。 (2)廃用症候群について記しなさい。廃用症候群を予防するためにはどのようなことに留意すべきかについても合わせて論じなさい。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、適宜、参考となる図書などを読むことによって理解を深め、それぞれの課題について、十分に考察して記述してください。また、日ごろから新聞や科学雑誌などにも気を配ることに心がけ、レポートに取り入れることも重要です。全体をよく理解してから内容を整理して記してください。

適切な小見出しや段落を設けて、自分の言葉で論じることによってさらに内容理解が深まります。

1 単位め アドバイス

(A) 1章と2章をよく読んで、ヒトの誕生と成長について十分に理解したうえで、整理・考察してください。誕生するということは新生児にとって初めて体験する、そして多くの危険に満ちた冒険です。命の尊さがあらためて実感されます。

(B) ヒトは食物と空気を取り込んで、体内でそれらを活動のエネルギーや身体を構成する成分として利用しています。食物を取り込んで分解する消化器系、酸素を取り込む呼吸器系、取り込んだ栄養素と酵素を全身の細胞に運搬し、各細胞における生化学反応に供するのは循環器系です。ヒトの身体を構成する60兆個に及ぶ各細胞では、活動のエネルギーを産生するとともに身体を構成する成分を生成しています。そして、それらの結果生じた老廃物は、肝臓、腎臓を経由して、泌尿器系によって体外に排出されます。3章を読んで、生命活動を支えるこれらの概要を十分に理解し、まとめて論じてください。自分の言葉で整理することがたいせつです。

2 単位め アドバイス

(A) 4章をよく読んで、脳と神経系について十分に理解してください。現代社会において充実した生活をおくるために重要な知識が得られると思います。脳のはたらきはとも複雑と考えられますが、基本的な仕組みをわかりやすくまとめることは大事です。十分に読み込んで、考察し、わかりやすくまとめてください。

(B) 3章3節6をよく読んで、筋細胞の構造を理解してください。そして、どのようにして細いアクチンフィラメントが太いミオシンフィラメントに滑り込むように引っ張られる滑走運動が生じて筋収縮が起こるのかについて論じてください。

激しい瞬発力を要する筋運動を行うときには、ヒトは酸素を利用せずに、いわゆる嫌氣的な代謝によってATPを獲得します。しかし、持久力を要する運動を行うときには、酸素を十分に利用して、効率的にATPを生成する機構によりエネルギーを得ています。3章3節6や5章1節をよく読み内容理解を踏まえて、筋収縮のエネルギー代謝について論じてください。

3 単位め アドバイス

(A) ヒトは無意識のうちに内臓機能などを調節して生命を維持しています。それらの調節は、自律神経および内分泌（ホルモン）系に基づいていますが、ともに間脳の視床下部によってコントロールされています。4章を読んで、ヒトの生命機能を調節するシステムを理解してください。心理的そして社会的過剰ストレスは、視床下部の機能を破綻させ、内臓機能の調節をくるわせ、身体的な不都合をもたらします。いわゆる心身症です。6章を読んで理解を深め、現代社会において注目されている過剰ストレスによる身体への影響等について論じてください。新聞や科学雑誌、参考文献などをもとに整理してください。

(B) 8章や参考となる図書などを読み、液性免疫と細胞性免疫という視点からまとめると理解しやすいでしょう。このようなシステムによって病原体から私たちのからだを守られています。また、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染すると、免疫系のどの部分のはたらきが妨げられて機能しなくなるのでしょうか。そして、病気が進行するにつれ体内では何が起こっているのでしょうか、エイズの予防法も含めて広く理解してまとめてください。

4 単位め アドバイス

(A) 6章や参考となる図書などを読み、具体的にどのような生活習慣が、どのようにして病気を引き起こす土台となるのかを理解しましょう。悪性新生物（がん）については、DNAの傷害に視点をおいて、そして心疾患と脳血管疾患については循環器系の支障に視点をおいて考察してください。現在、日本人の死亡のうち、6割はこれらの三大疾患が原因となっています。そこで、これらの生活習慣病の成り立ちを十分に理解したうえで、その予防につとめ、健康を維持していつまでも元気に生活したいものです。

(B) (1)、(2)の両方に解答してください。原因不明の発熱やそれに引き続く呼吸器疾患の原因として誤嚥性肺炎が注目されています。とくに重い障害のある人や高齢の人では深刻な問題です。5章3節をよく読んで理解してください。通常、嚥下反射や咳反射によって（とても多くの細菌を含んでいる）唾液などが気管に侵入しないような仕組みがはたしているのですが、これらのはたらきに支障があるとたいへんです。

また、障害のある人や高齢の人にとって廃用症候群（生活不活発病）も大きな問題です。6章のとくに3節などを読んで、自分の考えでまとめて整理してください。

■科目修了試験 評価基準

レポート（40%）＋科目修了試験（60%）

※ただし、スクーリング評価は授業への参加状況（30%）＋スクーリング試験（70%）。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考となる図書など

参考となる図書や文献を見つけることも大事なことです。また、新聞や科学雑誌なども活用してください。

健康科学		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R	1年以上
科目コード	AK1016	担当教員	水野 康	



※2016年度より担当教員が変更になっています。レポート課題の1単位めが2017年度より変更されました。

■科目の内容

健康・保健・医療・福祉の分野を専門的に習得するにあたっては、私たちのライフスタイルの変化と健康への認識について洞察を深める必要があります。本科目ではまず、「加齢」についての理解を深めつつ、前半で、健康と結びつきが深い栄養と運動について学習します。その上で後半では、健康であるために必要とされる、さまざまな実践や運動行政施策を通して身体-運動-文化に関する基本的認識を養い、日常における健康への意識や健康活動における必要性の理論修得を目的とします。

■到達目標

1 単位め

- ・健康を目指すうえでの栄養と運動の必要性について述べることができる。
- ・日常生活と運動習慣の関係性について説明できる。
- ・運動やスポーツ実践にともなう効果や弊害について解説できる。

2 単位め

- ・地域における事例や社会的変遷を加えながら「健康観」について述べるができる。
- ・地域や社会における健康行政施策について、事例を用いて説明できる。
- ・国民のライフスタイルの変化にともなう健康増進対策等について解説できる。

■教科書

木村靖夫著『ウィズエイジングの健康科学』昭和堂、2010年
(最近の教科書変更時期) 2012年8月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ウィズエイジングのための運動学と栄養学① (第1部第1章)	栄養・運動と健康	ライフサイクルの変化によって、どのような生活習慣病が引き起こされたかを押さえましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	ウィズエイジングのための運動学と栄養学② (第1部第2章)	運動のためのエネルギー供給と栄養① 健康運動・スポーツの条件、身体運動の発現機序、筋活動のためのエネルギー供給システム、運動の継続時間とエネルギー供給機構	運動・スポーツとは何かを踏まえて、3つのエネルギー供給源の違いを理解しましょう。
3	ウィズエイジングのための運動学と栄養学③ (第1部第2章)	運動のためのエネルギー供給と栄養② エアロビクスとアナロビクス、生体における栄養素の機能・役割と代謝調節、運動・スポーツと栄養学	私たちの体をつくる栄養素の機能と役割について把握し、そのバランスを運動の種類ごとに押さえましょう。
4	ウィズエイジングのための運動学と栄養学① (第1部第3章)	栄養介入と運動実践による健康度の現状① 肥満と栄養・運動、脂質代謝と栄養・運動、糖代謝と栄養・運動	生活習慣病を理解するとともに、その予防としての運動について考察しましょう。
5	ウィズエイジングのための運動学と栄養学④ (第1部第3章)	栄養介入と運動実践による健康度の現状② 血圧の変化と栄養・運動の影響、骨の成長・加齢による変化と栄養・運動の影響、メンタルヘルスへの栄養・運動の影響	加齢やメンタル面において注意しなければならない栄養摂取・運動について考察しましょう。
6	ウィズエイジングのための運動学と栄養学⑤ (第1部第4章)	ライフステージに応じた栄養・運動① 成長・発達と老化・加齢、成長期の栄養と運動、成人期の栄養と運動	成人期までの適切な栄養摂取の方法と運動のあり方について理解しましょう。
7	ウィズエイジングのための運動学と栄養学⑥ (第1部第4章)	ライフステージに応じた栄養・運動② 老年期の栄養と運動、女性の栄養と運動、軽度介護者の栄養と運動	老年期、女性、軽度介護者特有の適切な栄養摂取の方法と運動のあり方について理解しましょう。
8	ウィズエイジングのための実践① (第2部第5章)	健康栄養の原理・原則	食生活指針と食事バランスガイドの内容を理解しましょう。
9	ウィズエイジングのための実践② (第2部第6章)	健康運動・スポーツの原理・原則	健康運動・スポーツ、体力づくりに必要な運動やトレーニングの原理・原則、メカニズムについて理解しましょう。
10	ウィズエイジングのための実践③ (第2部第7章)	健康運動・スポーツの実際	日常生活を営むうえで最低限必要な身体的能力を身につけるための方法を理解しましょう。
11	ウィズエイジングのための実践④ (第2部第8章)	運動・スポーツによる障害とその予防	運動・スポーツによる突然死やスポーツ外傷、障害を未然に防ぐための正しい知識と処置を理解しましょう。
12	ウィズエイジングのための支援・施策① (第3部第9章)	健康行動の変容	健康行動の変容サポートに必要な行動科学的アプローチについて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	ウィズエイジングのための支援・施策② (第3部第10章)	福祉の対象における健康な生活のための支援	認知症と発達障害のある人が、地域で健やかな生活を送るための支援の仕方、および介護予防のあり方について理解しましょう。
14	ウィズエイジングのための支援・施策③ (第3部第11章)	健康づくり運動行政施策の変遷	厚生行政の健康運動・スポーツの推進に向けた取り組みについて把握しましょう。
15	ウィズエイジングのための支援・施策④ (第3部第12章)	これからの健康栄養・健康運動	これからの「健康栄養・健康運動」のあり方について、自らの日常生活を踏まえ、考えてみましょう。

■レポート課題

課題記入欄には「 」内だけ記載すればよいが、問題文全体をよく読み、解答してください。

1 単位め	「健康の維持・増進における運動と栄養の役割」 健康の維持・増進において、運動と栄養が果たす役割を記載しなさい。この観点から、自身の運動習慣と食習慣を振り返り、評価しなさい。改善点があれば、具体的な改善方法・手段を述べなさい。
2 単位め	「健康の定義・運動行政施策の変遷」 健康の定義をまとめた上で、あなたの周囲や地域で実践されている健康活動の例をあげ、具体的に考察し論述しなさい。また、人々の生活とそれを取り巻く地域行政施策との観点から、健康づくり施策について整理し、その変遷をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

全体の解説

本科目では、人が「老いる」現象をありのまま受け止めつつ、長寿を多角的にとらえ、「健康で生きる」ために必要な基礎的知識と理解を深めることを学習のねらいとしています。

そのねらいを達成するポイントは、テキストや資料を熟読した上で、実生活の現況や課題に置き換えて考察することが必要となります。この講座習得のねらいは、あくまで、理論としての健康科学を実生活や医療福祉現場、教育現場において、自らの意思により心身双方の健康指向を高めていくことにあります。したがって、レポート課題の内容は、①基礎理論をふまえた上で主要事項をまとめ、②事例や症例を用いながら考察し、③社会における「健康」の意義を理解する、ことを段階的に進められるよう構成してあります。

課題をまとめる作業を効果的に進めると同時に、それらの事象に対するものとのとらえ方と幅広い視点の方向性を養うため、参考図書や参考資料を有効に用いながら、学習を進めてください。

1 単位め アドバイス

健康の維持・増進における3要素は、運動、栄養、休養（睡眠）とされています。ここでは、運動と栄養の果たす役割について論述し、さらにご自身の生活を振り返って、その評価、および、必要に応じて具体的な改善策について論述していただきます。対応するテキストの内容は、1～8章が広く該当しています。1章および3章には不十分な運動や栄養の悪影響、2章には運動時の身体の仕組みや栄養補給に関する生理学・生化学的内容、4章が年代や性別などの対象の特性、5章～8章には具体的な運動・栄養摂取の方法や注意点などが書かれています。これらの内容を踏まえ、運動・栄養が健康の維持・増進になぜ重要なのか、運動・栄養に問題があるとどのような健康被害のリスクが増大するのか、第三者に説明するつもりで記載してください。また、この記述に基づいてご自身の運動習慣と食習慣について評価し、改善が必要であれば、実行可能な改善策についても論述してください。

評価は、内容の妥当性、論理の一貫性にポイントを置きます。必ずしも全ての章の内容を含まなくても結構ですが、説得力のある内容であることが重要です。また、ご自身の運動習慣と食習慣の改善点の記載では、理想論ではなく、実現可能なもの、実現するための工夫にも言及されていることを期待します。

2 単位め アドバイス

ここでは、健康とはなにかといった、いわゆる「健康観」について考えることが中心的な課題となり、また実生活における健康活動や運動行政施策についての理解を図ることを学習のねらいとしています。まず、健康の定義として代表される世界保健機構（WHO）の定義をよく理解してください。その上で第11章にある健康づくり対策の項を参考にしながら、身近にある健康活動の例について、あなたの考えを取り入れながら論述してください。例えば、あなたの住んでいる県や市、町の広報に揚げられる健康増進活動や日常生活習慣病予防の内容を参考としたり、また実際に地域の健康増進センターや保健所に出向いてレポートしてくるのもよいでしょう。また、インターネットなどの情報通信機器を有効利用することも手段のひとつです。要するに、どのような形で「健康観」が地域で実践され、啓蒙されているかを知ることが大切です。

次に、第10章以降を参考としながら、地域の運動行政施策について、福祉の対象における健康な生活支援も含めながら、簡潔にまとめてください。その上で、今日に至る運動行政施策の対策・取り組みの変遷について、わかりやすく論述してください。ここでは、国民のライフスタイルの変化に伴い、どのように健康増進対策が変遷してきたか、また実際に地域でどのように実践されてきたかを考察することが学習のねらいとなります。

評価は、「健康観」に対して、事例や社会的変遷を取り入れながら論を展開することができるか、そして健康づくり施策について、その大枠を把握することができるかという点にポイントがおかれます。あなたの実生活や日常の周囲を十分観察し、社会的現象と本論で学んだことを関連づけながら、レポートを作成することをおすすめします。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題されたテーマに沿った論述がなされているか
- 2) 「健康」概念の把握がきちんとされているか
- 3) 問題提起に対し、自分の考え（考察）が述べられているか

4) 参考図書・引用図書等の引用が明記されているか

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

健康科学の観点からは、とくに、人間理解力、問題発見・解決力、自己管理能力を身につけてほしい。また、通信教育課程における基盤的な力として、レポート作成力を身につけてほしい。

■参考図書

樋口満・福永哲夫編『スポーツ・健康科学』放送大学教育振興会、2009年

波多野義郎編『介護予防の健康科学』不昧堂、2008年

関西福祉科学大学健康科学科編『健康科学入門』文理閣、2009年

コミュニケーション英語

			単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			2単位	SR(演習)	1年以上
科目コード	AL1011	担当教員	シュミット・ケネス		



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

※スクーリング受講の場合は p.77の受講条件の達成が必要です。

■科目の内容

英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とします。特にリスニングとスピーキングに重点を置きますが、語学力向上に不可欠であるリーディングと単語学習や、意見や経験などを表現する簡単なライティングも行います。

教材はオンライン版教材もしくは冊子版教材を使用します。オンライン版教材は音声、画像、動画、文章などを用いたオンライン学習（「Touchstone Online Course」）ですので、実践的で興味深い内容となっており、使用方法も平易です。各自が設定した目標に向けて、自らのペースで何度でも繰り返し学習ができます。メールを通じて担当教員と頻りにコミュニケーションを行います。

冊子版教材ではだいたい同じ内容の学習をすることができますが、オンラインの方が学習サポート、フィードバック、スピーキング練習、コミュニケーションチャンスなど、たくさんありますからお勧めです。冊子版はレベル1A や1B からの選択になりますが、オンライン版はレベル1 からレベル4 まで（各 A、B）から自分のレベルに合わせて選べます。

スクーリングでは、多彩な英語アクティビティ（コミュニケーション、リスニング、リーディング）をします。

■到達目標

自宅でのレポート学習をもとに、スクーリング講義でほかの学生と一緒に学ぶことにより、実際に役立つコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。

■教科書

履修登録後に送付されるコースガイドをもとに①使用する教材（オンライン版教材、冊子版教材のどちらを使用するか）および②教材のレベルを決定し、書面（メール・FAX・郵送）にて通信教育部にお知らせください。使用する教材・レベルを確認後20日程度で教材をお送りします。

【オンライン版教材】

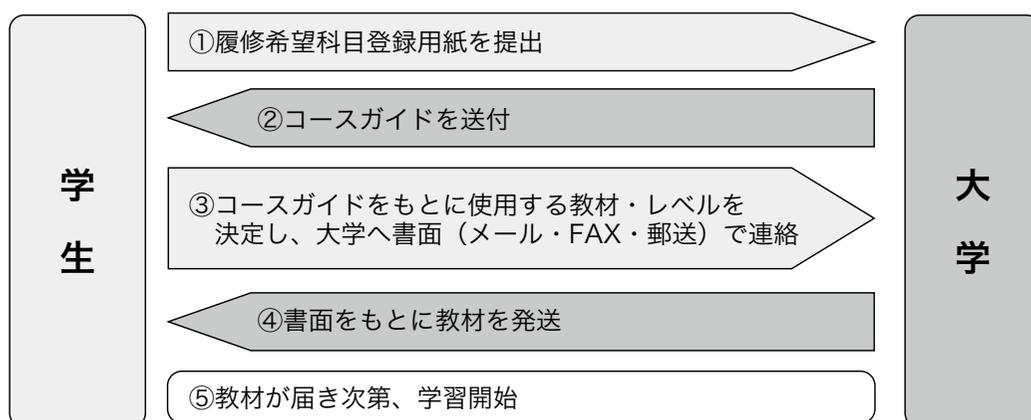
- Touchstone Online Course (Cambridge University Press), Level 1, 2, 3 or 4
（個々のレベルに応じて選びます。各レベルの A (Units 1-6) か B (Units 7-12) を選びます。詳しくはコースガイドを参照）
- Touchstone Online Course 学生用マニュアル

【冊子版教材】

- Touchstone Level 1 Student's Book A (Units 1-6) or B (Units 7-12), 2nd edition (Cambridge University Press)
- Touchstone Level 1 Workbook (A or B), 2nd edition
(個々のレベルに応じて選びますが、Level 1B がお勧めです。英語に不慣れで自信のない方は Level 1A がお勧めです。詳しくはコースガイドを参照)

なお、オンライン版教材を体験したい方は、Touchstone の紹介ビデオ（1分）を YouTube でご覧ください。: <https://goo.gl/vUlp9w>

履修登録から学習開始までの流れは下図のとおりです。



■オンライン版教材について

※ Touchstone Online Course は一年間の使用許諾による教材です。2年目以降継続して学習を希望される場合は、1年ごとに別途3,500円（消費税別）が必要となります。

※下記の要件を満たしたパソコンやタブレットの利用環境が必要です。また、通信教育部ではパソコンの使用方法に関するサポートはできませんので、上記の Touchstone 学生用マニュアルおよびコースガイドを参照し、ご自身で操作していただきます。ブラウザで web サーフィン、YouTube ビデオ、Skype などを問題無く使えれば、利用可能です。

インターネット	OSとブラウザ	ハードウェア	タブレットの場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 光ファイバー、CATV、ADSL等のブロードバンド回線を推奨 ・ スピード：3Mbpsダウンロード、512Kbpsアップロード ・ メールアドレス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Vista、Windows 7、8、8.1以上 ・ Windows ブラウザー：IE 10、11以上 ・ 最近の Firefox、Chrome ・ Mac OSX 10.8+ ・ Mac OSX ブラウザー：Safari 6、7以上 ・ 最近の Firefox、Chrome 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーン：1024x768以上 ・ マイク（声の録音） ・ ビデオカメラ（必須ではない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad 4以上、iOS 7以上、Safari ・ Samsung Galaxy Tablet 2 10.1、Android 4.2.2以上、最近の Chrome

*パソコンの環境が整う方はビデオなども見られるのでオンライン版教材をおすすめします。

■在宅学習15のポイント

テキスト Touchstone Level 1B (他のレベルを利用の場合は、テーマ・学習内容・キーワードが異なりますが、どのレベルでも学びのポイントは一緒です。必ず Touchstone を利用前と学習途中での学びのポイントは全て見直ししてください。)

回数	テーマ	学習内容(Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
1	Unit 7 - Lesson A & B Away for the weekend Sports and exercise	Learn how to… ・ Describe the weather ・ Talk about ongoing activities with the present continuous ・ Talk about sports and exercise ・ Ask about current activities using the present continuous Keywords: current activities, exercise	T) Find your learning targets by checking <i>Can Do! and Before you begin...</i> on the first page of each unit. O) Find the same information through the <i>Unit Aims</i> and <i>Before you begin</i> links. <i>Before you begin</i> includes important vocabulary and listening work. Each lesson also has a <i>Lesson Aims</i> page with a <i>Language summary</i> pdf link. Don't skip these. T/O) Carefully follow each step in each lesson. This will give you a much more valuable learning experience. T) After completing each activity in the book, use the key to mark your answers (O/X with red pen) and correct your mistakes. Then check it off on your course checklist.
2	Unit 7 - Lesson C & D How's it going? Staying in shape.	・ Ask follow-up questions to keep a conversation going ・ React to news with That's great, That's too bad, etc. ・ Read an article about exergaming ・ Write an article about exercise using imperatives Keywords: questions, comments, recommendations	T) Class activity, <i>Pair work</i> and <i>Group work</i> sections are chances for communication practice. Ask a friend or family member to practice with you. If no practice partner is available, role-play both sides of the conversation yourself. It's important to actually speak out-loud. O) Each unit is divided into lessons (A-D), and each lesson is divided into sections (1, 2, 3, …). Move from activity to activity, within each section using the numbers/ arrows at the bottom of the window. Move to the next section or lesson using the arrows at the top of the window. Click the <i>Content</i> drop-down menu link (upper left) anytime to see your progress, to jump forward or back, or to do other types of activities (games, workbook, videos, etc.). Click the X (upper right) to return to the course homepage. T) After finishing each unit, complete the activities in the workbook. Use the key to mark your answers (O/X with red pen) and correct your mistakes. Then check them off on your course checklist. O) After finishing each unit online, you should do the <i>Workbook</i> activities, <i>Games</i> , <i>Reviews</i> and <i>Video activities</i> for that unit.

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
3	Unit 8 - Lesson A & B Clothes Things to buy	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about clothes ・ Say what you like to, want to, need to, and have to do ・ Talk about accessories ・ Ask about prices using How much ...?, this, that, these, and those <p>Keywords: shopping, clothes</p>	<p>T) Whenever you see the speaker icon, listen to the mp3 file or CD track. Listen at least twice. Most listening activities have <i>Listen again</i> activities. Download mp3 files for free from http://www.cambridge.org/us/esl/touchstone/audio/ If you can't download the files, ask 通信教育部 staff to send you a CD.</p> <p>O) Many online activities have text, sound and pictures/video. Always listen to the sound, even if you don't need it to complete the activity. Getting input in these three ways helps strengthen your memory and learning.</p>
4	Unit 8 - Lesson C & D Can I help you? Shop till you drop!	<ul style="list-style-type: none"> ・ Take time to think using Uh, Let's see, etc. ・ Use Uh-huh and Oh in responses ・ Read a review of a shopping mall ・ Write a review of a store using because <p>Keywords: thinking time, shopping opinions</p>	<p>T) <i>Lesson D</i> (in most units), contains a writing example followed by a writing task (store review, travel tips, etc.). Write this on a separate paper and include it with your workbook and course checklist when you send them to the instructor..</p> <p>O) Many lessons include writing tasks (blogs, descriptions, stories, etc.). There are usually <i>Useful language</i> and <i>Example answer</i> buttons available. Always check these for helpful ideas and language before writing. The instructor will automatically be able to see your written work.</p> <p>T) After finishing each unit in the textbook and workbook, do the <i>Free talk</i>, <i>Sounds right</i> and <i>Extra practice</i> activities (in the back of the textbook) and check them off on your course checklist. Try to find a partner for the <i>Free talk</i> activities. O) The online course also has <i>Sounds right</i> and <i>Extra practice</i> activities at the very end of the course content list. Use these for review immediately after finishing each unit, or use them as an end-of-course review. You must do them.</p>
5	Unit 9 - Lesson A & B Sightseeing Countries	<ul style="list-style-type: none"> ・ Give sightseeing information with can and can't ・ Talk about international foods, places, and people ・ Say what languages you can speak <p>Keywords: sightseeing, food, languages</p>	<p>T) Many lessons begin with a conversation or text for listening. After you listen, listen again. This time repeat each line after the audio and try to match the intonation and feeling of the model.</p> <p>O) Many online activities provide the chance to listen, repeat and record your voice. Try to match your intonation and feeling to the model.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
6	Unit 9 - Lesson C & D They're a kind of candy. A songwriter? Really?	<ul style="list-style-type: none"> ・ Explain words using kind of and kind of like ・ Use like to give examples ・ Read a travel website ・ Write a paragraph for a travel website <p>Keywords: giving examples, online travel information</p>	<p>T) Growing your vocabulary is a key to building your language skills. Always read the <i>Learning tip</i> and complete activities on the <i>Vocabulary notebook</i> page. Many students do this work in a separate, vocabulary notebook. Check off the items in the <i>Can Do! Now I can...</i> box to confirm that you studied and can do those things.</p> <p>O) Growing your vocabulary is a key to building your language skills. <i>Vocabulary notebook</i> appears between <i>Lessons B</i> and <i>C</i> in each unit. Complete the activities and complete the <i>On you own</i> task in your own vocabulary notebook.</p>
7	Checkpoint review Units 7-9	<p>Questions and follow-up questions! Using expressions Interests & tastes</p> <p>Keywords: questions, interests</p>	<p>T) After you finish three units, you will see a <i>Checkpoint</i> review lesson. Complete these activities and check your answers. When you finish three units (e.g., Units 7-9), send your workbook, written work and course checklist to the 通信教育部 office so the instructor can record your work.</p> <p>O) After you finish three units, you will see a <i>Checkpoint</i> review lesson with 3-4 sections. Always complete these activities to review the content and confirm your learning. After finishing a <i>Checkpoint</i> review, always send the instructor an e-mail to let him know he should check your results and confirm that you've completed those three units successfully.</p>
8	Unit 10 - Lesson A & B A night at home A busy week	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about last night using simple past regular verbs ・ Describe the past week using simple past irregular verbs ・ Ask simple past yes-no questions <p>Keywords: describing past events, stories</p>	<p>T/O) Vocabulary is VERY important in language learning and in <i>Touchstone</i>. Keep a vocabulary notebook for for <i>Vocabulary notebook</i> page work. And in the same notebook, write any unfamiliar words and phrases you meet in your studies. Include related information like parts of speech, definitions, examples, Japanese meanings and pictures.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O) = online / T) = textbook
9	Unit 10 - Lesson C & D Congratulations! A blog	<ul style="list-style-type: none"> ・ Respond to news with Good for you, etc. ・ Say You did? to show surprise or interest ・ Read about a blogger's week ・ Write a blog about your week, using after, before, when, and then <p>Keywords: responding, listing activities</p>	<p>T) The 2nd page of each lesson has a tip box (<i>Common errors, In conversation, Reading tip, Help note, etc.</i>) . Always read these and think about them as you do the activities on that page.</p> <p>O) Many online activities include a <i>Hint</i> or <i>Tip</i> button. Always check these for useful language or advice.</p> <p>O) Each unit ends with a <i>Unit Outcomes</i> page. Check the <i>Can Do!</i> statements to remember what you've done in that unit. Also use the <i>Language summary</i> links to download key vocabulary and grammar for each lesson. You can add these to your own Vocabulary notebook. If you don't know any words, check them in your dictionary.</p>
10	Unit 11 - Lesson A & B My first... Vacations	<ul style="list-style-type: none"> ・ Describe past experiences ・ Ask and answer questions using the past of be ・ Talk about vacations ・ Talk about activities with go and get expressions <p>Keywords: vacation stories, describing activities</p>	<p>As you do the activities in the textbook and workbook, ALWAYS complete every item in an activity BEFORE looking at the answer key. Creating and writing an answer makes a stronger mental impression. And when you make a mistake, you will remember the mistake and the correct answer better.</p>
11	Unit 11 - Lesson C & D Anyway, what did you do? A funny thing happened...	<ul style="list-style-type: none"> ・ Show interest by answering and then asking a similar question ・ Use Anyway to change the topic or end a conversation ・ Read a funny magazine story ・ Write a story using punctuation for conversations <p>Keywords: expressing interest, humorous stories</p>	<p>T/O) As you study, any time you have a question or don't understand something, feel free to contact the instructor by e-mail or written note. He will try to answer your questions. <i>Touchstone Online</i> also allows you to communicate with the teacher within the system.</p>
12	Unit 12 - Lesson A & B Eating habits What's for dinner?	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about eating habits using countable and uncountable nouns, How much, and How many ・ Talk about food ・ Make offers using Would you like ... and some or any <p>Keywords: food, eating, meals</p>	<p>T) <i>Lessons A & B</i> often include a grammar activity. Always read through the shaded grammar box before doing the activity. If you don't understand the explanation and/or examples, check the same grammar point in a grammar reference book you enjoy using. This will help your learning.</p> <p>O) Grammar explanations for <i>Lessons A & B</i> are available using the <i>Reference</i> tab on the <i>Dashboard</i> or the main course page. Check these before beginning <i>Lessons A & B</i> in each unit.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...) キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
13	Unit 12 - Lesson C & D I just want a sandwich or something. Great places to eat	<ul style="list-style-type: none"> ・ Use or something and or anything in lists ・ End yes-no questions with or ...? to be less direct ・ Read a restaurant guide ・ Write a restaurant review <p>Keywords: restaurants, ordering</p>	<p>T) <i>Lesson D</i> usually includes a reading text. Read the text at least twice. The first time, read it out-loud, trying to sound out the words. The second time, read silently and quickly. Try reversing this process. Which way feels most helpful to you?</p> <p>O) Many online sections include a reading text that you can display using the <i>Read</i> icon. Usually, you'll want to read before you do the activity. Sometimes you'll want to read after. Try different ways to see what helps you most.</p>
14	Checkpoint review Units 10-12	<p>What's the question? Balanced diet? Using the right expression Expressing interest</p> <p>Keywords: eating habits, expressions</p>	<p>T/O) Some <i>Checkpoint</i> activities are conversations, and there are many conversations throughout the course. After you finish a conversation activity (fill-in-the-blank, etc.), always go back and practice the conversation. Try to read a line, cover it with your hand, and then say it. Holding it in memory for a second or two will help you remember the language you are practicing.</p> <p>O) While you're studying each unit, please use the <i>Dashboard</i> link (center top of window) to use various features of <i>Touchstone Online</i>. <i>Content</i> brings you to the <i>Touchstone</i> course activity you are currently working on. <i>Reference</i> has grammar explanations for <i>Lessons A & B</i> of each unit. <i>Forum</i> allows you to record your replies to lesson-related questions and share messages with other students in the course. <i>Blog</i> allows you to freely communicate with the instructor and other students. <i>Resources</i> has online course guides in pdf form (Japanese coming soon!)</p>

回数	テーマ	学習内容(Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
15	Course review	Vocabulary review Self-evaluation	T) In the back of the <i>Workbook</i> is a list of the 500 words spoken most often. Review these. If any are unfamiliar, check them in the dictionary and add them to your vocabulary notebook. O) After finishing each unit, you must take a <i>Unit Quiz</i> . Find these by clicking on <i>Content</i> , then <i>Tests</i> . You can practice each <i>Unit Quiz</i> up to 3 times in <i>Practice Mode</i> . When you feel confident, you can take the Quiz in <i>Test Mode</i> . The instructor will receive that score. After you finish all six units, take the <i>Unit ?? Test</i> . That's your final step. Of course, you can go back and review the material, repeat activities, etc. until your access period ends.

■レポート課題

1 単位め	2017年9月1日までに Touchstone の最初の 3 units を終了してください（9月1日までに終わらない場合は、12月1日までに終了してください）。
2 単位め	Touchstone の残りの 3 units を終了してください（最後の試験含む）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※1 単位め課題を終えた後に、2 単位め課題に取り組んでください。

※2018. 1 / 6～8 のスクーリングを受講するためには、2017年12月1日までに1 単位め課題に合格していることが必要です。冊子版教材を使用する方は2017年11月10日までに1 単位めの課題を提出してください。

なお、2 単位め課題もスクーリング受講までできるだけ終了するようにしてください。

※スクーリング開講が1月でない場合の締切は『With』でご連絡します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

【オンライン版教材を使用する方】

このコースでは、インタラクティブレッスン、小テスト、試験を全てインターネット上でを行い、結果は担当教員に自動的に送信されますので、レポートの提出は原則として必要ありません。ライティング課題が出された場合は、担当教員にメールにて提出してください。

【冊子版教材を使用する方】

3つのUnitが終了したらレポートを提出してください。6つのUnitがありますから、2回提出となります。詳しくはコースガイドをご参照ください。

語学学習は出来るだけ頻繁に行うことが重要です。週に最低2回の学習を行えば大幅な語学力向上が望めるはずです。オンライン版教材では、充分なリスニングやスピーキング練習とインタラクティブな学習が行えるので、英語学習がとても楽しいものとなるでしょう。冊子版教材ではリスニングやライティングを通じて会話や語い、文法を学習することができます。

■留意点

定期的に学習することが大切です。ご自身が集中できる時間にあわせて取り組んでみましょう。

その他の説明と留意点についてはコースガイドを参照してください。

※オンライン版教材にて学習する方については、個人のパソコンの不具合を理由とするスクーリング受講条件の申込締切延長やライセンスの延長には応じられません。早めに学習を進めてください。

※オンライン学習中に、担当教員からの連絡が掲示された場合は必ず内容を確認してください。同様に、担当教員からメールが届いてないか1週間に1回以上定期的にチェックしてください。返答が求められている場合は速やかに行ってください。

■補助教材

優良な英和辞典（ジーニアス、他）。オンライン辞書も利用できます（アルク、goo、weblibなど）。補助学習としてリーディング、リスニング、単語学習を行うことを奨励します。グレイテッドリーダーや東北福祉大図書館の多読コーナーについての説明は下記の担当教員のウェブサイトを参照してください。

< <https://sites.google.com/site/kjschsite/> >

その他の参考教材についてはコースガイドを参照してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「コミュニケーション力」「レポート作成力」を身につけてほしい。

スポーツの心理学		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1年以上
科目コード	AS1028	担当教員	佐藤 伊知子	



この科目は2017年度に新設された科目で、履修方法：SR（会場スクーリング受講＋レポート1課題）により単位修得します。

■科目の内容

「根性」って何だろう？大事な試合になればなるほど緊張するのはどうして？ベストなパフォーマンスを発揮するためにはどうしたら良い？など、スポーツ場面で感じる疑問を心理学として考えていく。

過緊張によりパフォーマンスにマイナスの影響が出ることを防ぐリラクゼーション法や集中力を鍛えるメンタルトレーニングなどを実践し、スポーツ場面以外でも活用できるメンタルコントロール手法を身につける。社会心理学的要素のチーム理論やリーダーシップ、教育心理学的要素を含むスポーツ指導法などに関しても社会生活の中で応用できるような学びを目指している。

名指導者の独特の指導法やトップアスリートの思考を例に挙げ、それらがどのような意味や効果を持つのか解説する。

■到達目標

- 1) スポーツに関する諸事象について心理学的に分析しスポーツの技術と競技力向上に必要な心理学的要素を論じることができる。
- 2) リラクゼーション法を身につけ日常でも実践できるようになる。
- 3) 指導者（リーダー）に必要な要素を理解し社会で活かす方法を考え出すことができる。

■教科書

徳永幹雄編『教養としてのスポーツ心理学』大修館書店、2005年

■スクーリング時の教科書

上記教科書を参考程度に使用します。

スクーリング

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 「根性」から「心理的競技能力」へ	スポーツに必要な「心の技術」とは
2) スポーツ不安①	あがりとは何か、どんな時に起きるのか
3) スポーツ不安②	覚醒水準とパフォーマンスとの関係
4) スポーツ不安を軽減させる手法	リラクゼーション・イメージトレーニング
5) チーム（集団）チームワークとは	集団を構成する要素・成立までのプロセス

テーマ	内容
6) リーダーシップとは	リーダー・フォロワーの役割・PM リーダーシップ論
7) スポーツ指導法	モチベーションを高める指導法
8) 質疑応答	
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

テキストやパワーポイントなどをもとに板書をしながら進めます。リラクゼーションやメンタルトレーニングなどは実践も行います。

■スクーリング 評価基準

試験では主に授業で学んだ用語の理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第2部「競技スポーツの心理学」を中心に復習し、レポート学習に取り組んでください。

教科書・レポート

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	競技者に必要な心理的スキルとは（第2章）	心理的スキルとは？心理的スキルとパフォーマンスの関係 キーワード：精神力・心理的競技能力	まずは「精神力」「根性」という漠然とした考え方を心理学的に、科学的にとらえる重要性を理解しましょう。
2	よい緊張感はどうのように作られるか（第4章）	よい緊張感とはどんなことを指すのだろうか。悪い緊張感とは？ キーワード：緊張度と実力発揮の関係・リラクゼーション	緊張はすべて「悪」ではありません。緊張感は無さすぎてもありすぎてもパフォーマンスに悪影響を及ぼしますが、その間に「良い緊張」があるということを学びましょう。
3	集中力はどのようにして高めるか（第5章）	集中力とは？集中力を高める練習・妨害されない練習・持続する練習 キーワード：注意を一点に集める	集中力も心理的スキルの一つです。練習で向上させることが可能です。注意力を必要なところに向けるためにはどのような練習法があるのでしょうか。
4	自信を高めるには（第6章）	技術に関する自信、体力に関する自信、心理面に関する自信、それぞれにどのようなアプローチができるか？ キーワード：自己効力感	自信というものも心理的競技能力として欠かせないスキルです。ゆるぎない自信を持つことができればパフォーマンスにも好影響を及ぼします。
5	チーム作りに必要な心理的要因①（第9章）	チームとは？チーム作りのプロセスとは？ キーワード：チームビルディング	人が集まればすぐにチームができるというわけではありません。チームとはどのような機能が必要か、どのような過程を経て出来上がるのか学んでください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	チーム作りに必要な心理的要因 ②（第9章）	コミュニケーションスキルの重要性とは？協調性と個性化の育成 キーワード：言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション PM リーダーシップ論	チームをより強固なものにするためにコミュニケーション力や役割分化は不可欠です。どのようにスキルアップすることができるか学びましょう。
7	スポーツ技術獲得の心理的課題は何か （第11章）	運動学習の理論、合理的な技術獲得の練習法 キーワード：スキーマ理論・ゲームライクプラクティス	有効な効果が得られない練習をいくら続けても上達はしません。理論に裏打ちされた指導を行うことにより合理的に強化することができます。指導者に必要な視点を学びましょう。
8	スポーツ心理学の基礎知識 （附章）	スポーツ心理学に必要な基礎知識とは キーワード：動機付け理論・コーチング	スポーツ指導者側の視点として、選手のやる気を刺激する方法やストレスに対する認知の再構成などの働きかけによるストレスマネジメントは不可欠です。様々な手法について学びましょう。

■レポート課題

1 単位め	あなたがスポーツ指導者になった場合、どのようにチームを作り、どのような手法を用いてチーム強化を図りますか？その根拠も含め記述してください。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読むこと。特に第2部の「競技スポーツの心理学」には、チームが持つべき機能やチームビルディング（第9章）競技者に必要な心理的スキル（第2章）メンタルトレーニングやリラクゼーション（第3章）作戦のトレーニング法（第7章）などについて詳しく書かれています。また、第10章の実践例も参考になりますね。それらを理解した上でレポートテーマについて考えていきましょう。

まずは自分が指導するチームの種目とレベル、年齢層を自由に設定してください。設定するのが難しい場合は下記の例に挙げられたものから選んでいただいても結構です。

<例>

- ・中学生の野球部・男子生徒のみ25名在籍・県大会準優勝レベル
- ・スポーツ少年団のバレーボールクラブ・小学3年生～6年生男女20名在籍・全国大会出場レベル
- ・ママさん卓球サークル・20代～50代までの女性15名在籍・半数が初心者・体力維持増進目的
- ・サッカー日本代表チーム・10代～30代までの男性25名在籍・全員プロ選手・世界ランク45位

自分が設定した指導対象チームの特性をしっかりと見極め目標を設定してください。その目標を達成するために必要と思われる役割分化や人材配置などについて考えましょう。また、チーム構成員のモチベーションやチームワークを高めるためにどのようなことを行うのか、心理的競技能力を高めるため何をするか、など具体例を挙げながら述べてください。

■レポート 評価基準

- ① チームの目標が的確に設定されているか。また、目標達成のための役割分化・人材配置などがマッチしているか
- ② チームや選手に対して行う指導が経験や感覚から提案するのではなく、科学的、心理学的な根拠に基づくものであるか

の2点を重視します。「スポーツの心理学」のレポートですのでフィジカル面やテクニカル面の向上よりもメンタル面の強化・向上を主に考えてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、自己理解に基づくセルフコントロール力（リラクゼーション、アクティベーションの実践）、集団理解に基づく対人調整力（チームワークとコミュニケーション力）を身につけてほしい。

■参考図書

日本体育協会『公認スポーツ指導者養成テキスト』

日本体育協会『21世紀のスポーツ指導者 ～望ましいスポーツ指導者とは～』

いずれも市販されていませんが、日本体育協会のHPで閲覧もしくは購入可能です。

スポーツ(バレーボール)		単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
		1単位	SR(実技)	1年以上
科目コード	AS1023	担当教員	佐藤 伊知子	



※2017年度以降、スクーリングは開講しません。レポート提出は2018年4月1日までです。

※この科目は2015年度より1単位科目に変更されています。ご注意ください。

■科目の内容

スポーツは私たちの健康や体力作りはもとより、生きがいや仲間作りにも大きな役割を果たすものです。本科目では、スクーリングによる実技講習において基礎体力の養成やバレーボールの基本技術やルールの習得を目指します。また、2人一組での練習やチーム練習などを通して、協力する精神を学びます。

バレーボールの中でもっともポピュラーな「6人制バレーボール」以外にも、生涯スポーツとして人気の高い「ソフトバレーボール」も体験してみましょう。

■到達目標

- 1) ソフトバレーボールの基本技術を実践することができる。
- 2) ソフトバレーと6人制バレーのルールの違いを論じることができる。
- 3) 受講者の年齢や技術レベルに合わせたルールを考案することができる。
- 4) スポーツの持つ力について論じることができる。
- 5) 互いを配慮しながら協力的に行動することができる。

■教科書

スクーリング時に資料配付

■在宅学習3のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	健康とスポーツ	スポーツが大切とされている理由を考察し、スポーツの持つ可能性について考える。 キーワード：体の健康・心の健康・社会的健康	高度文明社会への発展は私たちの生活の利便性を向上しさまざまな場面での時間短縮を可能にしました。その裏で慢性的な運動不足や人間関係の希薄さなどから生活習慣病や心因性の疾患が増えています。このような現代社会でスポーツが担う役割とは何かを考えてみましょう。
2	6人制バレーボールの理解	バレーボールの中で最もポピュラーな種別の6人制バレー。その歴史やルールの変遷を学ぶ。 キーワード：ルール理解・高い競技性・メディアとの関係	1964年開催の東京大会から五輪正式種目となったバレーボール。その後世界へ広まっています。これまで何度もルール改正がおこなわれていますが、どのような改正が何のためにおこなわれてきたのかなどを調べてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	ソフトバレーボールの理解	生涯スポーツとして人気があるソフトバレーボール。取り組みやすさの要因は何かを理解する。 キーワード：工夫・配慮	年齢・性別・スポーツ経験がまちまちな学生が受講するスクーリングはソフトバレーを中心に実技をおこないます。ソフトバレーのルールにはどのような工夫・配慮があるのかを知り、取り組みやすさの要因とは何かを考えましょう。

■レポート課題（課題はスクーリング受講後に提出してください）

1 単位め	バレーボールの基本的なルールを述べ、初心者同士が試合を行う場合に適用したほうがよいものと、適用しないほうがよいものについて考察しなさい。
-------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

バレーボールの基本的な技術（オーバーパス・アンダーパス・サーブ・アタックなど）はスクーリングでの実技講習で学びます。6人制バレーボールやソフトバレーボールなどを体験してみると、そのルールの中からさまざまな「配慮」「工夫」が見て取れます。スポーツを通してその「配慮」や「工夫」について考えてみてください。

年齢や性別、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむためにはそのような視点が必要となってくるのです。

**1 単位め
アドバイス** まず、テキストの9「勝つためのルールをおぼえよう」を参考に、6人制バレーボールのルールについて述べてください。

「ルール」は競技スポーツとしてはなくてはならないものではありませんが、初心者や技術や体が未熟なプレーヤーに対して完全に適用すると、ラリーが途切れ、試合そのものが楽しくないものになりかねません。

遊びやレクリエーションもそうですが、スポーツもルールをその人たちのレベルにあわせて適用させたり、アレンジすることによって、誰もが楽しめるものになります。

初心者が楽しめるものを目指す、というところがポイントとなります。バレーボールの場合、どの部分をどうアレンジすれば初心者の人でも楽しくゲームが進められるか、どのルールはそのまま適用するかを考えてまとめてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「コミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

日本バレーボール協会編『最新ソフトバレー・ハンドブック改訂版』大修館書店、2006年

特講(子どもの貧困)		単位数	履修方法	配当学年
		1単位	S	1年以上
科目コード	AT1027	担当教員	池上 和子	

※2017年度の開講予定は未定です。開講する場合は『With』や『試験・スクーリング情報ブック2017』でご案内します。

■スクーリングで学んでほしいこと

日本では子どもの6人に1人が貧困状態にあり、子どもの貧困の問題が社会的にも大きな関心をもたれるようになってきている。子どもの貧困はたんに経済的な乏しさ、物質的な不足のみならず、多くの子どもたちは親の離婚や失業、疾病などいくつもの逆境状況におかれている。こうした多重逆境の子どもたちの現実を、児童養護施設の入所児童の現状と課題を理解し、多重逆境の子どもたちの福祉臨床的支援のニーズと目的を学びます。

■到達目標

- 1) 多重逆境の視点を通して子どもの貧困の現状を理解し、それをふまえて児童養護施設などの社会的養護の子ども背景と課題を理解することにより、福祉臨床的な支援の必要性と目的を学ぶ。
- 2) 多重逆境が子どもの心理や発達に及ぼす影響と具体的事例を学び、支援の実際や支援者の機能や役割について理解する。
- 3) 多重逆境の子ども自立のための課題について考えることにより、子どもが貧困や多重逆境から脱却可能にするための支援や社会のあり方について学ぶ。

■スクーリング講義内容

※以下の講義内容は2016年度のものであります。

回数	テーマ	内容
1	多重逆境としての子どもの貧困	虐待保護・児童養護施設・保護者・家族
2	多重逆境の子どもの背景	親の離婚・家庭破綻・心を病む親の問題・親との離別・死別
3	多重の喪失と分離	養育の連続性の混乱や破綻・親のDV・反社会的行動・疾病による心理的影響
4	二重の剥奪状況	早期剥奪・ネグレクトの影響・環境の剥奪状況と心の剥奪状況・心理的課題
5	ネグレクトと教育の問題	考える機能の傷つき・心理的困難と学習困難・自尊心と将来展望
6	多重逆境からの自立の課題	実親との心理的課題・教育と職業選択・自立に必要な支援
7	まとめ・質疑応答	

回数	テーマ	内容
8	スクーリング試験	

■講義の進め方

スクーリングにあたり、当日、資料、文献等を配付し使用します。

■スクーリング 評価基準

- ・授業への参加状況50%およびスクーリング試験50%
- ・試験は単に知識の有無の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、問題テーマについて自分自身の見解の論述を問います。

■スクーリング時の教科書

- ・以下の教科書は必ず持参してください。

池上彰編『日本の大課題 子どもの貧困－社会的養護の現場から考える』ちくま新書、2015年

※教科書はスクーリング受講料納入者に送付します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～20時間）

教科書の第4章、5章、6章、7章を読んで受講ください。さらに第1章から3章までもおおよそでもいいので目を通しておくと、より理解しやすくなります。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

福祉・教育・医療の現場における子どもと保護者・家庭を取り巻く社会状況に多重逆境の視点から心理社会的課題について考え、福祉実践者が担う役割や可能性について学び、理解を深めてください。

■参考図書

- ・M. シュタイン著 池上和子訳『社会的養護から旅立つ若者への自立支援』福村出版、2015年
- ・J. J. ヘックマン著 古草秀子訳『幼児教育の経済学』東洋経済新報社、2015年

社会福祉学科関連 専門科目



この部は「社会福祉学科 専門選択科目」「福祉心理学科 専門選択科目 B 群」のうち、下記以外の科目が掲載されています。

- ①社会福祉士・精神保健福祉士国家試験指定科目（＝『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』に掲載）
- ②心理学系の科目（＝『レポート課題集 C（心理専門編）』に掲載）
- ③特別支援教育関連の科目（＝『レポート課題集 D（特別支援編）』に掲載）
- ④高等学校教諭一種免許状（福祉）関連の科目（＝『レポート課題集 2014（心理・教職編）』および通信教育部ホームページに掲載）

掲載科目は、目次や索引でご確認をお願いいたします。

社会福祉の基礎

社会福祉の基礎			単位数	履修方法	配当学年
			1 単位	R or SR	1 年以上
科目コード	DA2050	担当教員	三浦 剛		



※ p.57「社会福祉学入門」(科目コード：AH1050、共通基礎科目) をご参照ください (同じ内容になります)。

福祉ボランティア活動

	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
		1単位	R(実習)
科目コード	DA2142	担当教員	小野 芳秀



※この科目はレポートのみで単位認定します（科目修了試験はありません）。

■科目の内容

ボランティア活動は実践することに意義があります。本科目は、学生の普段からの自発的な活動に対し、これを推進し、また学生自身がレポートの形で第三者に伝えることで、学生自身が活動を客観的に振り返り、点検を行った結果を次に活かすことを目的としています。したがって評価対象は、活動者の実体験に基づく「活動の振り返り」や「内省」「客観的な考察」が主となります。

■到達目標

課題1（自身の活動を題材にする場合）

- 1) 自身が行ったボランティア活動に対し、課題に提示された①～⑧・⑨の項目に沿ったレポートにより他者に報告する形式で客観的な振り返りを行うことができる。
- 2) 活動中に直面した問題や課題に対し、自分なりの改善案を提案することができる。
- 3) 計画的な実践活動として、活動の質を向上させるための方策をレポートで提示できる。

課題2（他者の活動を題材にする場合）

- 1) 他者が行ったボランティア活動あるいは団体の活動について、取材を通して客観的にレポートに記述し分析することができる。
- 2) 活動の取材を通じて、活動者本人が感じている“やり甲斐”や“意義”を理解することができる。
- 3) ボランティア活動の実際を理解することができる。

■在宅学習8のポイント

テキスト 指定なし

※ボランティア活動未経験者を想定し活動開始から終了までの流れに沿ってポイントを説明する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアの意義と性格	ボランティア活動の意義と性格を理解する。 キーワード：ボランティア活動の性格、自身の目的の明確化	ボランティア活動の性格である①自発性、②無償（給）性、③公益性（公共福祉）性、④創造性、⑤継続性について理解した上で、自身が希望する活動（頻度・期間、対象、場所、形態等）を明確にする。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	ボランティア活動の情報収集	ボランティアセンター等の活用。 キーワード：ボランティア・センター、ボランティア・コーディネーター、ボランティア・アドバイザー、社会福祉協議会	自身にとって無理のない活動を探す（マッチング）。地域のボランティアセンター（社会福祉協議会等に設置）窓口にて自身が希望する活動を探し、必要に応じてボランティア・コーディネーター相談する。
3	ボランティア活動調整	ボランティア依頼者（団体・NPO等）との事前調整。 キーワード：「ボランティア活動保険」	「どのような内容（どこまでやるのか）」、「いつまでやるのか」についてボランティアと依頼者の間で予め合意形成を図る。ボランティアセンターの窓口で「ボランティア活動保険」に加入する。
4	ボランティア活動の開始	ボランティア活動を開始する。 キーワード：活動記録、守秘義務、相談者の確保	活動中のトラブルや疑問について随時相談できる人材（ボランティアセンターのスタッフや活動先団体の担当者等）・体制を自ら確保する。活動内容や課題・対応策等について任意のノートに記録する。
5	ボランティア活動の終了	ボランティア活動の終了。 キーワード：振り返り、引継ぎ、活動評価	活動プログラムの点検や引継ぎを行う。
6	ボランティア活動の振り返り	ボランティア活動の振り返り。 キーワード：課題・問題の明確化、振り返り	自身の活動を振り返ることで課題・問題点を明確化し、客観的に振り返りを行う。
7	ソーシャルアクションの検討	個別ニーズから福祉的ニーズへの捉え直し。 キーワード：ソーシャルアクション	身近な活動から得られた知見から依頼者のニーズを福祉的ニーズとして社会全体の構造の中で捉え直し、可能であればソーシャルアクションに発展させる。
8	ボランティア活動記録の作成	ボランティア活動の総括として記録やレポートにまとめる。 キーワード：記録作成	記録やレポートにまとめることで、経験を言語化する。課題や改善案を自身の次回以降の活動に活かす。活動初心者の参考として情報を共有する。他の活動者との課題や解決策の共有化を図る。

■レポート課題

1 単位め (課題1・2 のいずれか 1つを選択)	課題1：あなたが行ったボランティア活動について、以下の項目に従い具体的に記述しなさい。 ①「活動対象」②「活動期間」③「活動動機・目的」④「活動内容」 ⑤「研修・準備期間」⑥「問題点・反省点」⑦「改善案（⑥について）」 ⑧「自己評価（③を含めて）」⑨「質問」
	課題2：あなたの身近なボランティア個人・ボランティア団体について、上記の③～⑦・⑨について、具体的に調査し記述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※課題1または2、どちらかを選択。

あなたが1年間を振り返り、実際に行ったボランティア活動について記述することが可能であれば

課題1を、ボランティア活動が行えなかった場合は課題2を選択してください。

■アドバイス

課題1 アドバイス

- ①「活動対象」には、対人ボランティアの場合は、「高齢者」「障害者」「児童」等を、それ以外は活動の対象を表記してください（例：河川清掃等の環境ボランティアの場合は「近所の河川」と表記）。
- ②「活動期間」には、活動を行った日時・延べ活動時間を記述してください（例：2010年5月2日（3時間）・5月14日（2時間）・7月12日（3時間）延べ8時間）。
- ③「活動動機・目的」には、「なぜそのボランティア活動をしようと思ったのか」、また「どのような目的で活動を行ったのか」について記述してください。
- ④「活動内容」には、ボランティア活動の内容について具体的に記述してください。
- ⑤「研修・準備期間」には、その活動を行うにあたり準備したことや、事前に参加した研修等について記述してください。特にない場合は省略して構いません。
- ⑥「問題点・反省点」には、活動の際に生じた問題、反省点等を記述してください。
- ⑦「改善案（⑥について）」には、⑥で直面した問題について、「どのように対処したか」、また、後から活動を振り返って「こうすれば良かった」について記述してください。
- ⑧「自己評価（③を含めて）」には、③の活動動機・目的について、「実際活動してそれが達成できたかどうか」について記述してください。
- ⑨「質問」には、活動を通して感じた疑問等、また活動に直接関係がなくともボランティアに関する質問があれば自由に記述してください。

注意

- ・レポートに具体的個人名は記載せず、プライバシーに十分配慮してください。
- ・本科目は、受講者の普段からの自発的なボランティア活動について評価を行うものであり、レポート評価が直接的な目的ではありません。これから活動する方で、特に対人のボランティア活動を行う場合は、この点について十分自覚し、形だけの活動になって相手に不快感を与えることのないよう、真摯な態度で臨んでください。
- ・活動中の事故については、全国の県・市・区の社会福祉協議会が窓口となっている「ボランティア保険」があり、活動によって生じた事故による通院費や対人・対物賠償が補償されます。それぞれの窓口にお問い合わせで、事前に加入しておくことをお勧めします（掛け金年間数百円程度）。
- ・①「活動期間」は、定期的に長期間にわたるもの、イベント等の単発活動を問いません。ただし、1、2時間程度の活動が1回のみ場合は、「レポートの題材および水準に見合わない体験的活動」として評価対象外とします。最低2回以上の活動を希望します。
- ・「活動記録ノート」を用意し、その日に活動した内容について項目毎に記録しておくこと、レポートとしてまとめる際に役立ちます。
- ・レポートとして記述する活動は複数でも構いません。複数の場合はそれぞれ分けてレポートを作成してください。
- ・家族や身内を直接的な対象とする活動は本科目において評価対象外とします。



課題1を参考に、③～⑦・⑨について取材形式で調査した内容からレポートを完成させてください。取材調査を行う場合は、相手に調査の目的およびプライバシーを配慮する旨を説明しましょう。

■ 「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」「問題解決力」「自己管理能力」「協調性・主体性」「倫理観」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

基礎演習		単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
		1単位	S(演習)	1年以上
科目コード	DA2145	担当教員	寺下 明/門脇 佳代子/ 小野 芳秀	

※ p.24「基礎演習」(科目コード：AB1145、共通基礎科目) をご参照ください (同じ内容になります)。

発達障害者の地域支援

			単位数	履修方法	配当学年
			1単位	S	1年以上
科目コード	DD2211	担当教員	三浦 剛		



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。

■スクーリングで学んでほしいこと

これまで法の狭間におかれてきた学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（AD／HD）、アスペルガー一症候群や高機能自閉症といわれる人たちの、その障害の特性を学び、教育、司法、就労などのさまざまな領域からの支援アプローチを学ぶ。なかでも個別支援計画の策定や社会資源開発といった地域生活支援に必要とされる社会福祉援助技術を中心に、事例を用いてその支援のあり方や方法の実際を学ぶ。

- ・発達障害の概念
- ・その生活困難の特徴
- ・地域生活支援の理念、内容、方法
- ・ライフステージごとの地域生活支援の実際
- ・今後の課題

■到達目標

- 1) 発達障害の概念について説明することができる。
- 2) 発達障害がある人の生活上の困難を生活の実態を通して説明することができる。
- 3) ソーシャルワークによる地域生活支援の考え方を説明できる。
- 4) 支援制度や方法の具体的仕組みについて説明することができる。
- 5) 支援を行う際の資源やそれらの連携システムの活用法が説明できる。
- 6) 支援の今後の課題について、自分の意見をまとめ、説明することができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達障害とは	発達障害の概念を学ぶ
2	ソーシャルワークによる地域生活支援①	支援の理念
3	ソーシャルワークによる地域生活支援②	支援の方法、制度
4	乳幼児期支援の実際	早期療育システムによる支援の実際

回数	テーマ	内容
5	児童・生徒期の支援の実際	教育場面を中心に、スクールソーシャルワークも視野に
6	就労支援の実際	地域支援システムでの支援過程の展開
7	これからの課題	社会的排除を視点に考える
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（プリントと自筆ノートのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

スクーリング時にプリントを配付。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

以下のキーワードについて、調べておくこと

「発達障害概念の変遷」「発達障害者支援法」「(早期)療育システム」「スクール（学校）ソーシャルワーク」「就労支援の過程（ケアマネジメント）」「社会的排除」

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

発達障害の障害特性により引き起こされる社会的排除を、地域生活、教育、就労などの各場面ごとに説明でき、その解消のためにはどのような支援策が必要か考え、自らの立場でできること、やらなくてはならないことを具体的に考えてみる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

杉山登志郎著『発達障害の子どもたち』講談社現代新書、2007年

山崎晃資編著『自閉症スペクトラムと特別支援教育』金剛出版、2010年

新見俊昌他編著『青年・成人期自閉症の発達保障』クリエイツかもがわ、2010年など

認知症介護論

		単位数	履修方法	配当学年
		1単位	S	1年以上
科目コード	DD2215	担当教員	高橋 誠一	



※この科目は隔年開講予定のS科目です。2017年度は開講しませんので、履修登録も不可となります（次回開講予定は2018年度）。

※履修登録は、2018年2月の追加履修登録から可能となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

講義では、パーソンセンタードケア（その人を中心としたケア）を基本に、認知症を抱えた人の支援とソーシャルワークについて学びます。認知症の病気の面ではなく、本人の生活の面から認知症ケアを考え、その人らしい生活を継続していく支援を考えます。

■到達目標

- 1) 認知症を抱えた人の気持ちを理解できるようになる。
- 2) 家族の気持ちを理解できるようになる。
- 3) パーソンセンタードケアの基礎を説明できる。
- 4) バリテーションセラピーの基礎を説明できる。
- 5) 認知症を抱えた人の基礎的な支援ができるようになる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	認知症の基本的理解	認知症の基本的理解をQ&A形式で学ぶ
2	認知症の経験	認知症を抱えて生活することの不安と本人の生活上の工夫を理解する
3	パーソンセンタードケア	パーソンセンタードケアの基本的考えを理解する
4	悪性の社会心理	パーソンセンタードケアにおける、本人の尊厳や価値を低める「悪性の社会心理」を理解する
5	前向きな働きかけ	パーソンセンタードケアにおける、本人の5つの心理的ニーズと本人の尊厳をまもる関わりである「前向きな関わり」を理解する
6	アセスメントとケアプラン	認知症ケアにおけるアセスメントとケアプランを理解する
7	認知症の施策と地域の取り組み	認知症の施策であるオレンジプラン、地域包括ケアなどについて理解する
8	まとめ・質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況20%+スクーリング試験80% 持ち込み全て可。パーソンセンタードケアについての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

トム・キットウッド（著）、キャスリーン・ブレディン（著）、高橋誠一（監訳）、寺田真理子（翻訳）『認知症の介護のために知っておきたい大切なことーパーソンセンタードケア入門』筒井書房・全国コミュニティライフサポートセンター、2005年。※教科書は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「応用的知識」「論理的思考力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

知的障害者福祉論

単位数	履修方法	配当学年
2単位	R or SR	2年以上



科目コード	DD3119	担当教員	赤塚 俊治
-------	--------	------	-------

■科目の内容

知的障害者福祉支援策は多様化しました。また、知的障害者福祉施策の根底に流れる福祉観も「脱施設化」といった新たな動向が見られます。とくに、障害者自立支援法（2006年）の施行は、従来の知的障害者福祉の支援システムを大きく変革させ、知的障害者自身の利用者本位が一層強化されるようになりました。こうした知的障害者福祉の進捗に対して、社会福祉施設や地域社会における知的障害者の生活実態を分析すると、数多くの課題や問題点が山積しています。こうした社会的背景にあって2012年6月、障害者総合支援法（「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」）として可決し、これまでの自立支援法の一部が改正されました。難病患者も対象となり、重度訪問介護サービスの対象拡大などがあらたに含まれました。しかし、応益負担、地域格差、家族の負担などの問題は残っています。2017年から社会福祉法が改正され、経営組織のガバナンス強化が図られます。

そこで本科目では、こうした社会的動向を踏まえながら、いかにして知的障害者が社会的自立とその支援策を確立することが可能かをさまざまな視点から論考することにします。そのためには知的障害者が抱えている今日的課題と問題点を、現行制度の限界性と社会生活の実態との乖離^{かいり}からその要因を明らかにしたいと考えています。

■到達目標

「施設福祉サービス」と「在宅福祉サービス」との相関関係を理解し、現代社会における知的障害者の社会的不利益の要因などを分析しながら、今後の知的障害者福祉のあるべき方向性を論考し、さらなる理解を深めることができる

■教科書

赤塚俊治著『新・知的障害者福祉論序説』中央法規出版、2008年

（最近の教科書変更時期）2008年10月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	知的障害者福祉の基本的理念と指針① (第1章)	知的障害者福祉の基本的理念	知的障害者福祉における基本的理念を理解しながら、その歴史的変遷の過程でどのように社会福祉の実施体制が変化していったかを押さえましょう。
2	知的障害者福祉の基本的理念と指針② (第1章)	知的障害者福祉関連法の理念と世界宣言 知的障害者福祉を学ぶ基本的視点	障害者福祉に関するわが国の法律や世界宣言等を見ていくことで、基本的理念の動向を追っていきましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	知的障害者の概念と実態 (第2章)	知的障害者の概念 知的障害者の実態と課題	ここでは、知的障害の定義と分類を理解しましょう。また、知的障害者数の動態と生活実態について、統計などから把握しましょう。
4	知的障害者福祉の過去と現在 (第3章)	知的障害者福祉の歴史的変遷 現代社会における知的障害者への意識構造	どのような時代的背景によって知的障害者の支援サービスが展開されてきたのかについて見てみましょう。
5	障害者総合支援法と知的障害者福祉施策との関係性① (第4章)	障害者総合支援法が及ぼした知的障害者への影響	障害者総合支援法制定に至るまでの背景と、その課題とは何かを説明できるようにしましょう。
6	障害者総合支援法と知的障害者福祉施策との関係性② (第4章)	知的障害者福祉法と福祉サービス体系	知的障害者福祉法と障害者総合支援法との関係について、押さえましょう。
7	知的障害者の社会生活支援の進展① (第5章)	知的障害者を取り巻く社会環境と就業状況	知的障害者の自立にはどのような課題があるのかをまとめると良いでしょう。
8	知的障害者の社会生活支援の進展② (第5章)	知的障害者に対する日常生活への支援体制① 知的障害者の所得保障関連法 知的障害者福祉の関連機関とその機能	知的障害者の所得を保障する関連法とその内容について把握しましょう。
9	知的障害者の社会生活支援の進展③ (第5章)	知的障害者に対する日常生活への支援体制② 関連支援事業	障害者総合支援法に伴って制定された、地域生活支援事業と、その内容について把握しましょう。
10	施設福祉の現状と課題① (第6章)	知的障害者施設（障害者支援施設）の福祉サービス	知的障害者施設のあり方について、考察しましょう。
11	施設福祉の現状と課題② (第6章)	知的障害者施設（障害者支援施設）の役割と専門性	知的障害者施設職員の資質とは何かを考えてみましょう。
12	地域福祉と在宅福祉の現状と課題① (第7章)	地域福祉の意義及び公的責任と役割	知的障害者福祉にとって地域福祉とはどのような意味を持つのか、基本的理念をを踏まえて考察しましょう。
13	地域福祉と在宅福祉の現状と課題② (第7章)	在宅福祉サービスの現状と課題	知的障害者福祉における在宅福祉システムのあり方について、考察しましょう。
14	今後の知的障害者福祉の課題と展望① (第8章)	知的障害者福祉への視座	知的障害者福祉の基本的課題を整理し、説明できるようにしましょう。
15	今後の知的障害者福祉の課題と展望② (第8章)	知的障害者福祉の展望	知的障害者の視点から今何が必要なのかを考え、ケアマネジメント実施に結びつけていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	知的障害者福祉支援の歴史の変遷を述べながら、今後の施設福祉の役割と機能について考察しなさい。
2 単位め	地域社会における知的障害者の在宅福祉の現状と課題について、具体的なケースを取り上げながら考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

知的障害者福祉論を学習する際、過去に知的障害者が社会的にどのような社会福祉支援を受けてきたかを歴史的に学ぶことが大切です。とくに、「施設福祉」と「在宅福祉」との相互関係について理論的に明らかにすることが重要です。現在、知的障害者への社会的理解が深まるとともに、知的障害者も可能な限り地域社会において人々と生活すべきであるとするノーマライゼーションが謳われるようになり、これまでの施設中心主義的施策から、知的障害者福祉を一人ひとりの個人としてとらえ地域社会で独立的に生きることを基本にすえて、普通に暮らせる社会の実現に向けた社会的資源の整備の確立を目指した施策が展開されています。しかしながら、こうした知的障害者に対する制度や福祉サービスメニューおよび施策が体系的に整備されているなかで、現実に施設や地域社会で生活している知的障害者の日常生活の実態からすると「普通の生活」を送るための諸条件が十分に整備されていないことを考慮しながら学習することも大切です。

なお、レポート作成を行う際は、次の基本的な視点をふまえながら、レポートを仕上げてください。

- (1) 知的障害者福祉論は、客観的・実証的な枠組みに基づいて構成されています。したがって、レポート課題を作成するにあたっては、知的障害者の人生にとって「普通の生活」の確立は単なるスローガンで終わるのではなく、希望に満ちた輝かしい福祉社会のなかで達成することが可能かをさまざまな視点から考察してレポートを作成してください。
- (2) 知的障害者の施設は、働く職員にとっては職場であっても、知的障害者にとっては暮らしの場であり、生きる生活の拠点であることを考えながらレポートを作成することが大切です。
- (3) レポートの作成にあたっては、単にテキストを読んで理解した内容をそのまま書くのではなく、知的障害者の日常生活で起きているさまざまな問題点を取り上げながらまとめることが重要です。たとえテキストの記述内容とは異なったレポートの内容であったとしても、そのレポートの内容が十分な分析と考察が行われていれば、評価もそれだけ高くなります。

1 単位め アドバイス

テキストの第1章から第5章（旧テキストの第1章から第4章）までをよく読み、知的障害者福祉の基本的な理解に努め、さらには、知的障害者が過去において社会的不利益および劣等処遇に対する苦難と闘いの時代であった歴史的背景と事実を整理しながらレポート課題に取り組んでください。

とくに、「社会福祉基礎構造改革」の一環として新たに施行された社会福祉法は、(1)利用者の立場にたった社会福祉制度の構築、(2)サービスの質の向上、(3)社会福祉事業の充実・活性化、(4)地域福祉の推進の4点を主要な方向性として法改正したものです。

この改正は、知的障害者福祉法の事項にも大きく反映される結果となりました。知的障害者の福祉サービスの充実を図る目的として改正された主な要点は、①福祉サービスの利用制度化、②市町村における知的障害者に対する福祉に関する必要な情報提供と相談・指導、③サービスの質の確保と利用者の権利擁護、④サービスに関する第三者評価・苦情解決体制の整備、⑤知的障害者福祉に関する事務の市町村への委譲などがあげられます。こうした内容によって、これまでの制度や福祉サービスメニューの内容が一層強化・拡充されましたが、難問も山積しているのも事実です。とくに、利用者である知的障害者と対等な関係にある施設関係者にとって、はたして法改正で示した内容を知的障害者に普遍的にサービスを提供できるかが大きな課題となります。

こうした社会的状況を的確に把握しながら、施設福祉の役割と機能について考察して、簡潔に述べてください。



テキスト第6章から第8章（旧テキストの第5章から第7章）をよく読んで地域福祉の意味を理解すると同時に知的障害者の生活状況が時代の変遷とともにどのように変化してきたかを、過去の在宅福祉政策なども踏まえながら考察してください。

今後の知的障害者福祉は、法改正によって具体的な中身と進捗状況が問われることとなります。そして、単に施設を中心とした生活環境整備だけではなく、地域社会も取り入れた施策を具現化していく地域社会体制づくりが確立しなければなりません。とくに、知的障害者に対する人権・権利侵害の事件などは全国各地で起きており、また、地域環境の相違によって、福祉サービスを楽しむものと享受できないものが存在しているこの事実をどのように理解するかが大切です。その社会的背景には、改革の理念として謳われた「個人が人としての尊厳をもって、家庭や地域の中でその人らしい自立した生活が送れるように支える」という考え方から乖離した知的障害者に対する誤解、偏見、差別が根強く残っていることもこの課題を考察する根本的な課題の一つといえるでしょう。

いずれにしても、本課題においては具体的な知的障害者の生活や暮らしのケースなどを取りあげながらレポートを作成してください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題問題をきちんと理解しているか。
- 2) 現代社会に生起する社会問題の背景がきちんと整理されているか。
- 3) 重要な社会学用語や概念を用いながら適切に答えているか。
- 4) 論述の分量も評価対象となる（文脈も大切にしてください）。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 竹原健二編 赤塚俊治ほか著『現代障害者福祉学』学文社、2004年
 中野敏子著『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009年
 『障害者総合支援六法（平成27年版）』中央法規出版、2015年

日本知的障害福祉連盟編『発達障害白書』日本文化科学社、2004年
江草安彦著『ノーマリゼーションへの道』全国社会福祉協議会、1993年
北沢清司著『知的発達 Q & A』中央法規出版、1996年

(注)

2012年には「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」に改正されました。その他、障害者福祉関連法規の内容は毎年のように改正されています。法規の改正を、自身で最新の社会福祉六法やインターネットで調べていただければと思います。また、スクーリングにご参加ください。

発達障害者の理解と支援

	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	2年以上
科目コード	DD3161	担当教員	黄 淵熙



この科目は2017年度に新設された科目で、履修方法：SR（会場スクーリング受講＋レポート1課題）により単位修得します。

■科目の内容

この科目では、発達障害のある人の認知的特徴および心理的問題を理解し、それに対する対応について学習します。

【スクーリングで学ぶ内容】 スクーリングでは、発達障害の定義および学習障害（LD）・注意欠陥／多動性障害（ADHD）・自閉スペクトラム症（ASD）の特徴に関して疑似体験等を通して体験的に理解します。また、障害別の対応方法についてグループ討論などを通して学習します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】 教科書・レポート学習では、発達障害の分類および発達障害のある人が学校や社会で直面する問題に関して理解し、適切な対応法に関して学習していきます。

■到達目標

- 1) 発達障害の種類とその特徴について説明することができる。
- 2) 発達障害の行動特性の根底にある認知特性について説明できる。
- 3) 発達障害のある児童・生徒の心理的特徴について述べるすることができる。
- 4) 発達障害のある児童・生徒に起こりうる2次障害について説明し、それを防ぐための方法について論じることができる。

■教科書

田中康雄監修『イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本』西東社、2014年

■スクーリング時の教科書

プリントを配付しそれに基づいて進めていきます。
スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。

スクーリング

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達障害とは	発達障害の定義と種類

回数	テーマ	内容
2	発達障害のある児童の心理・行動特性①	学習障害のある人の心理・行動特性
3	発達障害のある児童の心理・行動特性②	ADHDのある人の心理・行動特性
4	発達障害のある児童の心理・行動特性③	自閉スペクトラム症のある人の心理・行動特性
5	発達障害に対する支援①	学習困難に対する支援
6	発達障害に対する支援②	ワーキングメモリーの困難に対する支援
7	発達障害に対する支援③	行動の問題に対する支援
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。疑似体験や討論を行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70%（持込は自筆ノートのみ可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って自分の見解をどれだけ論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

自分が関わっている事例もしくは参考図書に載っている事例を基に行動および心理的問題について考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

スクーリングで学習した概念に基づいて自分が関わっている事例を分析し、よりよい対応について考察してください。

教科書・レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	1章 発達障害とは	発達障害の概念を理解し、その種類について学ぶ。「発達障害スペクトラム」という考え方を理解する。 キーワード：発達障害、個性、発達障害スペクトラム	特別支援教育に関しては年々新しい知見が出て、それと関連する用語も変わっております。新しい用語を整理してみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	1章 発達障害の脳を理解しよう	発達障害の正確な原因は分かってないですが、脳の機能を制御するネットワークに何らかの機能障害があると考えられている。発達障害と関連する脳の部位などについて知る。 キーワード：発達障害、脳、前頭前野	p.114のワーキングメモリの機能に関して脳機能と関連させて学習してください。
3	2章 子どもの気持ちと気になるサイン	発達障害の特徴から起因する子どもの独特の言動を理解し、その対応について考察する。 キーワード：子どもの気持ち、気になるサイン	子どもの気になるサインを発達障害の特性と関連付けて考えてみましょう。
4	2章 発達障害の診断	発達障害の可能性の気づきから相談、診断に至るまでの方法や家庭について理解する。 キーワード：気づき、相談機関、診断	発達障害の可能性があると気づいた際に相談できる医療機関及び地域の相談機関などについて理解を深めましょう。
5	3章 自閉スペクトラム症とは	自閉スペクトラム症の児童・生徒の特性及びその背景にある心の理論や感覚過敏などについて理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、対人関係、心の理論	心の理論課題への困難が実際の対人場面でのどのような問題として表れやすいのか想像しながら学習してみましょう。
6	3章 自閉スペクトラム症のある子どもへの対応	自閉スペクトラム症の特徴を理解した上に関わり方のポイントを理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、関わり方	学校・家庭など場を想定し、自閉スペクトラム症のある児童・生徒の関わり方について学習してみましょう。
7	4章 ADHDとは	ADHDの概念及び特徴、診断基準について学ぶ。 キーワード：ADHD、不注意、多動性、衝動性	ADHDと関連する脳機能としてワーキングメモリについて正しく理解しましょう。
8	4章 ADHDのある子どもへの対応	ADHDの特徴を理解した上に関わり方のポイントを理解する。 キーワード：ADHD、かかわり方	実際の子どもの行動（例えば、席に座ってられないなど）を例として、対応について考えてみましょう。
9	5章 LDの特徴と関わり方	「読み・書き」の困難をもたらす要因について理解したうえで、困難の原因と対応した指導方法及び内容について理解する。 キーワード：LD、読み書き、聞く、話す	「聞く・話す」ことの困難の背景にある問題を理解し、問題別に異なった配慮が必要であることに気付くようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	6章 療育とケア	TEACCH、感覚統合療法、ABAなどの基本を理解し、その療育方法を用いた子どもの行動の記述方法及び応用法について知る。 キーワード：TEACCH、感覚統合療法、応用行動分析	実際の子どもの行動を例として、各療育方法にもとづいた対応について考えてみましょう。
11	7章 家庭での支援	発達障害のある児童・生徒を持つ家庭での子どもとのかかわり方について具体的に知る。また、地域の人々との付き合い方、進学・就労に関して理解する。 キーワード：家庭での支援、子育て、進学、就労	発達障害のある子どもが不安を和らげ、穏やかに過ごせるように家庭でのかかわり方について具体的な場面ごとに考えてみましょう。
12	参考図書2) 2章2 家庭でできる二次障害への支援	発達障害のある児童・生徒を持つ家庭での子育ての悪循環を理解し、ペアレント・トレーニングプログラムの方法及び意義を理解する。 キーワード：子育て、悪循環、ペアレント・トレーニング	発達障害のある児童・生徒への支援の一つであるペアレント・トレーニングを理解し、ほめることを日常生活の中で練習してみてください。
13	参考図書2) 2章1 学校ができる二次障害への支援	2次障害の発生メカニズムを理解し、学校における2次障害への悪循環への対応策について学ぶ。 キーワード：2次障害、発達障害、学校生活	事例を読んで自分であればどう対応したかについて考えてみましょう。
14	8章 保育所・幼稚園、小学校での支援	幼稚園・保育所において子どもの特性を理解し、特性にあった支援の仕方について理解する。 キーワード：幼稚園、保育所、特性理解、成功体験	指示の仕方及びほめ方などを具体的に考えてみましょう。
15	8章 保育所・幼稚園、小学校での支援	教室の構造化、スケジュールの構造化など通常学級でできる工夫について理解する。 キーワード：小学校、構造化	日ごろ発達障害のある児童が学校場面で遭遇する困難について考えてみて、具体的な支援の工夫について考察してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>「A君は小学校3年生で、読み書きがとても苦手です。特に、漢字が苦手です。どうしても覚えられなく、国語の時間にみんなの前で本を読むと笑われたりしないかすごく気になります。また、不注意なところがあって、テストではケアレスミスが多く、プリントやノートなどをなくすこともしばしばあります。家でもよく叱られているし、先生からは「できるはずなのにしない」と思われています。」</p> <p><u>この事例に対して、心理的なサポートを含め、学校や家庭でどのような対応が必要であるのかを述べなさい。</u></p>
-------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

事例の心理的困難について自分の考えを述べ、教科書の7章、8章を参考にして適切な対応について考察してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 主婦の友編『発達障害の子どもの心がわかる本』主婦の友社、2010年
- 2) 齋藤万比古著『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』学習研究社、2009年
- 3) 五十嵐一枝著『軽度発達障害児を育てる—ママと心理臨床家の4000日』北大路書房、2010年

(注)

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」(ディーエスエム)と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5(ディーエスエム ファイヴ)として発表されました。

DSM-5の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム(障害)」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

現在では、「自閉スペクトラム症」または「自閉症スペクトラム障害」が一般的な用語となっています。

■履修上の注意

「発達障害者の心理」(EG4733)の履修登録者は、履修登録できません。

ケアマネジメント論

	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R or SR	3年以上
科目コード	DD4124・DD4196	担当教員	高橋 誠一



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

※2015年度のスクーリングより、8コマ・スクーリング単位1単位に変更されています。

※科目コード DD4124 2013年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
DD4196 上記以外の方

■科目の内容

ケアマネジメントは、1950年代アメリカで生まれたと言われていています。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。

60年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。

ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきています。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。

この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりをふまえて、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立ちます。

■到達目標

- 1) ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。
- 2) 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。
- 3) ケアマネジメントのシステムを説明できる。

- 4) ストレングスモデルを説明できる。
- 5) ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。
- 6) 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。

■教科書

D.P. マクスリー著『ケースマネジメント入門』中央法規出版、1994年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ケアマネジメントの基本的理解 (第1章)	1. ケアマネジメントの定義 2. ケアマネジメントの目標 3. ケアマネジメントが必要になった主な理由を理解する。 教科書の「ケースマネジメント」は「ケアマネジメント」に置き換える。	1. ケアマネジャーは、利用者のために何をしようとしているのか？ 2. サービス調整における「利用者の立場」としてのケアマネジメントとは、何を意味しているのか？ 3. サービス調整とは何を意味しているのか？ 4. 「機関を超えた」ケアの継続性と、「一貫した」ケアの継続性とは、どのように異なるのか？ 5. どのような要因がケアマネジメントのニーズを生むのか？
2	ケアマネジメントの基本的枠組み (第1章)	1. ケアマネジメントの焦点 2. ケアマネジメント実践の機能を理解する。	1. ケアマネジャーが「境の橋渡し」と呼ばれるのはなぜか？ 2. 利用者の支援ネットワークにかかわる3つの構成要素とは何か？ 3. ケアマネジャーの実用的な5つの機能とは何か？
3	ニーズのアセスメント (第2章)	ケアマネジャーが行う一般的なニーズ・アセスメントの戦略を見定め、この一連の方法の一般的な特性を理解する。 キーワード：ニーズ、包括的、多分野協働、利用者の参加、利用者の自己決定、「学習された無力感」、プロセス、ダイナミック、見直し、システム、フォーマル、体系的、記録	1. アセスメントという概念が示すものは何か？ 2. 利用者ニーズをアセスメントすることが、ケアマネジメントの重要な機能であることはなぜか？ 3. ニーズのアセスメントが力動的といわれるのはなぜか？ 4. ニーズのアセスメントに関する鍵となる7つの特性とは何か？ 5. ケアマネジャーは、どのように利用者をアセスメント過程に参画させられるのか？
4	生活の包括的アセスメント (第2章)	アセスメントの焦点として、利用者のニーズを見定める方法を理解する。 キーワード：収入、住宅／居住施設、就労／職業的活動、身体的健康、精神的健康、社会資源、対人関係、レクリエーション、レジャー、余暇、日常生活活動、交通手段、法律、権利擁護、教育	ケアマネジャーがアセスメントする主要なニーズとは何か？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	充足主体のアセスメントと情報の整理 (第2章)	自己ケア、相互ケア、専門的ケアに関する資源のアセスメントを検討することによって、この一連のアセスメントの戦略を理解する。 キーワード：リソース・マトリックス	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジャーは、どのように利用者の自己ケアをアセスメントするのか？ 2. ケアマネジャーは、どのように利用者にも有効な相互ケアの資源をアセスメントするのか？ 3. ケアマネジャーがアセスメントしようとする社会的支援の主要な形態は何か？ 4. ケアマネジャーは、どのように専門的ケアの資源をアセスメントするのか？ 5. ケアマネジメントのアセスメントの過程において、資源一覧表は、どのような働きをするのか？
6	ケアプランの重要性と機能 (第3章)	ケアマネジメントにおける、利用者へのサービス支援計画の重要性を理解する。 キーワード：作業計画と分担、利用者の支援ネットワーク、直接参加性、責任性、指針、評価可能性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者へのサービス支援計画とは何か？ 2. 過程と結果の双方を含む利用者へのサービス支援計画とは、何を意味するのか？ 3. 利用者へのサービス支援計画の重要性を示す5つの特徴とは何か？ 4. 計画の過程が直接参加によるものであるのはなぜか？またその過程に参加しているのは誰か？ 5. 利用者へのサービス支援計画は、どのようにして手引きとして役立つのか？ 6. 評価可能性とは何を意味し、またこの概念は利用者へのサービス支援計画にどのように関連しているのか？
7	ケアプランの構造 (第3章)	利用者へのサービス支援計画における、構造上の主要な構成要素を明確にすることを理解する。 キーワード：ニーズの領域、影響の大きな目標、サービス支援と小目標、実行者と実施活動、期待される変化	利用者へのサービス支援計画の6つの主要な構成要素とは何か？また、構成要素それぞれの重要性は何か？
8	ケアプランの展開過程 (第3章)	サービス支援計画の展開過程を理解する。 キーワード：多分野協働チーム、利用者と社会的ネットワーク、利用者の養護者の参加	利用者へのサービス支援計画の展開において、多分野協働チームという方法の役割は何か？
9	直接サービスの機能 主体的判断の尊重 (第4章)	利用者が率先してケアマネジメントの機能と課題を引き受けられるように、主体的判断を促すことの重要性を検討し、ケアマネジメントの直接サービス機能の概念的な枠組みを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の主体的判断が、ケアマネジメントの直接サービス機能の重要な結果であることはなぜか？ 2. ケアマネジャーが、利用者の主体的判断を促す4つの基盤とは何か？ 3. 援助過程における重要な3つの次元とは何か？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	直接サービスの役割 (第4章)	ケアマネジャーの直接サービスにおける、6つの役割を検討して見定めることを学び理解する。 キーワード：代行者、危機的、教師・指導者、案内者・同行者、変換者、広報専門職、支持者	1. ケアマネジャーによる、直接サービスの6つの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーは、直接サービスのそれぞれの役割をどのように行うのか？
11	間接サービスの機能と戦略 (仲介、連結、調整) (第5章)	間接サービス4つの視点 間接サービス戦略 利用者ニーズにあった仲介サービス。利用者をサービスや資源に結びつける。 利用者へのサービス供給を調整する。 以上を理解する。	1. ケアマネジメント実践における間接サービスの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーが用いる6つの間接サービス戦略とは何か？ 3. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 4. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 5. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？
12	間接サービスの戦略（権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション） (第5章)	間接サービス戦略 利用者の権利を擁護する。 信頼性のある社会的ネットワークを構築する。 技術支援とコンサルテーションを提供する。 以上を理解する。	1. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 2. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 3. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？
13	モニタリング機能と過程 (第6章)	1. ケアマネジメント実践において、モニタリングが果たす役割を見定めること。 2. モニタリングに関係する4つの次元を見定めること。 3. それぞれの実践状況にあわせて、ケアマネジャーが使い分ける2種類のモニタリングについて説明すること。 4. モニタリングの機能をひとつの枠組みを使って述べ、その枠組みにおけるモニタリングの流れについて論じること。 以上を理解する。	1. ケアマネジメント実践において、サービスと支援のモニタリングの役割とは何か？ 2. サービスと支援のモニタリングの4つの次元とは何か？ 3. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてインフォーマルで質的なアプローチを利用するのか？ 4. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてフォーマルで量的なアプローチを利用するのか？ 5. サービスと支援のモニタリングに際して、ケアマネジャーが用いる主要な手立てとは何か？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	評価機能 (第7章)	<ol style="list-style-type: none"> ケアマネジメント実践における評価の役割を見定めること。 ケアマネジャーによって展開され遂行されたサービスと支援の意義を評価する4つの方法について詳述すること。 ケアマネジメント評価の主な方法を遂行する上で、それぞれの主要な段階を検討すること。 以上を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> ケアマネジメント実践において、評価はどのように定義されるだろうか？ ケアマネジメント実践において、評価の果たす役割とは何か？ 評価に関する鍵となる4つの設問と、それらを導く方法とは何か？ 影響の大きな目標の達成を評価するための、計画策定における主要な段階とは何か？ 機能の評価において、社会的役割遂行による方法と課題設定法との違いは何か？ 利用者へのサービスと支援の計画が評価対象となるのはなぜか？ 利用者の満足度を評価することが、ケアマネジメントの価値を測定する適切な方法であるのはなぜか？
15	効果的なケアマネジメント：実践の指針 (第8章)	ケアマネジメント実践に関する6つの指針 <ol style="list-style-type: none"> 「利用者の立場」に立って動く。 体系的な視点をつらぬく。 管理者的な手順と技能を使う。 臨床家的な手順と技能を使う。 最終責任者としての役割がある。 サービスの供給を統合する。 以上を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> ケアマネジャーという役割が葛藤を経験するかもしれないのはなぜか？ ケアマネジメント実践における6つの指針とは何か？ ケアマネジャーが体系的視点を守るのはなぜか？ ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、その視点をどのように守っているか？ ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、臨床的な技能や管理的な技能をどのように用いているか？ 責任の2つの側面とは何か？ サービスの統合がケアマネジメントの重要な成果となるのはなぜか？

■レポート課題

1 単位め	ケアマネジメントはなぜ必要なのでしょう。また、ケアマネジメントの目標と機能について論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
2 単位め	ケアマネジメントにおけるアセスメントとケアプランについてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
3 単位め	ケアマネジメントにおける直接サービス機能と間接サービス機能についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。
4 単位め	ケアマネジメントにおけるモニタリング、評価についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ケアマネジメントは、対人（個別）援助技術として見ることができます。その視点からは、評価（アセスメント）と援助計画（ケアプラン）が中心的な役割を果たしますが、マネジメントとしてのプロセスを理解することが重要です。一方、システムとして、ケアマネジメントを理解することもできます。この視点からは、ケアマネジメントの制度設計が重要な問題となります。この2つの視点は、ケアマネジメントを理解する上でともに重要であり、個別支援かシステムかといった二者択一の問題ではありません。このことを念頭に置いて、ケアマネジメントを理解してください。

*テキストでは、「ケースマネジメント」となっていますが、「ケアマネジメント」と読み替えてください。

ケアマネジメントがなぜ必要になるのかを考えるには、ケアマネジメントが歴史上在宅支援の必要性から生まれたことを理解する必要があります。施設介護と在宅介護の違いは何でしょうか。いろいろな側面から検討できますが、ケアマネジメントの視点から見てみるのが重要です。ケアマネジメントは、それ自身が目的であるというよりは、手段にすぎません。それはマネジメントという言葉が示しているように、何かを達成するための仕組みと考えることができます。それでは、どのような目的、あるいは目標が考えられるのでしょうか。ケアマネジメントは2つの視点から見ることを理解していただきたいと書きましたが、実は、それぞれに応じて、利用者指向目標、システム指向目標の2つに大きく分けることができます。これらの目標はときとして競合する場合があります。ケアマネジメントは、実践の中から生まれてきたので、現実要求されるさまざまな目標をバランスさせる宿命を持っているといえます。特に、（社会）資源の効果的な使用の面から、ケアマネジメントは注目されてきた経緯があります。これらのことを念頭に置いて、課題を考えてください。

1 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第1章を参考にしてください。ここでは、特に、ケアマネジメントの機能について詳述していますので、ケアマネジメントの目標だけでなく、ケアマネジメントの機能も論じてください。第8章も参考にしてください。

2 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第2章アセスメント、第3章ケアプランの部分が対応します。それぞれがケアマネジメントの基本要素ですが、順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

3 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第4章直接サービス機能、第5章間接サービス機能の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

4 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第6章モニタリング、第7章評価の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

■科目修了試験 評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考文献

- 1) チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ著 『ストレングスモデルーリカバリー志向の精神保健福祉サービス』 金剛出版、2014年
- 2) 太田貞司・國光登志子編 『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning 10』 みらい、2007年

NPO論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	R or SR	1年以上
科目コード	DE2113	担当教員	金 政信



■科目の内容

地域福祉の諸活動、とりわけボランティア活動が重要な役割を果たす事が実際に証明された阪神淡路大震災（1995年）を契機として、一般市民による非営利活動が活発化し急速な発展とともに重要性が認識されたのです。

そのような動きの中、市民による自発的な活動を支える仕組みとして非営利活動促進法（NPO法）が成立（1995年）し、民間非営利組織であるNPO（Non-Profit Organization）と呼ばれる事業体が、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づくり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げています。

最近では、東日本大震災（2011年）においても、多くのボランティアやNPOが災害復興支援にとって欠かせないものとなりました。

本科目では、主としてNPOの制度や活動、マネジメントについて総合的に学習してみましょう。内容としては、①我が国のNPOの役割や位置づけ、組織としての制度や活動のあり方やミッションとガバナンスの関係について学習しましょう（テキストの第1～3章）。そして、②マネジメントについて、より深く人的資源管理や経営戦略、パートナーシップおよび資金調達と評価について検討してみましょう（テキスト4章以下）。

■到達目標

- 1) NPOに関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。
- 2) NPOの様々な分野での活動を理解し、実態が把握できるようになる。
- 3) NPOへの興味と理解を深めつつ内容を説明できるようになる。
- 4) NPOについてグループワークやディスカッションができるようになる。

■教科書

田尾雅夫・吉田憲彦著『非営利組織論』有斐閣、2009年
（最近の教科書変更時期） 2010年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	非営利組織の定義 (第1章)	ボランティアとNPO法人、NGOの違いを理解する。 キーワード：ボランティア、非営利組織(NPO:Non-Profit Organization)、ミッション(使命)、非政府組織(NGO:Non-governmental Organization)など	広義と狭義の非営利組織の範囲と、所有と目的による組織の類型(私企業、公企業、非営利組織、行政機関)に沿った事業内容を学びましょう。
2	役割 (第1章)	非営利組織の存在理由を経済学の側面から理解する。非営利組織の役割を理解する。 キーワード：主体的・積極的、多様性、自発性、先駆性、柔軟性、法人、法人機関、ガバナンス、セクター、中間支援組織(インフラストラクチャー組織)、ネットワークなど	経済学の理論を応用することで、非営利組織の存在理由を学びましょう。また、非営利組織の役割について、主体性、価値観、先駆性などの重要性を認識しながら、制度と仕組み、組織形態について学びましょう。
3	組織としてのありかた (第2章)	組織として立ちあげるための前提条件、成り立ち、ライフサイクル(起業～衰退)を理解する。社会的起業家であるアントレプレナーの役割の重要性を理解する。組織としての発展から成熟、そして限界を理解する。 キーワード：資源、ボランティア、ライフサイクル、起業家(アントレプレナー)、組織、ビューロクラシー、アソシエーションなど	非営利組織は、営利によって自らを支えることができないことが基本であり、ボランティアの心理のもと展開される組織の成り立ち、成長、発展、成熟、そして限界までを組織のライフサイクルに沿って学びましょう。また、組織に必要な資源とはどのようなものなのか、その調達方法やアントレプレナーの役割について学びましょう。
4	組織の特異性とガバナンス (第3章)	サービス組織としての不可視性や不可触性と、企業組織のモデルでは適切に認識できない特異性について理解を深める。また、特異な仕組みを誰が支え、責任を持ってマネジメントしているかを考える上で重要となるガバナンスについて理解する。 キーワード：不可視、不可触、メーソンの非営利組織の特徴、(コーポレート)ガバナンス、合理性など	非営利組織は概してサービス提供の組織であることが多い。サービス組織としての特異性を、ボランティア、企業組織との違い、ガバナンスの理念を考え整理しましょう。
5	ミッション (第3章)	非営利組織としてのミッション(使命)の役割を、理解する。ビジョンとミッションの関係(相違)を理解する。ミッションの変容を理解する。ミッションにおけるボードの役割(機能)を理解する。 キーワード：ドラッカー、ミッション(使命)、ビジョン、メタミッション、ボード、ハーマンなど	非営利組織はガバナンスの所在を明示し、それに方向付けを加えて合理性の達成に結びつけるものです。ここでは、達成のための目標、方向性についてミッションとビジョンとの関係、変容、そして、非営利組織の組織化やミッション達成のために重要となるボードの構築と機能について学びましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	管理の構造 (第4章)	<p>非営利組織に適合的な仕組みについて理解を深める。</p> <p>キーワード：ビューロクラシー、アドホクラシー、適合、営利組織、競争など</p>	<p>非営利組織に適合的であるアドホクラシーについて、ビューロクラシーと対比しながら学びましょう。また、営利企業との相違点や競争についても学びを深めましょう。</p>
7	マネジメント (第4章)	<p>非営利組織のマネジメントの特異性について理解を深める。そのため、マネジメントの工夫、ミッションの周知徹底、イデオロギー、マネジメントをコントロールする上で欠かせない、意思決定、コミュニケーション、ネットワークの構築などの理解を深める。</p> <p>キーワード：工夫、周知徹底、イデオロギー、意思決定、コミュニケーション、ネットワーク、など</p>	<p>非営利組織では、マネジメントに様々な工夫が行われています。目的・目標、個人的色彩、意思決定、コミュニケーション、ネットワークの構築などと関連づけながら学びましょう。</p>
8	管理と会計 (第4章)	<p>人的資源の育成と管理、リーダーシップの必要性や役割などについての理解を深める。また、非営利組織における会計情報の役割についての理解を深める。</p> <p>キーワード：人的資源、管理、リーダーシップ、現場、組織均衡、主体性など</p>	<p>人的資源、資質・能力の向上など、特に人的資源の活用方法や、リーダーシップについて整理しておきましょう。また、会計情報は、利益が目的の企業にとっては、数字が示す利益が業績の尺度となるが、利益を目的としない非営利組織では業績の尺度も多様である事を理解し学びましょう。</p>
9	組織と環境 (第5章)	<p>組織は、外部から必要な資源を取込んだり、逆に、外部と関係を持ちながら存続している。その際、重要となるのが組織の環境である。内部環境、環境適応、環境認識の変化に着目しながら理解を深める。</p> <p>キーワード：経営資源（人、もの、金、情報）、外部要因、組織の環境、内部環境、環境適応、環境認識の変化</p>	<p>組織を構成している最も基本的な構成要素は人である。この事を踏まえつつ、他の資源である、もの、金、情報をいかに組織に取込み目的を達成するのか、その為には、組織にとってのそれらの資源を獲得する為の外部要因たる、組織の環境とはどのようなものなのかを意識しながら学びましょう。</p>
10	特徴 (第5章)	<p>非営利組織と行政組織、営利組織である企業とそれぞれ対比し、非営利組織の特徴を、特にマネジメントの視点から理解を深める。</p> <p>キーワード：ミッション（使命）、経営資源（人、もの、金、情報）、尺度（業績）、サービスの受け手と払い手、クライアント、資源ソース、3つのベクトル（ミッション、政府による調整、組織の慣性）など</p>	<p>営利を目的としない非営利組織が、継続的に事業を行うため、自力で経営する為には、そのマネジメントの特徴を整理し理解しておく事が重要です。ここでは、行政組織、営利組織である企業とそれぞれ対比しながら、企業と顧客の交換関係や、非営利組織とクライアントの関係、非営利組織の資源ソースに着目しながら学びましょう。また、非営利組織の行動を規程する3つのベクトル（ミッション、政府による調整、組織の慣性）もきちんと整理しておきましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	経営戦略 (第5章)	<p>一般的な組織の経営戦略のパターンの具体的な内容や特徴についての理解を深める。また、非営利組織の中心的事業である人的サービス（ヒューマン・サービス）におけるネットワーク形成戦略や、組織戦略としてのネットワークの優位性についてについての理解を深める。</p> <p>キーワード：事業構造の戦略、競争戦略、強調戦略、人的サービス（ヒューマン・サービス）、ネットワーク、ネットワーク形成、SWOT分析、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）など</p>	<p>組織戦略である、事業構造の戦略、競争戦略、強調戦略の具体的な内容や特徴を理解しましょう。次に、非営利組織の中心的事業である人的サービス（ヒューマン・サービス）の諸組織間の相互補完に必要なネットワーク形成戦略について理解を深めましょう。更に、組織の競争優位性の視点から、どれだけ競争力のあるネットワークに参加できるかを左右する、SWOT分析（戦略策定の基本ステップ）を学びましょう。</p>
12	パートナーシップ (第6章)	<p>非営利組織が行う活動は、形が無いものが主であり、その機能も単一の組織だけでは十分に発揮されない事が多い。そのため、行政との連携、企業との関係が重要となる。ここでは、行政や企業などとのパートナーシップの構築についての理解を深める。</p> <p>キーワード：パートナーシップ、行政、民間、委託、アウトソーシング、指定管理者制度、住民参加、行政のスリム化、企業、一株主運動、社会的責任、競合、CSR活動、ステークホルダー、プラットフォームなど</p>	<p>非営利組織は社会との関係が、企業や行政よりも多様で深い事を理解しましょう。その事を学んだうえで、単一の組織だけでは最終的な目標をなかなか達成する事が出来ないことや、行政との連携（どのような連携が考えられるかなど）、企業との関係（社会的責任、競合、CSR活動、ステークホルダー、多様な主体の乗り入れが可能なプラットフォームとしての性質など）を学びましょう。</p>
13	資金調達 (第7章)	<p>非営利組織において、経営資源（人、もの、金、情報）はすべて自力で調達しなくてはいけない。特定のミッション（使命）をもつ、非営利組織においては、組織の事業展開にも制限があり、また財務的な見返りもあまり見込めない。そのような中で、非営利組織はどのように、資金を調達し財源を確保しているのでしょうか。組織を運営、維持するための資金調達についての理解を深める。</p> <p>キーワード：経営資源、財源、多様性、収益性事業、ファンド・レイジング（レーザー）、事業型財団、財源確保手段など</p>	<p>営利を目的としない組織ではあるが、あくまでも民間の組織です。よって組織を存続させる条件は、企業とほぼ同じであり、組織を運営、継続させるための資金調達も重要です。また、非営利組織では、組織としてふさわしい活動、体制、外部との関係、資金の獲得の仕方が常に問われていることを学んでください。資金調達のパターンや財源の多様性、確保のための活動や手段などについても学びましょう。</p>
14	評価 (第7章)	<p>非営利組織の評価について、多様な評価法と評価のフィードバックやプロセス、意義などについての理解を深める。</p> <p>キーワード：評価主体、評価目的、評価の類型（評価主体、評価情報利用者）、フィードバック、評価項目（組織の存在意義、正当性・合法性・適格性、事業存続性・事業効率性）、PDCAサイクル、プロセスなど</p>	<p>非営利組織の評価はとても重要ですが、全体を包括する評価概念や体系は、まだ整っていない現状にあります。この事を踏まえて、ここでは、評価の主体と目的、評価方の類型、評価の具体的項目、評価のフィードバック（振り返り、PDCAサイクル）、評価のプロセスなどについて学びましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	将来像と課題 (第8章)	公的に活用のできる資源（特に福祉・介護の場面）の調達が難しくなっている今日、資源として非営利組織の活用が喧伝されている。このような現状を踏まえて、改めて、非営利組織のマネジメントやボランティアのあり方を重視し、組織の将来像と課題を考える。 キーワード：超高齢社会、組織クラスター、福祉 NPO、戦略、環境適合、変革、動態化、柔構造化、名声、現場、限界、人材など	少子高齢社会、特に超高齢社会を迎えた我が国にとって、これまで以上に非営利組織の活動の領域が広がり、また喧伝されている事に着目したうえで、マネジメントのこれからのあり方、組織の変革の必要性についての学びを深めましょう。また、組織の重要な資源である人（ボランティア）を今後どう活かし、育てて行くかという点についても着目してください。

■レポート課題

1 単位め	NPO とはなにか。非営利組織としての、組織のあり方や特徴を整理するとともに、NPO のミッション（使命）について自分の考えも交えながら検討してください。
2 単位め	NPO における活動ではマネージメントの手法や人材の活用が重要となります。マネージメントがどのように行われているのか、人材の確保や活用、リーダーシップのあり方等について、自分の考えも交えながら検討してください。また、NPO の資金調達や評価についても検討してください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



基本的には NPO という組織の特性を営利組織（企業）と比較しながら、きちんと理解することが重要です。また、その場合、現実面に即した理解、把握が肝要です。

■科目修了試験 評価基準

「在宅学習15のポイント」に沿っての学習の成果が修了試験に反映されているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 雨森孝悦『テキストブック NPO』東洋経済新聞社、2012年
 田尾雅夫・川野祐二『ボランティア・NPO の組織論』学陽書房、2004年
 乙武洋匡・佐藤大吾『初歩的な疑問から答える NPO の教科書』日経 BP 社、2015年
 社会福祉法人大阪ボランティア協会『テキスト市民活動論』社会福祉法人大阪ボランティア協会、2011年
 島田恒『NPO という生き方』PHP 新書、2005年

福祉リスクマネジメント

	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R or SR	2年以上
科目コード	DE3143	担当教員	菅原 好秀



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

■科目の内容

措置制度から契約制度の移行により、利用者と施設側が対等な関係となり、利用者側の権利意識が高揚したため、これまで顕在化しにくかった福祉サービスにおける事故が多発し、福祉サービス提供者側に多様なリスクが表面化し始めました。福祉サービスにおけるリスクには、介護におけるリスク、障害者におけるリスク、保育におけるリスク、施設におけるリスク、在宅におけるリスクなどさまざまなリスクが存在します。このような現状の下で、福祉サービスにおける事故等に対して、適切な対応の確立と具体的な介護事故における問題解決への方策が急務といえます。本科目においては、施設におけるリスクの分析、つまり社会福祉施設における介護事故の裁判例の分析を通じて、事故を未然に防ぐという予防的側面と、事故が生じた場合の事後的な対応を個別具体的に検討し、介護施設側に介護事故に対する自覚を促し介護事故防止のための体制を構築することを目的とします。

■到達目標

- 1) 介護事故の現状について説明ができる。
- 2) 介護事故の裁判例の事案と判旨について解説ができる。
- 3) 介護事故の裁判例の事故後の対応について説明ができる。
- 4) 今後の介護事故の予防策について説明ができる。

■教科書

渡辺信英著『増補 介護事故裁判例から学ぶ福祉リスクマネジメント 高齢者施設編』南窓社、2016年（増補版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リスクと介護事故	リスクの意義と介護事故の視点について学びます。	リスクの意義をふまえて介護事故を分析する視点について説明できることが重要です。
2	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例の事案と判旨について学びます。	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
4	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
5	老人保健施設における誤嚥による死亡事故	老人保健施設における誤嚥による死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	老人保健施設における誤嚥による死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
6	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
7	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例の判旨について学びます。	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例の判旨をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
8	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
9	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
10	送迎中の転倒・骨折死亡事故	送迎中の転倒・骨折死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	送迎中の転倒・骨折死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
11	利用者同士のトラブルによる転倒事故	利用者同士のトラブルによる転倒事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	利用者同士のトラブルによる転倒事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
12	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
13	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務の裁判例の事案と判旨について学びます。	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟の裁判例の事案と判旨について学びます。	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
15	介護事故裁判例にみる裁判官の法的手法と意義	介護事故裁判例にみる裁判官の法的手法と意義について学びます。	介護事故の現状と課題について裁判官の法的手法について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	ケース1（教科書 p.6～[旧教科書* p.158～：①]）の「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。
2 単位め	ケース2（教科書 p.35～[旧教科書* p.164～：②]）の「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。
3 単位め	ケース5（教科書 p.106～[旧教科書* p.181～：④]）の「老人保健施設における誤嚥による死亡事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
4 単位め	ケース8（教科書 p.184～[旧教科書* p.267～：⑩]）の「ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

*菅原好秀著『要保護的法主体像の理論構築』南窓社、2011年

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース3（教科書 p.49～[旧教科書 p.172～：③]）の「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。

特に、介護記録の重要性、連携・協働のあり方、利用者・家族との信頼関係の構築、チームアプローチ、チームケアの構築を中心に、契約制度の視点から具体的に言及してください。

**2 単位め
アドバイス** 本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース4（教科書 p.84～[旧教科書 p.231～：⑧]）の「老人保健施設における転落死亡事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。また、認知症による徘徊によって、介護事故が生じないように、施設側また家族がとりうる具体的な方法について、JR 東海認知症徘徊事件訴訟の判例の見解を踏まえながら自説を展開してください。

**3 単位め
アドバイス** 本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース6（教科書 p.106～[旧教科書 p.199～：⑤]）の「特別養護老人ホームにおける誤嚥による死亡事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。

特に、介護サービスに求められるサービスの基準の確立、苦情解決制度によるリスクの防止策、リスクマネジメントと利用者の人権尊重の調和を中心に具体的に言及してください。

4 単位め
アドバイス

本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース7（教科書 p.166～[旧教科書 p.246～：㊸]）の「送迎中の転倒・骨折死亡事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。

特に、判旨が論じたボランティアの意義を言及した上で、ボランティアの注意義務について、具体的に考察してください。

■科目修了試験 評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 菅原好秀著『要保護的法主体像の理論構築』南窓社、2011年
- 2) 志田民吉編著『法学 [第3版]』建帛社、2007年
- 3) 平田厚著『社会福祉法人・福祉施設のための実践リスクマネジメント』全国社会福祉協議会出版部、2002年
- 4) 増田雅暢・菊池馨実編『介護リスクマネジメント』旬報社、2003年

福祉施設管理論

		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	3年以上
科目コード	DE4125	担当教員	高橋 誠一	



※2008年度以前入学者に対して開設されている科目です。2009年度以降に入学した方は、履修することはできません。

■科目の内容

社会福祉法人は社会福祉の中心的な担い手として、これまで以上の役割を期待されています。日本の社会にも、近年さまざまな格差が生まれるようになり、低所得者の社会問題など、これまでの社会福祉法人の取り組みがますます必要になる状況にあります。

しかし一方で、これまで社会福祉事業を中心とした福祉分野は、利用者を中心とした福祉サービスへとその提供のあり方が大きく変わってきました。その背景には、地域生活支援・自立生活支援ニーズが高まり、従来の福祉援助の仕組みでは対応が困難になってきたことがあげられます。その結果、福祉サービスの特質に配慮しながらも、増大する福祉サービスのニーズに応えるために、特定非営利活動法人（NPO）、民間企業、医療法人などさまざまな法人が事業所を運営して福祉サービスを提供できるように規制が緩和されてきました。

この科目では、社会福祉法人の福祉サービス経営について学んでいきますが、福祉サービス提供組織の多様性も念頭に入れ、共通する内容に重点を置きます。福祉サービス提供組織の存在理由は、利用者へのサービス提供にあります。利用者を中心とした福祉サービスは、利用者のニーズを理解し、本人や家族、地域の住民と協力して提供していくことが多いので、画一的ではない柔軟なサービス提供が求められます。経営者や管理者は、小規模な事業所以外では、直接利用者にサービスを提供することは多くありませんが、生活支援や介護、相談援助を行う職員を通して利用者に貢献しています。ですから、経営者や管理者は職員が働きやすい環境を作り、人材を育成し、必要な資源や組織環境を整えることが重要な仕事になります。そのためには、利用者中心の理念を明確にし、組織的な事業経営に取り組む必要があります。

■到達目標

- 1) 福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。
- 2) 職員をサポートしリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。
- 3) 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。
- 4) 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。
- 5) 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。
- 6) 経営学の基礎知識を理解し説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営（第5版）』中央法規出版、2017年（第5版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	福祉サービスにおける組織と経営①福祉サービスにおける組織・経営（第1章）	「サービス」「経営」といった用語がどのような意味で用いられているのかを押さえたうえで、福祉領域における「サービス」や「経営管理」の特徴を整理し、理解する。	1. 福祉サービスという言葉がかわるようになった背景は何か。 2. 福祉サービスの特徴は何か。
2	福祉サービスにおける組織と経営②福祉サービスと制度（第1章）	福祉サービスがどのような環境で、どのような手法を用いて展開されているのかを理解する。	1. 準市場は、一般の市場となりが違うのか。 2. 福祉サービスを提供する上で、倫理はなぜ重要なのか。
3	福祉サービスにかかわる組織や団体①法人とは、社会福祉法人（第2章）	1. 「法人」の存在意義について述べ、その基本形態について整理する。そして社会福祉に関連する法人にはどのようなものがあり、それぞれがどのような特徴をもっているのかを理解する。 2. 福祉サービスの提供にかかわる組織や団体に関して、それぞれの定義や役割を押さえるとともに、各機関の現状や課題について理解する。 3. 戦後、わが国の社会福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人について理解する。	1. 法人のメリットは何か。 2. ガバナンスとマネジメントの違いは何か。 3. 社会福祉法において社会福祉法人の役割はどのように考えられているか。
4	福祉サービスにかかわる組織や団体②特定非営利活動法人（第2章）	特定非営利活動促進法成立後わずか10年余りで4万6,300の団体が認証されるまでになった特定非営利活動法人について理解する。	1. 特定非営利活動法人が生まれた背景は何か。 2. 認証の仕組みはどのようなものか。
5	福祉サービスにかかわる組織や団体③その他の組織や団体（第2章）	医療法人、営利法人、公益法人、市民団体、協同組合（農協、生協）、自治会について、それぞれの特徴を理解する。	1. 医療法人の法人としての多様性を理解する。 2. 各法人の根拠法を理解する。
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論①戦略、事業計画（第3章）	1. 経営を学ぶ上で最低限必要となる基礎的な概念、理論について理解する。 2. 戦略について、その概念を整理したうえで経営戦略の策定プロセスを具体的に理解する。 3. 福祉サービスの戦略を考える際に参考となるいくつかの戦略論も理解する。	1. 福祉事業を行う上で、経営理念はどのような役割を果たすか。 2. 経営理念を実現するために、どのような仕組みや経営活動が考えられるか。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論② 組織、管理運営の基礎理論 (第3章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業計画の策定から実行、評価までを、順を追って理解する。 2. 福祉サービスを念頭におき、マクロ的な観点の組織論の主要な概念について理解する。 3. 管理の目的やその対象について整理し、次に、管理の手法として、PDCA サイクルを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービスの質とは何か。 2. サービスの質を改善するためにどのような取り組みが考えられるか。
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ 集団の力学に関する基礎理論 (第3章)	集団力学の基本的な理論を理解する。	チームワークにおいてグループダイナミクスを考えることはなぜ重要なのか。
9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論④ リーダーシップに関する基礎理論 (第3章)	リーダーシップの必要性和さまざまな理論を学び理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとマネジメントはどう異なるのか。 2. なぜさまざまなリーダーシップ論があるのか。
10	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理①サービスマネジメント、サービスの質の評価 (第4章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの基本的な要素である「四つのP」を軸に、サービス管理に必要な基礎的な事項を整理し、 2. サービスの質の向上、利用者のサービス選択のために導入が進められている第三者評価等の「サービスの質」を評価する仕組みについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービスにおいて、なぜマーケティングが必要なのか。 2. 第三者評価、自己評価の違いは何か。
11	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理②苦情対応とリスクマネジメント (第4章)	福祉サービスの提供にあたってのリスクにはどのようなものがあるかを明らかにし、その対処法について具体的に理解する。	リスクに対する、事後的な対応だけでなく、事前の対応を考える必要性は何か。
12	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理③サービス提供のあり方の方向性 (第4章)	これまでの福祉サービス提供の問題点を指摘し、今後の福祉サービスのあり方について理解する。	いま求められている福祉サービスとはどのようなものか、それを実現する方法は何か。
13	福祉サービスの管理運営の方法②人事・労務管理、人材育成 (第5章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人事・労務管理について、一般理論ではなく福祉サービスの視点から学ぶ。 2. 具体的には、人材の確保と採用、配置と異動、給与等の待遇と福利厚生、人事考課、労務管理・労使関係管理といったテーマについて、それぞれ福祉の職場の特徴を踏まえて、その目的や内容を理解する。 3. 人材育成の意義と必要性、OJT や OFF-JT、SDS の手法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雇用する側、雇用される側それぞれの立場から、人事管理を考えると、どのような違いがあるか。 2. 福祉における人材確保の問題は何か、どのような施策や支援が行われているか。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理(第6章)	企業とは異なる特殊な性格を有する社会福祉法人の財務管理の考え方を解説し、財務管理の基礎となる情報である財務諸表の概要とその見方・使い方を習得することを目的とする。	1. 基本的な財務諸表は何か 2. 貸借対照表と事業活動収支計算書の違いは何か。
15	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報(第7章)	超高齢社会の到来、高度情報社会の進展に伴い変革する福祉サービスのあり方を踏まえ、事業経営における情報の活用、利用者への情報開示、個人情報の保護、パブリック・リレーションズについて理解する。	個人情報保護と情報開示がなぜ必要とされるのか。

■レポート課題

1 単位め	福祉サービスにおける社会福祉法人の特質と役割を説明せよ。
2 単位め	利用者中心の福祉サービスの提供を実現するために必要と考えられることを述べよ。
3 単位め	職員が働きやすい事業所の運営について説明せよ。
4 単位め	福祉サービスの質の改善方法について述べよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

多様な法人が福祉サービスを提供していますが、社会福祉法人は社会福祉事業を担う特別法人として設立を認められた法人です。そのため厳しい規制を受けますが、他の法人では認められない福祉サービスの提供を行うことができます。社会福祉法を読み返して、社会福祉全体の中で、社会福祉法人の役割について考えてください。

2 単位め アドバイス

利用者中心の福祉サービスとは何かを考えてください。利用者中心は利用者本位、利用者主体と呼ばれることもあります。利用者中心の福祉サービスを考えるために、そうではない場合、すなわち提供者中心の福祉サービスを考え、対比すると、はっきりすると思います。一般のサービスでは、消費者主権という言葉が使われますが、これは利用者中心と同じでしょうか。ここでは、直接サービスを提供する職員の立場だけでなく、福祉サービス提供組織の経営者の立場からも考えてください。どのような理念や事業経営が必要になるでしょうか。

3 単位め アドバイス

職員が働きやすいとはどういうことでしょうか。職員の能力を発揮できる、やりがいがある、必要なスキルを身につけることができる、仕事を通して自分自身が成長できるということがあるでしょう。チームの一員として自分の役割を果たせることもあるでしょう。なによりも、利用者が必要とし、役立つ支援をできることが働きやすい職場となると思います。そのためには、経営者や管理者はどのように職員を支援していけばよいでしょうか。また、賃金やキャリアアップの仕組みがはっきりしていることなども重要です。

4 単位め
アドバイス

福祉サービスの質は、「言うは易く行うは難し」といえるでしょう。外部の評価としては第三者評価や認証制度があります。事業所自身が、自己評価に取り組むこともあります。このように定期的に、サービスの質を評価し改善に取り組むこともありますが、苦情やサービスの問題を自ら認識して、それに組織的に取り組むこともあります。サービスの質は、利用者の評価にも反映されます。このように福祉サービスの質は、多面的ですが、よりよいサービスを提供することは福祉サービス提供組織の使命と言えるでしょう。

■科目修了試験 評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「自己管理能力」を身につけてほしい。

■参考図書

教科書の文献欄をご覧ください。

公衆衛生学

		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R	2年以上
科目コード	DF3110	担当教員	柏木 誠(上)/澤田 悦子(下)	



■科目の内容

公衆衛生学は健康の問題を疫学的に把握することにより、病気の予防や健康を維持しようとする学問であり、社会医学の分野に属しています。また、衛生学は社会的環境要因と健康との関わりを分析することによって病気の予防と健康維持を探究する学問です。

本科目は公衆衛生学と衛生学とを合わせた衛生公衆衛生学と呼ばれる領域を担当するものであり、予防医学と健康の維持についての科学と技術を学びます。わが国の公衆衛生の現状と衛生行政についても習得します。

身近な学問です。自分の生活と関連付けて考えてください。

■到達目標

- 1) 公衆衛生の概要について簡潔にまとめることができる。
- 2) 感染症と予防（免疫を含む）について説明できる。
- 3) 主な生活習慣病と、その予防や生活習慣との関連について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。
- 4) 新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、公衆衛生に関する情報を得ることができる。

■教科書

鈴木庄亮・久道茂編『シンプル衛生公衆衛生学2016』南江堂、2016年（2016年度版でなくても可）
(最近の教科書変更時期) 2016年3月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	衛生学・公衆衛生学序論 (第1章)	衛生学・公衆衛生学、健康をめぐる、生活と健康、健康問題の変遷・公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動生命倫理、保健医療福祉の倫理 キーワード：公衆衛生、健康	公衆衛生学、公衆衛生活動を理解する。生命倫理について考える。
2	保健統計 (第2章)	健康の測定と健康指標、人口統計 キーワード：平均寿命、人口静態・動態統計、老年人口割合（高齢化率）	健康の指標について学び、平均寿命と死因について考える。統計調査の方法を学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	疫学 (第3章)	疫学とは、疫学調査の手順と留意事項、疫病の分類、疾病量の把握、疫学の方法 キーワード：疫病	疫学と統計調査について学ぶ。
4	疾病予防と健康管理 (第4章)	疾病リスクと予防医学、健康管理、健康増進 キーワード：一次予防、二次予防、三次予防、健康日本21（第2次）、QOL	予防医学、健康増進について学び、自らの生活習慣を見つめなおす。
5	主な疾病の予防① (第5章)	感染症、循環器系の疾患の予防 キーワード：感染症の成立、新興感染症、再興感染症、予防接種、脳血管疾患（脳卒中）	感染症成立の条件について学び、予防対策について考える。脳血管疾患のリスクと予防を考える。
6	主な疾病の予防② (第5章)	生活習慣病、アレルギー疾患の予防、不慮の事故と自殺の防止 キーワード：生活習慣病、脳卒中、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患	生活習慣病のリスク（特に喫煙・飲酒）と予防を考える。
7	環境保健 (第6章)	生活環境の汚染問題、公害問題、環境のあり方について学ぶ キーワード：生態系、環境汚染、ADL	人間の環境が健康に及ぼす影響について学び、新たな問題に対しては、自ら考える姿勢を育てる。
8	地域保健と保健行政 (第7章)	個人と地域との関係と、一人ひとりが健康になるための地域のあり方について キーワード：地域保健活動、保健所	地域保健活動と、保健所や市町村保健センターの役割について学ぶ。
9	母子保健 (第8章)	母子保健対策、母子保健の現状と課題について キーワード：出生率、合計特殊出生率、少子化	日本の乳児死亡、妊産婦死亡、合計特殊出生率の年次推移について学び、少子化の原因と母子保健対策を考える。
10	学校保健 (第9章)	学校保健とは何か キーワード：学校保健、健康教育、保健指導	学校保健について学び、子供の現状の理解を深める。
11	産業保健 (第10章)	よりよい職業生活を送るには、法制度について キーワード：労働基準法、労働安全衛生法、職業病	勤労者保健について学び、労働災害や職業病などの健康障害に対する対策を考える。
12	老人保健・福祉 (第11章)	老化とは、各種制度の目的、実際の動向と今後の課題 キーワード：老化、健康寿命、健康日本21（第2次）、高齢者医療制度、特定健診、介護保険	老化や加齢に伴う健康障害、高齢者医療制度や介護保険、介護予防について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	精神保健 (第12章)	精神保健と心の働きの理解、精神の健康とは キーワード：精神保健、うつ病、統合失調症、PTSD	脳と心の働き、精神の健康について学び、精神保健、メンタルヘルスケアについて考える。
14	国際保健医療 (第13章)	国際保健について、国際交流 キーワード：WHO、ユニセフ	国際的な健康課題に対処する方法を学ぶ。
15	保健医療福祉の制度と法規 (第14章)	保健医療行政、保険制度、医療制度、医療保険の仕組み、障害者福祉の仕組みについて キーワード：厚生労働省、保健所、医療保険、年金	保健医療福祉の概要を学ぶ。制度や法規を理解する。

■レポート課題（すべて【説明型レポート】）

※下記の注意(1)～(3)をよく読んでください。

1 単位め	① 公衆衛生活動について簡単に説明せよ。 ② 日本の少子高齢化について考えを述べよ。また、少子化対策について考えを述べよ。 ③ 健康寿命を延伸する方法について考えよ。 ④ 2011年より、日本人の死因の第3位は肺炎になっている。高齢者が肺炎により死亡する率が高い理由について述べよ。
2 単位め	① 感染症および感染症の成立条件について説明せよ。 ② 疾病の一次予防と二次予防について、簡単に説明せよ。 ③ 特異的免疫（獲得免疫）および予防接種との関連について述べよ。 ④ 院内感染や高齢者施設内感染の問題点について考えよ。
3 単位め	① メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）について説明せよ。 ② 介護予防について述べよ。 ③ 飲酒が人体に与える影響について述べよ。 ④ 「健康日本21」の第1次計画の成果と、第2次計画の目標について簡単に述べよ。
4 単位め	最近の新聞ニュースなどで話題になった、公衆衛生学に関連する記事の要点をまとめよ。事例はいくつでも良いが、ニュース源（新聞名、テレビ番組名など）と、年月日を記載すること。自分の考えを加えればなお良い。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

注意 (1) 年度により問題が異なり、また、問題文も長いので、レポート用紙の「課題」欄には、「2017年の問題に解答する」のように、課題の年度のみを記入してください。「解答欄」には、問題の番号のみを記入し、問題文は記入しないでください。

(2) 1～3単位めは各問に対して、300字以上をめやすに、単位毎に、1,600字以上2,000字以内になるように、簡潔明瞭にまとめてください。4単位めは、1,500字以上2,000字程度でまとめてください。

(3) 教科書や文献をそのまま写すのではなく、自分自身の文章でまとめなおしてください。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1～3単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

病気の予防と健康維持のために、教科書などの文献から知識を得て活用することが大切ですが、昨年は Dengue 熱や Ebola 出血熱の脅威に対し、自ら新情報を得て対処する必要性を痛感した年でした。今後、強毒性鳥インフルエンザウイルスが人に感染能力を獲得したり、強毒性のサルモネラ菌や赤痢菌が NDM1 遺伝子を獲得したりする可能性も危惧されています。そのような緊急を要する場合に、的確な行動がとれるよう、準備する機会にしてください。

1 単位め アドバイス

公衆衛生行政の中心課題は、国民の健康に関するものですが、生活環境とも密接な関連を持っています。ここでは、まず教科書を最後まで読んで、概略をとらえてください。

日本における人口構成の特徴（2013～2016年版教科書 p.24 または p.26 の表を参照）を考慮した上で、少子化問題について考察してください。

年代別の死因は、高齢になるほど肺炎による割合が増加します。肺炎だけでなく、COPD など他の肺疾患の影響についても考えてみてください。

健康寿命の延伸については、健康寿命の長い山梨県、静岡県、愛知県、長野県の取り組みなどが参考になります。

2 単位め アドバイス

感染症対策は、公衆衛生上きわめて重要です。予防には、感染経路などの特徴を知ることが重要です。先天性風疹症候群と予防接種の関連、子宮頸がんワクチンの副作用などについても考えておいてください。

予防接種は、個人の感染症罹患や重症化を防ぐとともに、集団の罹患をも防止するものです。現在日本で使用されているワクチンの種類や、免疫についても理解しておいてください。免疫については、参考図書『医学一般』『人体の構造と機能及び疾病』を参照してください。

病院内や高齢者施設内には、免疫力や体力の低下した人が集まっています。そのような特殊性や、日和見感染症、多剤耐性菌と関連させて考えてください。

3 単位め アドバイス

日本人の死因は、生活習慣病と密接にかかわっています。死亡リスクが高くなるメタボリックシンドロームについて考え、私たちの生活習慣を見つめ直すことが大切です。この機会に、飲酒や喫煙が人体に及ぼす影響も考えてください。たとえば、酒（アルコール、エタノール）には、麻酔作用があります。イッキ飲みで命をおとすこともあります。医学的に考えてください。受動喫煙で肺がんや COPD を発症することについても考えておいてください。受動喫煙で乳がんや 2 型糖尿病、認知症のリスクが高くなるという報告もあります。

2000年度からスタートした「健康日本21」は、2013年度から「健康日本21（第2次）」に改正されました。基本的方向及び主な目標について理解しておいてください。



公衆衛生学は、私たちの身近な学問です。普段から、新聞やテレビのニュースに関心を持っていることが大切です。子宮頸がんワクチン、風疹、MERS コロナウイルスなど、気づいたニュースについて、簡単にまとめてください。新しい情報を自分でまとめることが重要です。総説や解説文はニュース源ではありません。

先天性風疹症候群や新型ノロウイルスなど、指示を待つのではなく、いち早く情報を得て、自ら対処することで、感染を予防することも可能です。

■レポート 評価基準

- ① 問われていることを理解し、求められていることに応えている。即ち、レポートを読んで、逆に課題がわかるレポートになっている。
- ② 教科書などの丸写しではなく、自分の言葉でまとめている。自分で考えることが重要なので、考える姿勢を評価する。
- ③ 要点を、簡潔に、読み手にもわかるようにまとめている。
- ④ ニュースなど、情報を得て要約できる。

■科目修了試験 評価基準

- ① レポートをまとめる中で学んだ知識の要点が、身についている。
ただし、年代や細かい数字などを暗記する必要はない。
- ② レポートをまとめる中で学んだ知識が感じられる答案であること。一般常識や、仕事上で得た知識だけでは不十分なので注意する。
- ③ 過食、運動不足、喫煙、飲酒などの生活習慣を、生活習慣病予防の観点でとらえることができる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

教科書や文献の要点をまとめてわかりやすく表現する「レポート作成力」を身につけてほしいです。人の話を聞いて要点をまとめるためにも大切です。

■参考図書

教科書の各章ごとの参考文献を参考にしてください。

別冊 NHK 今日の健康シリーズ (『メタボリックシンドローム』など)

岡部信彦・多屋馨子編集指導『予防接種に関する Q&A 集 (2016年版)』(社団) 日本ワクチン産業協会、2016年 <http://www.wakutin.or.jp/medical/index.html> より閲覧・購入可能

健康日本21 (第2次) についての厚生労働省の情報

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html

福祉用具と生活支援(旧科目名:福祉機器論)

	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R or SR	2年以上
科目コード	DF3121	担当教員	関川 伸哉



※本科目は、「福祉機器論」から2014年度より「福祉用具と生活支援」に科目名を変更いたしました。
※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

■科目の内容

福祉機器・福祉用具と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。知られているようで、知られていないのが福祉機器（以下、福祉用具）であります。福祉用具とは、日常の便利な「道具」です。我々が生活の中で用いるハサミや包丁などと同様で決して特殊なものではありません。しかし、わが国では、福祉用具導入および使用には見えないバリアが存在するようです。

ここでは、福祉用具について理解するのではなく、ヒトと福祉用具の関係について考えていただきたいと思います。主役は、福祉用具ではなくヒトであることを十分に理解してください。利用者を理解することができなければ、福祉用具を理解することはできません。また、福祉サービスおよび各種公的制度の理解も欠かすことのできない項目です。本科目では、主に以下の内容について理解していただきたいと思います。

- (1) わが国の高齢化の背景と今後の動向を理解しながら、高齢者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
- (2) わが国の障害発生原因と今後の動向を理解しながら、障害者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
- (3) 福祉用具の歴史、定義、各種支給制度について総合的に理解し、わが国の今後の動向を考察する。
- (4) バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する。
- (5) ヒトと機械の結び付きについて考える。
- (6) 高齢者と福祉用具①——介護保険制度から考える——
- (7) 高齢者と福祉用具②——介護負担の軽減を目指して——
- (8) 高齢者と福祉用具③——自立・自律を目指して——
- (9) 福祉用具の選び方・使い方

■到達目標

- 1) わが国の超高齢者社会の現状と課題について説明することができる。
- 2) 何故、福祉用具が必要とされているかを説明することができる。
- 3) 今後必要となる専門性について説明することができる。
- 4) 福祉用具を必要としている人々について説明することができる。
- 5) “適合”の重要性について説明することができる。
- 6) 福祉用具を適合させるために必要となる知識と技術の基本について説明することができる。

■教科書

京極高宣・市川 洵共同監修『三訂 福祉用具の活用法』北隆館、2007年

(最近の教科書変更時期) 2014年 4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	福祉用具等に関わる専門職の動向 (第1部)	ソーシャル・インクルージョンを基本理念とする中で、多職種連携をふまえた介護保険制度等の活用による高齢者支援と福祉用具の役割について理解する。 キーワード：福祉用具、高齢者、介護保険制度、住宅改修、多職種連携、ケアプラン、介護予防、など	福祉用具は、生活を支える重要な用具です。しかし、多くの方々が介護用品等のイメージを持たれています。自立支援の視点を中心に、二次的側面から介護者の負担軽減をふまえ、今後の福祉用具活用の方向性と課題について考えてみてください。
2	ケアプランと福祉用具の活用法 (第1部)	ケアプラン（介護支援計画）を作成する際に、必要となる基本事項との中で福祉用具が果たす役割について理解する。 キーワード：ケアプラン、生活支援、訓練、人的介護、福祉用具選定、専門職、介護負担、導入時期、など	福祉用具は、生活の幅を広げ、利用者の自立（できる事を増やす）支援を促す道具です。個々の利用者の身体機能のみに着目するのではなく、生活をデザインする中で福祉用具が果たす役割について考えてみてください。
3	ケアマネジメントと福祉用具 (第1部)	ケアプランを検討する際には、はじめに利用者の生活全体を把握する中で“実現可能な生活をデザイン”することが大切です。ここでは、ケアプランと福祉用具を用いた生活改善の関係性を理解する。 キーワード：ケアプラン、質の管理、サービス、福祉用具事業者、家屋内環境、オムツ、モニタリング、利用者ニーズ、製品特性、など	介護保険では、12項目の貸与及び5項目の購入の福祉用具があります。アセスメントからケアプラン作成の際に、福祉用具を効果的に活用するための導入方法について考えてみてください。
4	介護保険の動向と福祉用具 (第1部)	介護保険制度は、定期的な見直しが行われ課題の整理を行いながら改正されています。ここでは、介護保険制度の動向とその中で用いられる福祉用具の今後の課題と役割について理解する。 キーワード：介護保険制度、介護報酬、福祉用具貸与、福祉用具利用者、福祉用具ガイドライン、情報開示、レンタル事業所、など	介護保険制度の動向を把握する中で、福祉用具のレンタル事業の質を如何にして担保しながら、利用者に適切な福祉用具の供給を可能にするかについて考えてみてください。
5	排泄と福祉用具 (第2部)	排泄ケアは人権にも関わる重要な項目です。排泄ケアを考える際には、利用者のアセスメントが欠かせません。ここでは、オムツ、パッド、ポータブルトイレ等の福祉用具導入の際のポイントについて理解する。 キーワード：アセスメント、ADL、排泄ケア用具、自立、介護力軽減、オムツとパッド、スキンケア、ポータブルトイレ、など	介護力軽減が主体となったオムツやパットの導入は大変危険な選択です。アセスメントを通して、適切な排泄形態と福祉用具の選択について、事例等を通して多角的に考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	移動補助とベッド（特殊寝台） （第2部）	この章で示すベッドとは、福祉用具としての特殊寝台です。特殊寝台を導入する目的は、単なる睡眠に関する事項ではなく、背臥位から座位・立位の一連の移動（動作）手段の確保と特殊寝台の関係性について理解する。 キーワード：移動（動作）パターン、寝返り、起き上がり、座位、特殊寝台、3モータ、特殊寝台付属品、自立支援、高齢者の動作、など	高齢者のベッドは、単なる寝具ではなく自立支援の道具といえます。背臥位から起き上がり、立位にいたる一連の動作を考える中で、何故、特殊寝台が必要なのか？導入の意味について考えてみてください。
7	褥瘡予防用具とベッド（特殊寝台） （第2部）	人間は、生活の中で頻繁に姿勢を変えます。これは、一箇所（主に骨突起部）に圧がかかることによる身体負担の軽減（褥瘡発生予防）の目的としています。ここでは様々な褥瘡予防と福祉用具について理解する。 キーワード：褥瘡発生部位、褥瘡発生原因、座位時の褥瘡予防、臥位時の褥瘡予防、移乗時の褥瘡予防、褥瘡予防用具、体圧分散寝具、など	身体機能が低下した高齢者や脊髄損傷等の障がい者にとって、褥瘡予防は生活全般に関わる重要事項です。ここでは褥瘡に関する基本事項および臥位（臥床）・座位・移乗時の褥瘡予防と福祉用具の関連性について考えてみてください。
8	口腔ケアの実際 （第2部）	口腔ケアは、生活の中で自然の行われることが重要です。口腔内を清潔な状態に保つための器質的ケアと食べるための口腔内づくりを行う機能的ケアの双方について理解する。 キーワード：口腔内状況、口腔ケアの方法、口腔ケアの役割、歯ブラシ、舌苔、洗口剤、器質的ケア、機能的ケア、嚥下、咀嚼、など	食事は、生活の中で楽しみの一つでもあり、生涯にわたり食事を自立するためには口腔ケアが重要です。ここでは口腔ケアの目的と、基本的な方法を学ぶ中で咀嚼・嚥下についてもあわせて考えてみてください。
9	車いすと座位姿勢 （第3部）	高齢者の車いすは、単なる移動手段ではなく快適な座位の提供が重要です。また、適切な座位の提供が次の生活の拡大に繋がることを意識しながら、主に姿勢と車いす特性の双方について理解する。 キーワード：高齢者の座位姿勢、座位保持能力、アジャスタブル（調整）機能、モジュール機能、車いすクッション、選定の基本、身体寸法、6輪型車いす、など	座位は、立位同様に抗重力動作であり、筋力を必要とする（がんばる必要がある）ものです。高齢に伴う身体機能の低下により、座位姿勢を保持することが困難な高齢者が増えています。ここで紹介される車いすは、かなり基本的なものばかりですが姿勢と車いすの関係について考えてみてください。
10	福祉車両と電動カート （第3部）	超高齢社会を迎えたわが国では、年々福祉車両のニーズと開発が増えてきています。また、自分で操作可能な電動カートの普及も増えてきています。ここでは活動・参加の視点から上記用具導入の意味について理解する。 キーワード：福祉車両の動向、低床バス、車いす、減税措置、自操式車両、使用環境、海外事情、電動カートの特徴、電動カートの種類、導入時の注意事項、など	福祉車両や電動カートの導入は、社会生活における活動・参加の促進に繋がるものです。将来的には、福祉車両が特別な車体でなくなるものと思われます。電動カートは、高齢者の身近な移動手段として広く使用されています。今後をふまえて身近な（生活）の視点で考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	介護リフト選定と生活支援 (第3部)	<p>リフト（ホイスト）と吊り具の使用により、介護者及び要介護者の双方に大きなメリットがあります。リフト及び吊り具の種類と特徴を理解する中で、導入時のポイントと選定方法の基本について理解する。</p> <p>キーワード：リフトの種類、リフトの特徴、吊り具の種類、吊り具の選定、高齢者の身体特徴、目的別と吊り具の選定、移乗介護、車いす、入浴、安全性、など</p>	<p>移乗動作を支援するホイストと吊り具には、様々な種類があります。中でも吊り具の選定は、利用者の身体機能・寸法や使用目的により細かく分類されています。安全な移乗動作を形にするために、具体的なリフトと吊り具の導入方法について考えてみてください。</p>
12	介護リフト活用ポイント (第3部)	<p>リフト（ホイスト）と吊り具の導入の際には、生活全般の把握が必要となります。また、特性や機能の異なる複数のリフトや吊り具の中から適切なもの選定する必要があります。ここではそれぞれの特徴について理解する。</p> <p>キーワード：床走行リフト、設置式リフト、据え置き型リフト、各種吊り具、入浴支援、段差解消、階段昇降機、など</p>	<p>高齢者介護の中でも移乗時の介護は、介護者の身体負担も大きく危険因子を含んでいます。“持ち上げない”は、介護時の基本の中の基本です。ホリフトと吊り具の利用は、安全な移乗を支援し、生活全般の幅を広げるものです。介護者及び要介護者双方の視点からリフト導入の効果について考えてみてください。</p>
13	バリアフリー環境と福祉用具（高齢者の暮らし） (第4部)	<p>現状の福祉用具は、“便利で身近な生活の用具”とはまだまだいえないバリアが存在します。単に機能面にのみ着目することなく、使う側の内面に配慮した福祉用具導入の方法について理解する。</p> <p>キーワード：高齢者の心理、高齢者の心理、表層問題提起、暮らしと福祉用具、など</p>	<p>福祉用具を必要とする高齢者にとって、福祉用具はまだまだ特別な存在です。福祉用具は生活を支える身近な道具でなければいけません。但し、福祉用具に関する“真の”専門知識を有する者は決して多くはいません。ここでは、単なる知識とは異なる視点で、使用する高齢者の内面を意識しながら導入時の在り方について考えてみてください。</p>
14	バリアフリー環境と福祉用具（両輪の理解） (第4部)	<p>介護保険貸与の福祉用具の現状から様々な課題が見えてきています。また、福祉用具の貸与と合わせて住宅改修を行う事例も複数存在します。生活支援の有益な道具としての福祉用具を、ソフトを含めた視点から理解する。</p> <p>キーワード：福用具貸与、住宅改修、要介護度と福祉用具、ハードとソフト、チームアプローチ、住宅改修と福祉用具、など</p>	<p>福祉用具を有効活用するためには、道具（ハード）と知識（ソフト）の両輪が必要となります。また、福祉用具導入の際には、環境因子の把握が重要であり、必要に応じて住宅改修を含めた検討が必要となります。これもある意味で両輪といえます。ここでは、それぞれの両輪をふまえて導入時の在り方について考えてみてください。</p>
15	10月1日の「福祉用具の日」 (第4部)	<p>福祉用具を用いた生活支援を“真の支援”に繋げるには様々な課題が存在します。専門職の更なる専門性の向上と、一般市民への福祉用具啓蒙の必要性について多角的視点から理解する。</p> <p>キーワード：福祉用具の普及、福祉用具法、地域の活動、ソーシャルインクルージョン、など</p>	<p>1993年の福祉用具法制定から9年後の2002年の同日の10月1日に福祉用具の日が制定されました。福祉用具が国民にとって身近なものになるために、今後どのような活動を行うべきかについて広く考えてみてください。</p>

■レポート課題

1 単位め	わが国の高齢化およびの障害発生原因をもとに、福祉用具導入の意義とその可能性について解説せよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
2 単位め	福祉用具を支給制度の観点から分類し、それぞれの利用者、特徴、導入方法などについて解説せよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
3 単位め	高齢者およびその家族の QOL 向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説せよ。また、具体的事例を示し論述せよ。事例の記載方法については、必ず書籍等を参照してから書くこと。
4 単位め	以下の項目の中から、2つを選択し、課題にそくした内容で全体を整理し考察せよ。 ① 高齢者のための車いすの選び方・使い方 ② 視聴覚機器の選び方・使い方 ③ ヒトの立ち上がり・座りこみと機器との関係 ④ 楽に安全に歩こう——歩行補助車の選び方・使い方—— ⑤ 肢体不自由者のためのコミュニケーション機器 ⑥ 自分の足にあった靴をさがそう——足の障害に応じた靴選び—— ⑦ ホイストと吊具の選び方・使い方 ⑧ 日常生活支援——自助具の種類と使い方——

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- (1) なによりも教科書を「よく読む」ことから始まります。第一段階では、福祉用具と利用者の関係を概論的に把握してみてください。
- (2) 教科書を熟読し、さらに内容を深め明確な理解に努めてください。適宜、その他の参考書を読み、より一層の理解を促してください。
- (3) 各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行って下さい。レポートは、**各単位で目次ごとに**本文を記載してください（1 単位めの例：1. わが国の高齢社会の現状について、2. 超高齢者社会と障害発生原因の関係について、・・・）。**目次ごとに記載されていないレポートは、「再提出」と**します。事前準備を行うことなく、本文作成を行うと「まとまりのない」レポートとなることがあるため、注意が必要です。
- (4) 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- (5) レポート作成後は、数回の確認の後、提出してください。
- (6) 参考・引用文献は必ず最低3つ以上記載してください。

1 単位め アドバイス

わが国の平均寿命は、2016年現在において男性80.79歳、女性87.05歳となり人生50年の時代から、今や80年時代へと変わってきています。また、現在の障害は複雑かつ多様化し重度障害者数も増加傾向にあります。ここでは、現状の高齢者と障害者の関係を、わが国の高齢化およびの障害発生原因をもとに明確にしてください。その後、上記の方々への「福祉用具導入の意義」「導入することにより期待できる効果」「今後の課題」などについて解説し、考察を行ってください。

2 単位め
アドバイス

身体障害者が、自己の障害を補うことを目的とし身体に器具を付けた歴史は古く、紀元前の昔にさかのぼります。福祉用具とは、生活の中での人々の知恵により生み出された身体機能代償機具ともいえます。身体機能代償機具としての福祉用具を人と機械の結び付きの観点から捉えた場合、義肢・装具（補装具）が最も関連性の高い機具といえるでしょう。ここでは、補装具、日常生活用具、福祉用具などの違いを歴史的背景、給付制度、特徴、導入方法、利用者の点から適切にまとめ、さらに全体を考察してください。

 3 単位め
アドバイス

介護を必要とする高齢者およびその家族の支援には、さまざまな方法が考えられます。現在の主な支援策は、ホームヘルパーサービス、訪問看護、デイサービス、ショートステイなど人的支援が中心となっています。しかし、人的中心の支援には限界と問題があります。ここでは、上記現状の支援策の問題点を明確にした後、福祉用具導入の意義を説明してください。そして、利用者の QOL 向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説してください。また、居宅生活内への福祉用具導入の具体的事例について示し、論述してください。

(注) 具体的事例の記載方法に誤りのあるレポートが複数存在します。身近な真実に基づいた事例でなくても結構です。事例の記載方法については、予め書籍や「福祉用具の活用事例」を紹介したホームページ等でしっかり学習してください。

 4 単位め
アドバイス

福祉用具にはさまざまな種類、導入場所、使用者が考えられます。ここでは、レポート課題のまとめとして、各自の興味のある内容を 2 つ選択してみてください。次の事項を十分に考慮しまとめてください。

1 つは、テーマを十分に理解することです。テーマとレポートの内容が合致していなければ、この時点で採択されません。

2 つめは、利用者（ヒト）が主役であることを充分考慮してください。利用者が見えてこない解説は望ましくありません。「どのようなヒトが何に困っているのか!？」を明確にしてから福祉用具の内容に入ってください。

3 つめは、テーマが抽象的であるため、解説内容の絞込みを行う必要性が生じる場合も考えられます。その際には、必ず「何故、その内容に着目したのか」を明確にしてください。記載がない際には、採択されませんのでご了承ください。

■科目修了試験 評価基準

内容を適切に整理・理解できているかを評価します。主に以下の内容が重要となります。

- ・わが国の高齢社会の現状と課題について理解できているか。
- ・今後必要となる専門性について理解できているか。
- ・福祉用具を必要としている人々について理解できているか。
- ・補装具の特徴を理解し、福祉用具に必要な要素が理解できているか。
- ・現状の課題を踏まえて、福祉用具の適合の重要性が理解できているか。

■ 「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■ 参考図書

関川伸哉ほか『義肢装具総論』医歯薬出版株式会社、2008年

社会福祉法人名古屋総合リハビリテーション事業団編『これで安心！買う前に読む福祉用具の選び方 福祉用具ハンドブック』大井企画、2002年

東島弘子編著『福祉用具の安全活用法「ひやりはっと」から学ぶ』中央法規出版、2002年

リハビリテーション論		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	2年以上
科目コード	DF3122	担当教員	稲垣 成昭	



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

■科目の内容

我々の生活のさまざまな場面で「リハビリテーション」が行われています。「リハビリ」という言葉が一般的に使用されるようになり、多くの人々は、病院内での歩行訓練や療法士の行う徒手の訓練をイメージするようです。しかし、動かなくなってしまった手足への訓練（医学的なアプローチ）＝リハビリテーションではありません。リハビリテーションは、社会福祉（福祉）分野でも日々展開される重要な理念であり、目標であり、方法でもあります。

わが国の福祉専門職、および専門職をめざす方々には、リハビリテーションについての正しい理解と、「広義の福祉」と「リハビリテーション」との関連性について学んでいただきたいと思っており、このことは、福祉領域の発展に寄与し、何より対象者の利益になり得ます。また、リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々は、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握する必要があります。

本科目では、「リハビリテーション」、「社会資源」、「チームアプローチ」、「地域リハビリテーション」などについて適切な理解を促し、利用者へのより良いサービス提供について考えていただきたいと思えます。リハビリテーションを単体で理解するのではなく、「福祉」と「リハビリテーション」の双方の観点から考察してみてください。

■到達目標

- 1) リハビリテーションの理念について自分の言葉で説明できる。
- 2) リハビリテーションの領域と役割について説明できる。
- 3) リハビリテーションに携わる専門職種の役割及び連携のあり方について説明できる。
- 4) 地域リハビリテーションの概要を説明することができる。
- 5) 生活者としての対象者への援助を多角的に考察することができる。

■教科書

澤村誠志編『最新 介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 第3版』メヂカルフレンド社、2008年

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リハビリテーションとは (第1章)	リハビリテーションの意義について理解し、その背景となる歴史を知ることで、障害者とリハビリテーションの関係学ぶ。	リハビリテーションの語源、意味を理解する事はとても重要であり、根源をなすものである。歴史的背景をふまえ理解すると理解が容易になるでしょう。
2	リハビリテーションに関連する諸制度の最近の動向 (第1章)	高齢者・障害者を取り巻く近年の動向を理解し、社会保障の現状について学ぶ。	今現在を含む私たちが生きる現代の状況を知ることが、数年で変化する社会保障の現状や問題について理解しましょう。
3	リハビリテーションの領域と役割① (第2章)	リハビリテーションの領域を学び、各領域の特徴や目的を理解する。	医療・福祉・保健分野における総合リハビリテーションの各領域（医学的・教育的・社会的・職業的）での目標や特徴を知ること、リハビリテーションが持つ意味を考えてみましょう。
4	リハビリテーションの領域と役割② チーム・アプローチ (第2章)	チーム・アプローチに関連する職種と役割について学び、チームアプローチの特徴と必要性について理解する。	チームで取り組むメリット・デメリットとは何かを知ること、自己が目指す職種の特徴、役割とは何かを考えてみましょう。
5	リハビリテーションの領域と役割③ IADL (第2章)	IADL の概念を学び、具体的活動内容及び ADL との関連について理解する。	対象者の生活を再構築する為の IADL、ADL などの生活技術の評価をする視点を理解することが重要です。
6	リハビリテーションに関する社会資源② (第3章)	社会資源とリハビリテーションの関連性について理解する。各種資源及び活用上の留意点について学ぶ。	社会にはどのような資源があり、その資源をどう利用するのか、自己の経験などから考えてみましょう。
7	福祉用具、住居の改造 (第4章)	補装具・日常生活用具の種類や機能、適応について学ぶ。また、住居の改造などの重要性・目的を理解する。	疾患・対象者のニーズに合わせた用具の選択・適応には、多種多様な道具を知る必要がある。対象者の状況をイメージし自己の身の回りに当てはめて考えてみましょう。
8	福祉のまちづくり (第4章)	福祉のまちづくりの目的及び歴史について理解する。	対象者を取り巻く環境について理解し、自己の周りの環境について、誰にとっても障壁のない出かけやすい街とはどんなものかを考えてみましょう。
9	リハビリテーション介護とは (第5章)	リハビリテーション介護の目的を学び、人が生きるということの根源を理解する。	リハビリテーションにおいて、援助者の思いで援助するのではない。対象者自身の選択、決定の上で成り立つことを理解していただきたい。また、普段自分達が実施している生活とは何か、QOL とは何かを再度考えてみましょう。
10	リハビリテーション介護技術の基本 (第5章)	様々な援助手段について学び、その意味について理解する。	ひとつの介入・援助手段をどの対象者にも同じく適応するのではなく、その人その人に合わせた対応を行うことの意味を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	在宅訪問リハビリテーションの援助技術 (第5章)	訪問リハビリテーションの目的・支援の流れを理解する。	生活を支援する視点に立ち、その中で起る問題や課題をどう捉え、どう解決するのかを生活者としての視点を持ち考えてみましょう。
12	リハビリテーションの実際①身体障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	身体障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
13	リハビリテーションの実際②老化・精神障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	老化、精神障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
14	地域リハビリテーション (第7章)	地域リハビリテーションにおける多様な支援を学び、基本理念・考え方を理解する。	地域リハビリテーションの流れや課題を理解し、自分達が支援する場合にどのようなことができるのかを考えてみましょう。
15	終末期リハビリテーション (第8章)	リハビリテーションは人生のあらゆるステージに通じる理念を持つものであることを理解する。	「生きている限り生きがいを感じさせるのがリハビリテーションである」この言葉の意味を理解し、対象者にとって最高のQOLとは何かを考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	① リハビリテーションと障害者の関連性について、歴史的背景および国際動向を踏まえ多角的に論じてください。 ② リハビリテーションと社会資源の関連性について、各種資源とのつながりを踏まえ論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
2 単位め	① リハビリテーションの各領域について論じてください。 ② リハビリテーションと福祉の関連性を総合的観点から記述せよ

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- 教科書を熟読し、リハビリテーションについて理解を深めてください。
- リハビリテーションについて、関連書籍や文献などを読み自分自身の言葉で説明できるよう理解を深めてください。
- いずれも①、②の両方について解答してください。各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行ってください。目次をレポートの冒頭に必ず記入してください。事前準備を行うことなく、本文作成を行うとまとまりのないレポートとなることがあるため、注意が必要です。
- 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- 参考・引用文献は必ず2つ以上記載してください。

1 単位め アドバイス

①「リハビリテーション」という言葉を受け止め、理解を深めていただきます。まず、リハビリテーションの基礎となる語源、理念、目的などについて歴史的背景を踏まえながら考察してください。また、リハビリテーションの歴史は、障害者の歴史ともいわれます。そこで、障害者とリハビリテーションの関係を把握するうえで重要となる国際動向、およびその基本にあるものについて学んでください。

②「リハビリテーション」を提供するためには、対象者の多種多様なニーズへの対応が必要不可欠です。まず、リハビリテーションと社会資源の結びつきについて十分な理解を深めてください。その後、各種資源についてそれぞれのつながりについての相互関係を多角的に考察してみてください。

2 単位め アドバイス

①リハビリテーションとは、複数の関係職種が多角的側面から共通目的に向かい努力する過程です。また、さまざまなリハビリテーションが存在します。リハビリテーションを実践する現場は、施設や病院のみではなく、人々が住みなれた地域なども含まれます。生活者としての存在を維持する上で、地域社会との結び付きは欠かすことのできない課題も存在します。ここでは、総合リハビリテーションをしっかりと理解した後、リハビリテーションの各領域における専門職種の役割及び連携のあり方について考察してください。

②現在の障害は複雑かつ多様化し重度の障害を有する障害者数も増加傾向にあります。現在、各種障害者に対するリハビリテーションは、病院、在宅、地域などさまざまな場面で展開されています。また、わが国の平均寿命は、人生50年の時代から、今や80年時代へと変革してきています。単なる延命という量的な問題に加え、高齢期をいかに意義あるものとして生きるかといった質的問題が問われる時代です。ここでは、障害者および高齢者を主な対象として、リハビリテーションと福祉の関連性を、医療、福祉施設、地域、生活などを多角的に考察してみてください。

■科目修了試験 評価基準

評価基準は、科目修了試験100%となります。

解説問題は、内容理解が一番のポイントであるが、設問にて問われている単語の「キーワード」が書かれているかが重要になります。また、キーワードの意味を自己の言葉で記述する事が必要です。

語句の記入問題は、上記の解説問題でのポイントと同様で、ここではキーワードを聞いている問題になります。各設問で問われているキーワードを適切に理解していることがとても大切です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

砂原茂一著『リハビリテーション』岩波新書、1981年

江藤文夫編著『よくわかるリハビリテーション』ミネルヴァ書房、2005年

中村隆一編著『入門リハビリテーション概論 第7版』医師薬出版、2009年

椿原彰夫編著『リハビリテーション総論』診断と治療社、2007年

山根 寛著『ひとと作業・作業活動』三輪書店、2005年

医療・福祉経済論

単位数	履修方法	配当学年
2単位	R or SR	2年以上

科目コード	DF3147	担当教員	佐藤 英仁
-------	--------	------	-------



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。

■科目の内容

人口などの統計データは非常に身近ですが、曖昧なことも多いと思います。例えば、「日本人は男性と女性ではどちらが多いのか」、「現在人口は増えているのか、減っているのか」、「平均寿命は何歳か」、「どの都道府県がもっとも長生きか」など、自信を持って答えられるでしょうか。

医療・福祉経済論では、人口や出生率、死亡率などの医療・福祉分野の様々な統計データを見ることで日本の医療・福祉の現状を学びます。

■到達目標

- 1) 人口の推移や将来予測について説明できるようになる。
- 2) 日本の出生率や死亡率、疾病構造を説明できるようになる。
- 3) 経済学の基礎的な理論について説明することができる。
- 4) GDP や経済成長率を説明することができる。

■教科書

厚生労働統計協会『国民衛生の動向2016/2017』厚生労働統計協会、2016年（最新版でなくても可）
（最近の教科書変更時期）2016年9月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	全国人口の動向 (第2編第1章)	日本の人口の現状や推移について理解する。また、世帯数や世帯構造についても理解する。	現在、日本の人口は毎年減少しています。それに伴い、人口構成が劇的に変化しています。年齢別3区分の人口を見て、少子高齢化の現状を理解してください。また、世帯構成を見て、高齢者のみの世帯が増えていることを理解してください。同時に、少子高齢化も問題点についても考えてみましょう。
2	都道府県別人口と世帯数動向 (第2編第1章)	都道府県別に人口や世帯数、人口増減の現状について理解する。また、人口や世帯数について都道府県の違いを理解する。	都道府県によって高齢化率が異なります。どの都道府県が高齢者が多く、どの都道府県が高齢者が少ないかを理解してください。また、高齢者の多い都道府県は医療や福祉が充実していると言えるかを考えてみましょう。さらに、人口が増えている都道府県を確認し、その理由を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	出生 (第2編第2章)	合計特殊出生率について学ぶ。また、出生の現状や推移を理解する。さらに、都道府県別の出生についても理解する。	合計特殊出生率は期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率の2つがあります。両者の違いを理解しましょう。また、合計特殊出生率の推移について理解し、減少した理由を考えてみましょう。
4	死亡 (第2編第2章)	死亡率の年次推移や死因別に見た死亡状況について現状と推移を理解する。また、死因の国際比較を行い、日本と諸外国との違いを学ぶ。	日本人の死因を上位4つを中心に理解しましょう。また、悪性新生物の部位別に見た死因についても理解しましょう。脳血管疾患による死亡が減少しています。その背景についても考えてみましょう。
5	結婚と離婚 (第2編第2章)	結婚と離婚の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国の違いを学ぶ。	結婚と離婚の現状を理解し、諸外国と比較してみましょう。日本の離婚率はかなり低い水準です。なぜ、日本の離婚率が低いのか、その理由を考えてみましょう。
6	生命表 (第2編第3章)	平均余命、平均寿命、健康余命について学ぶ。また、平均寿命の現状や推移を理解する。さらに、都道府県比較や国際比較を行い、都道府県の違いや日本と諸外国との違いについても理解する。	平均余命と平均寿命の関係を理解しましょう。また、平均寿命が長い都道府県、短い都道府県を確認し、なぜ、平均寿命が長いのか、なぜ平均寿命が短いのかを考えてみましょう。
7	医療対策の動向 (第3編第5章)	医療法や改正の歴史について理解する。また、都道府県が策定する医療計画についても理解する。	医療計画の内容を理解しましょう。特に、5疾病5事業や二次医療圏について理解しましょう。また、自分の住んでいる二次医療圏を確認し、十分な病院があるかを考えてみましょう。
8	医療関係者 (第3編第5章)	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師などの医療関係者数の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国との数の違いを理解する。	医師数、看護師数を中心に確認し、医師不足の現状や看護師不足の現状を理解しましょう。また、都道府県によって数にばらつきがあることを理解しましょう。医師不足や看護師不足を解消するためにはどうしたらいいのかを考えてみましょう。
9	医療施設 (第3編第5章)	医療施設の種類について整理したうえで、種類別医療施設数の現状や推移について理解する。また、病床数や平均在院日数の現状や推移についても理解する。	開設者別に見た施設数を中心に医療施設の数や病床数について理解しましょう。近年、病院が減少している一方、診療所が増加しています。その理由を考えてみましょう。
10	医療保険制度の現状 (第4編第1章)	医療保険の種類について学ぶ。また、傷病手当金や高額療養費などの医療保険の使用例についても理解する。	医療保険の種類について、誰が加入しているのか、保険者は誰なのかを理解しましょう。この機会に自分の医療保険を確認してみてください。また、傷病手当金や高額療養費、出産手当金、療養費などは制度を知らないと損をしてしまいます。必ず理解しましょう。
11	後期高齢者医療制度 (第4編第1章)	後期高齢者医療制度の概要について理解する。特に保険者や保険料、財源についても理解する。	後期高齢者医療制度が導入された背景について考えてみましょう。また、後期高齢者医療制度の問題点についても考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	診療報酬 (第4編第1章)	診療報酬の概要について理解する。特に、2014年の改定で診療報酬はどう変わったのかを理解する。	診療報酬には出来高払い方式と包括払い方式があります。両者の特徴について理解しましょう。また、直近の診療報酬の改定(2014年4月)のポイントを整理しましょう。
13	医療保険制度の あゆみ (第4編第1章)	国民皆保険の実現後の医療保険制度のあゆみについて理解する。特に、保険者の再編・統合について理解する。	老人医療の自己負担割合の変遷を中心に医療保険制度の歩みについて理解しましょう。なぜ、自己負担割合を上げなければならなかったのか、その背景についても考えてみましょう。
14	公費医療 (第4編第1章)	公費医療制度の概要について理解する。また、生活保護における医療扶助の現状や推移についても理解する。	公費医療の一つに生活保護の医療扶助があります。生活保護制度を理解したうえで、医療扶助の推移を確認しましょう。被保護実人員に占める医療扶助人員の割合は増加傾向になっていますが、扶助費総額に占める医療扶助費は減少しています。その理由を考えてみましょう。
15	国民医療費 (第4編第1章)	国民医療費の定義について学ぶ。また、国民医療費の現状や推移についても理解する。	国民医療費には制度区分別や財源別、診療種類別など様々な見方があります。これらの特徴について理解しましょう。また、高齢化にもかかわらず2000年および2002年は国民医療費が減少しました。その理由を考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	日本の人口について、人口構造(年齢3区分別)や世帯構造に留意しながら特徴を述べなさい。また、諸外国と比べたときの日本の人口の特徴についても述べなさい。
2 単位め	日本人の死因の推移について述べなさい。また、性別や年齢階級別に見た死因の特徴(現状)についても述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

経済と人口は一見、関係がないと思われるかもしれませんが、実は大きく関係しています。人口が減少するということは、人口構造が変化する(子供の数が減り、高齢者の数が増える)ことを意味しています。医療や福祉をより必要とする高齢者の数が増えれば、医療や福祉を提供する労働者が不足することは容易に想像できます。また、現在の医療保険や年金は現役世代(若い人)から保険料を集めて、高齢者に給付する方式です。給付を必要としている高齢者が増える一方で、保険料を支払っている現役世代が減ってしまえば、財政的に厳しい状況になります。このように人口の減少は最大の経済問題と言っても過言ではありません。

この科目では医療・福祉に関する様々な統計データを見ていきますが、単に日本の人口の現状や推移を見るだけでなく、世帯構造や出生率、死亡率などの他の統計データを同時に見ていくことが重要です。また、なぜそのような数値になったのか、その意味を考えながら学習してください。

年度ごとに統計データは新しいものが追加されていきます。これに対応するために毎日、新聞を読む習慣をつけるといいでしょう。また、教科書以外にも厚生労働省「人口動態調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>)も参考にしてください。

1 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの pp.49～57および pp.390～397（2015/2016版は pp.50～58および pp.388～395）を参照して下さい。日本は少子高齢化と言われていますが、実際に日本人は何人で、高齢化率はどのくらいなのか、戦後どのように推移してきたのかなどを数値で見えておくと、今まで知らなかった様々な問題点が明らかになると思います。また、世帯構造の現状や推移も同時に見ることで、福祉や医療の必要性に気づくことができると思います。ただ単に数値を列挙するだけではなく、その数値の意味（背景や問題点）を考えながらレポートに取り組んでください。

2 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの pp.62～74および pp.398～399（2015/2016版は pp.63～75および pp.396～397）を参照して下さい。日本の疾病構造は戦後、大きく変わってきました。単に死因の第一位だけを確認するのではなく、その数値の意味（背景や問題点）を考えながらレポートに取り組んでください。レポートでは、部位別にみた悪性新生物の現状についても触れてください。

■科目修了試験 評価基準

- ・人口の現状と推移、問題点が理解できているか。
- ・死因や出生率などのマクロデータの現状と推移が理解できているか。
- ・経済の基礎的な用語が理解できているか。
- ・基礎的な経済理論が理解できているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

厚生労働省「人口動態調査」〈<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>〉(最新のものを参考にしてください)

福祉思想論

単位数	履修方法	配当学年
2単位	R	1年以上



科目コード	DH2109	担当教員	田中 治和
-------	--------	------	-------

■科目の内容

今日の社会福祉はテクニックが優先し、社会福祉への取り組み姿勢などがおろそかになってはいないでしょうか。新しい世紀を迎え混迷の度を深めている時代状況にあって、人と人の係わりあい、人としての考え方をしっかりと見つことが望まれるでしょう。そうしたとき、福祉思想が大きな役割を担うことができるものと確信しています。

人としての生き方を考えたとき、少しむずかしく思われるかもしれませんが、一歩踏み込んでその考え方に触れてみる必要があるのではないのでしょうか。

■到達目標

- 1) 選択した時代区分における思想の特色を簡潔に述べることができる。
- 2) 選択した時代区分における思想の特色をもとに自分の考え方を述べるができる。
- 3) 現代社会における様々な価値観と結びつけて思想の意味を述べるができる。

■教科書

吉田久一・岡田英己子著『社会福祉思想史入門』勁草書房、2000年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	欧米社会福祉思想（史）の方法（序章）	欧米の社会福祉思想を学ぶ意義について理解する。	社会福祉実践および社会福祉学の基盤となる福祉思想を学ぶ意義を学習してください。
2	中世以前の事前救済の福祉思想（第1章）	ギリシアの博愛、ユダヤ教の事前思想、キリスト教の隣人愛・カリタスについて理解する。	福祉思想の源流となる慈善と博愛について学習してください。
3	中世の事前救済事業思想（第2章）	カトリック慈善事業、ルターの救貧思想、都市救貧事業の思想と実践などについて理解する。	宗教改革前後の公的救貧思想および都市救貧制度について学習してください。
4	市民革命と自由・平等の人権思想（第3章）	イギリス救貧法の影響、フランス革命と「自由・平等・友愛」の人権思想などについて理解する。	西欧・米の国民国家のための福祉思想について学習してください。
5	博愛事業思想と市民主導型ボランティア（第4章）	イギリスの博愛事業と貧困問題、アメリカの博愛事業、ドイツとスウェーデンの救済システムについて理解する。	欧米各国の博愛事業について学習してください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	社会事業思想とソーシャルワークの創出 (第5章)	欧米の社会事業成立期(ソーシャルワークの創出期)の諸課題について理解する。	社会事業の職業化、つまりソーシャルワークの創出について、ジェンダー化という視点から学習してください。
7	現代社会福祉思想の登場と変貌 (第6章)	現代社会福祉思想の全般的動向とその課題について理解する。	社会民主主義の登場と、大恐慌後の大量失業問題への対応策としての種々の生活保障構想の意味を学習してください。
8	戦後福祉改革と福祉国家思想・運動の新たな模索 (第7章)	戦後福祉改革と福祉国家の動向とその思想および運動について理解する。	第2次大戦後の福祉国家制度の成功と低迷について学習してください。
9	20世紀終末期の欧米社会福祉思想 (終章)	欧米社会福祉思想の評価、および方法論について理解する。	社会福祉思想の方法論と、改めてそれを学ぶ意義について学習してください。
10	(日本の)近代以前の福祉思想 (序章・第1章)	古代社会および中世封建社会の福祉思想について理解する。	仏教の福祉思想、キリシタンの慈善思想について学習してください。
11	明治の救済事業思想、慈善事業思想 (第2章)	明治期の公的救済事業、慈善事業思想、および感化救済事業思想について理解する。	プロテスタントの慈善事業思想および感化救済事業について学習してください。
12	大正デモクラシーと社会事業思想 (第3章)	社会事業思想の形成と成立、および挫折、ならびに戦後厚生事業思想について理解する。	社会事業思想と戦時厚生事業思想について学習してください。
13	戦後の社会福祉思想 (第4章)	戦後占領期、高度成長期、および低成長期の社会福祉思想について理解する。	戦後社会事業思想と社会福祉成立期の思想と理論について学習してください。
14	20世紀終末期の社会福祉思想① (第5章)	20世紀末の欧米および日本の社会福祉思想について理解する。	20世紀末の(現在にも連続している)社会福祉思想について学習してください。
15	20世紀終末期の社会福祉思想② (第6章)	社会福祉の普遍化・多元化、市場論、グローバル化「自立」論などを理解する。	近年の社会福祉思想に連続する論点について学習してください。

■レポート課題

1 単位め	「第1部 欧米の社会福祉思想史」の全体の内容を踏まえて、第1章から終章までのなかからひとつの章を選択し、その内容をまとめ、考察せよ。また、どうしてその章を選択したのか理由を述べ、その章の内容に対する自らの意見を述べよ。
2 単位め	「第2部 日本の社会福祉思想史」の全体の内容を踏まえて、第1章から第6章までのなかからひとつの章を選択し、その内容をまとめ、考察せよ。また、どうしてその章を選択したのか理由を述べ、その章の内容に対する自らの意見を述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

日本の福祉思想に比べて、ヨーロッパの福祉思想は長い歴史があります。福祉思想にとって重要なことは、教科書の序章の最初に書かれているように、純粋な哲学的発想ではなく、実際の日常生活に密着して考えていくことです。レポートはひとつの章を選択して提出するだけですが、思想、考え方の流れということもあり、全体をひとつの流れとして捉えてほしいと考えています。

教科書の題名は『社会福祉思想史入門』となっていますが、「史」がついているからといって、古い考え方というものではありません。福祉の考え方にはいろいろとあってよいと思います。そうしたなかであって、自分の考え方をもって社会福祉に取り組む姿勢とでもいうものをもってほしいと考えています。

1 単位め アドバイス

テキストの第Ⅰ部をよく読み、欧米の社会福祉思想がその時代と社会のあり方を反映しながら、どのように展開されてきたかを簡潔に述べてください。そのなかで、ひとつの章を選択し、深く考察を加えてください。自分の考えをもつことを意識し、テキストを読んでもください。

2 単位め アドバイス

テキストの第Ⅱ部をよく読み、日本の社会福祉思想の流れを読みとってください。宗教や社会体制についても理解を深め、簡潔に述べてください。そのなかで、ひとつの章を選択し、深く考察を加えてください。日本の福祉社会を考えたとき、どのような考え方、意識をもち、今日までの思想の流れを捉えるか、そして、これからの時代に何が望まれるかを考えてください。

■科目修了試験 評価基準

教科書の内容理解に努めること。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

吉田久一著作集 1『日本社会福祉思想史』川島書店、1989年

丸山真男著『日本の思想』岩波新書、1961年

福祉計画法

		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	2年以上
科目コード	DH3123	担当教員	佐藤 英仁	



※2008年度以前入学者に対して開設されている科目です。2009年度以降に入学した方は、履修することはできません。

■科目の内容

社会福祉の計画は、国、都道府県、市町村などのほかに社会福祉協議会という民間の福祉団体が計画の主体として取り組んでいます。そして、2003年4月からは市町村が計画の主体となり地域福祉計画が施行されることになっています。

こうした計画のもつ意義を理解するとともに、ただ教科書を学ぶだけではなく、自ら住むまちの総合計画や福祉計画を具体的に知り、検討を加えることが大切です。今、自分の住んでいるまちでどのような計画のもとに施策が進められているか知っていますか。

■到達目標

- 1) 福祉行政の組織および国と地方自治体の関係について説明できる。
- 2) 社会保障関係費や民生費の現状を説明できる。
- 3) 福祉行政を担う専門機関や専門職について説明することができる。
- 4) 具体的な福祉計画について根拠法と関連付けて解説できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画（第5版）』
中央法規出版、2017年（第5版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	福祉行財政と福祉計画（第1章）	戦後の社会福祉の法制度の展開過程を理解する。また、今日の社会福祉の中で重要な手法となっている福祉計画が登場した背景や考え方について学ぶ。	社会福祉の法制度を成立させる要因について理解しましょう。特に、福祉需要の増大、人権思想の確立、社会運動、国際競争が法制度を成立させてきた歴史について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	福祉行政の組織 (第2章)	国の福祉行政を担っている機関・組織について理解する。また、地方自治体を整理したうえで、福祉行政を担っている地方自治体の組織について理解する。	国の福祉行政を担っている厚生労働省の組織について理解しましょう。また、政令指定都市や中核市、特例市の特徴についての整理しましょう。特に、専門機関が設置される地方自治体はどこなのか、義務なのか任意なのかを明確にしてください。
3	社会福祉基礎構造 (第2章)	法制度や福祉行政の実施体制を規定する社会福祉の基礎構造について、実践的な観点から理解する。	福祉サービスの7つの利用方式（生活保護方式、措置方式、行政との契約方式、介護保険方式、支援費方式、自立支援給付方式、事業費補助方式）の特徴を理解しましょう。
4	財政と社会福祉 (第3章)	財政、予算とは何かを理解する。また、社会保障給付費について整理し、その現状について理解する。	一般会計と特別会計の違いを明確にしておきましょう。また、社会保障給費の現状を「医療」「年金」「福祉その他」に分けて整理しておいてください。
5	一般会計予算と社会保障関係費の動向 (第3章)	国の一般会計予算の歳出・歳入について整理し、その現状について理解する。また、社会保障関係費について整理し、その現状を理解する。	国の一般会計予算の歳出は社会保障関係費、国債費、地方交付税等、文教及び科学振興費、公共事業関係費等に分類されますが、それら割合について整理しておきましょう。また、社会保障関係費は5つに分類されますが、その現状についても理解しておくことが重要です。
6	地方自治体の財政と民生費の動向 (第3章)	地方自治体の財政における歳出と歳入について整理し、その現状について理解する。また、民生費について整理し、その現状を理解する。	地方自治体の財政における歳出は民生費、教育費、公債費、土木費、総務費等に分類されますが、それら割合について整理しておきましょう。また、民生費は5つに分類されますが、その現状についても理解しておくことが重要です。
7	専門諸機関 (第4章)	福祉行政を担っている専門機関に理解する。また、各専門機関と国、都道府県、市町村の実施体制との関係について学ぶ。	福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、婦人相談所についてそれぞれ理解しておきましょう。また、それらの専門機関で働いている専門職についても整理しておくことが重要です。
8	専門職 (第4章)	福祉行政を担っている（法律による国家資格、法律によって指定された教育機関や専門機関による公的資格、民間の機関が認定する資格を有した）専門職について理解する。	現業員、査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司について、それぞれの業務内容を整理し、専門機関と関連させて理解しておきましょう。
9	福祉計画の目的と意義 (第5章)	福祉援助の実施・提供機関において個別援助に関わる社会福祉士が、地方自治を目指す「福祉計画」に関わる目的や意義を理解する。	福祉計画における国、都道府県、市町村のそれぞれの役割について明確にしておいてください。特に国が参酌標準の設定を通じて関与している点について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	福祉計画の理論と技法 (第6章)	福祉計画の概念や類型、計画の過程モデルとその特徴、ニーズ把握の技法、計画の評価の技法、住民参加の次元と技法についてそれぞれ理解する。	福祉計画策定においてまず必要とされるのがニーズの把握です。ニーズには客観的ニーズと主観的ニーズがありますが、それぞれの特徴について理解しましょう(主観的ニーズは、利用者自身がサービスの必要性を自覚しているものである)。
11	福祉計画の事例研究の視点 (第7章)	「地域特性・福祉特性」「福祉計画の契機・主体・対象・方法」「福祉計画の類型・関連・内容」「福祉計画の機能」「福祉計画の推進体制」の枠組みで分析していく視点を理解する。	計画の契機、計画の主体、計画の対象のそれぞれの意味について理解しましょう。具体的な福祉計画を考えながら、学習することが重要です。
12	老人福祉計画・介護保険事業計画 (第7章)	高齢者分野の福祉計画である老人福祉計画と介護保険事業計画の内容を理解する。また、それらが法定化されるまでの歴史的経緯や社会的背景について学ぶ。	老人福祉計画は老人福祉法に規定された福祉計画です。介護保険事業計画は介護保険法に規定されている福祉計画です。老人福祉計画は市町村老人福祉計画と都道府県老人福祉計画に大別されます。また、介護保険事業計画は市町村介護保険事業計画と都道府県介護保険事業支援計画に大別されます。それぞれの違いについて理解しましょう。
13	障害者計画・障害福祉計画 (第7章)	障害者分野の福祉計画である障害者計画と障害福祉計画の内容を理解する。また、それらが法定化されるまでの歴史的経緯や社会的背景について学ぶ。	障害者計画は障害者基本法に規定された福祉計画です。1982年に策定された「障害者対策に関する長期計画」からの歴史的な変遷を整理してください。障害福祉計画は障害者自立支援法に規定された福祉計画である。障害福祉計画は市町村障害福祉計画と都道府県障害福祉計画に大別されますが、その違いについて理解しましょう。
14	次世代育成支援行動計画 (第7章)	児童・家庭分野の福祉計画である次世代育成支援行動計画の内容を理解する。また、それが法定化されるまでの歴史的経緯や社会的背景について学ぶ。	次世代育成支援行動計画は次世代育成支援対策推進法に規定されている福祉計画です。次世代育成支援行動計画は市町村行動計画、都道府県行動計画、一般事業主行動計画、特定事業主行動計画の4つに大別されますが、それら違いについて理解しましょう。
15	地域福祉計画 (第7章)	地域福祉計画の内容を理解する。また、それが法定化されるまでの歴史的経緯や社会的背景について学ぶ。	地域福祉計画は社会福祉法に規定された福祉計画です。地域福祉計画は市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画に大別されますが、その違いについて理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>次の課題のなかから1題を選び、論述せよ。</p> <p>① 福祉計画の概要について述べよ。</p> <p>② 福祉計画の目的・意義について述べよ。</p> <p>③ 地域福祉計画のねらいと特性について述べよ。</p>
-------	--

2 単位め	次の課題のなかから 1題を選び 、論述せよ。 ① 福祉計画におけるニーズ把握について、その概念・類型・技法について述べよ。 ② 福祉計画における評価技法と実際、その課題について述べよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
-------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート課題は教科書の演習問題であり、しっかりと読めばレポートはそんなにむずかしいものではありません。ここで大切なことは、教科書を一般論として理解するとともに、いちばん身近な自分が住んでいるまちの総合計画や福祉計画に触れてみることです。

今日、計画を入手するためには役所を訪ね、購入するのが一般的ですが、計画書を手元に教科書を読めば、より具体的に計画法が理解できると思います。それよりも何よりも自分が毎日生活している場への理解と問題点を見つけることができれば批判もできることになり、自分の住んでいるまちを良くしていくための方策を考えながらレポートに取り組む姿勢も大切です。

■科目修了試験 評価基準

- ・福祉行政を担う機関や諸制度が理解できているか。
- ・福祉サービスの利用方法が理解できているか。
- ・国や地方自治体の福祉財政の現状が理解できているか。
- ・福祉計画の概要が理解できているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

都築光一著『新しい地域福祉推進の理論と実際』中央法規出版、2007年

家族法

		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	2年以上
科目コード	DH3144	担当教員	菅原 好秀	



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です（2018年度は未定）。

■科目の内容

少子・高齢化社会を迎えるわが国において、子どもの人権といった問題から、家族・親族間の高齢者における介護・扶養といった問題は、身近な問題といえます。福祉の実務においては、たとえば認知症である利用者の財産管理はどのように対処したらいいのでしょうか。虐待を繰り返している両親に対して、子どもの救済を図るためにはどのようにしたらいいのでしょうか。遺産を相続するにあたって、親族間でトラブルが生じた場合にはどのようにしたらいいのでしょうか。経験や勘で対応するのではなく、福祉の現場において、最低限の法律の知識に基づいてアドバイスができる人材が現在求められています。

このような家族関係をめぐって紛争が生じた場合の解決方法、また相続の問題などを対処するための法律が、親族法・相続法であり、家族法であります。特に家族に関する問題は、社会が複雑化・多様化する中で、従来の家族の概念を越えた現代的問題として、夫婦別姓制度、夫婦財産制度、人工生殖問題などもあります。

本科目においては家族の新しいあり方と法の関係について現状を認識し、現代の問題点を把握し、よりよく快適な生活を享受し、安心して老後を送るためにはどのようにすべきなのかについて、具体的に学んでいきます。

■到達目標

- 1) 家族法の制度概要について説明することができる。
- 2) 婚姻制度において、その制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 3) 家族法の観点から、成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。
- 4) 親族の現代的意義と問題点について説明することができる。

■教科書

渡辺信英編『福祉社会の家族法 親族編』南窓社、2008年

(最近の教科書変更時期) 2009年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	家族法	家族法の概要について学びます。	民法の中で、親族法・相続法の位置づけについて説明できることが重要です。
2	氏と戸籍	氏と戸籍について学びます。	氏と戸籍で問題となった裁判例を説明できることが重要です。
3	親族	親族の概要について学びます。	親族の意義、範囲、効果について理解することが重要です。
4	婚姻制度	婚姻制度の概要について学びます。	婚姻の法律的意義、要件について説明できることが重要です。
5	婚姻制度の現状と課題	婚姻制度の現状と課題について学びます。	婚姻制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
6	夫婦別産制度	夫婦別産制度の概要について学びます。	夫婦別産制度の解釈について理解することが重要です。
7	婚姻の解消	婚姻の解消の制度概要について学びます。	婚姻の解消において、死亡と離婚の相違点について説明できることが重要です。
8	内縁	内縁の制度概要について学びます。	内縁の意義、成立、効果、解消について説明できることが重要です。
9	親子	親子関係の意義と現状について学びます。	親子関係の意義と人工生殖の現状と課題について説明できることが重要です。
10	養子制度	養子制度の概要について学びます。	養子縁組制度の成立、無効、取消について説明できることが重要です。
11	特別養子制度	特別養子制度の概要について学びます。	特別養子制度の成立、効果、課題について説明できることが重要です。
12	親権	親権制度の概要について学びます。	親権制度の内容、現状と課題について説明できることが重要です。
13	成年後見制度の概要	成年後見制度の概要について学びます。	成年後見制度の全体像について説明できることが重要です。
14	扶養	扶養の現状と課題について学びます。	扶養の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
15	人事訴訟法	人事訴訟法の制度概要について学びます。	人事訴訟法の意義、課題について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	第1章の「家族法序論」について以下の内容を具体的に論じてください。 (1)家族法の特質について、(2)氏と戸籍について
2 単位め	第3章の「日本の婚姻制度」について以下の内容を具体的に論じてください。 (1)再婚禁止期間について、(2)夫婦同氏の原則について
3 単位め	第4章の「親子」について以下の内容を具体的に論じてください。 (1)親子制度の変遷について、(2)人工生殖による親子関係について ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

4 単位め	<p>第5章の「親権・後見等」について以下の内容を具体的に論じてください。</p> <p>(1)親権の内容について、(2)成年後見制度について</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>
--------------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

(1)家族法の特質に関しては、家族法が「予定する人間像」「非合理性・非打算性」を中心にまとめてください。また、家族法の意義を論じた上で、福祉的視点としての家族法を論じてください。(2)氏と戸籍に関しては「悪魔くん事件」「戸籍偽造事件」など、具体的に問題となった事例を示して、あなたの考えを論じてください。

2 単位め アドバイス

(1)最高裁の判決を踏まえて再婚禁止期間の意義と問題点を論じた上で、あなたの考えを論じてください。また、再婚禁止期間の制度が父性確定の困難を避けるためのものであれば、どのようにすべきか具体的に言及してください。(2)最高裁の判決を踏まえて夫婦同氏の原則の意義と問題点について論じた上で、諸外国の夫婦の氏についても、言及してください。また、夫婦別姓制についても法改正の動向を踏まえて、自説を展開してください。

3 単位め アドバイス

(1)「子のための親子法」を中心に、今日の親子法の課題について言及してください。また、親子関係の意義についても具体的に言及してください。(2)人工生殖の問題点を示した上で、あなたの考えを論じてください。また、人工生殖の立法論について自説を展開してください。

4 単位め アドバイス

(1)「子の虐待と親権の抑制」を中心に、あなたの考えを論じてください。虐待を防ぐための具体的な対策についても、自説を展開してください。(2)今後の成年後見制度の利用上の課題について、あなたの考えを論じてください。また「後見」「保佐」「補助」についても説明してください。

■科目修了試験 評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点で述べられていることも評価の対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

渡辺信英編『福祉社会の家族法 相続編』南窓社、2008年

社会福祉法制		単位数	履修方法	配当学年
		4単位	R or SR	3年以上
科目コード	DH4111	担当教員	志田 民吉	



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

■科目の内容

社会福祉法および社会福祉主要法律（児童、老人、障害者関連福祉法）についての理解を目指します。児童福祉法や老人福祉法、身体障害者福祉法等に定める福祉サービスの供受給制度に共通する事項をまとめて規定している社会福祉法の理解を中心に、各種の福祉サービス法が定めているサービスの提供のしくみやサービスの内容について理解をする手順で学んでいただければ、と思います。

■到達目標

- 1) 社会福祉法（制度）の体系について説明ができる。
- 2) 社会福祉法を概説できる。
- 3) 社会福祉法以外の主な社会福祉制度について概説ができる。
- 4) 社会福祉法制度の改正動向について説明ができる。
- 5) 社会福祉法制度の係わる判例（裁判所の見解）を検索し、判決文の読解ができる。

■教科書

- 1) 社会福祉法講義ノート（2017年版配付予定）
- 2) 河野正輝・増田雅暢・倉田 聡編『社会福祉法入門（第3版）』有斐閣、2015年
※教科書1）は2017年3月時点で完成時期未定のため、完成次第送付します。送付後、『With』で送付したことをご案内します。

（教科書利用上の注意） 近年、福祉関連法規が毎年改正されています。教科書の改訂が追い付かないため、法規の改正を、自身で最新の社会福祉六法やインターネットで調べていただければと思います。

（最近の教科書変更時期） 2017年4月

■在宅学習15のポイント（教科書1）の内容を基に作成しています）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	我が国の社会福祉法の動向	平成7年「社会保障勸告」以降、我が国の社会福祉法（制度）は、特に高齢者福祉関連法を中心とした法律改正が急務である。社会福祉法の講義に先立ち、近時の改正法律のいくつかを例に挙げながら、改正の訳と今後の動向について解説する。 キーワード：社会保障と税の一体改革	社会福祉法は、憲法が規定する社会権的基本権の表現の一つである。後述する人権のところでは詳細を述べるが、社会権は当該社会の力量を越えて国民に利益を保障することは出来ない。この理が理解できれば、社会福祉法の今後の動向についての理解を助けてくれることになる。
2	社会福祉と法（総論） 1. 社会福祉と法	社会福祉法は、「社会福祉」と「法」から成り立っている法律科目であるから、先ず“社会福祉”とは何か“法”とは何か、について学習する。 キーワード：社会福祉、法	社会福祉と法との関連を理解し、社会福祉の法体系について学ぶことで、我が国の社会福祉の全容を窺い知る。
3	2. 社会福祉法の歴史① 日本の法の由来	制度は思想と関連し、思想は文化と関係して形成される。我が国の法の歴史を学び、今日の我が国の社会福祉法（特に現行憲法の家社会権規定）の体系に至る道程を理解する。 キーワード：法学、公法、私法、社会法	今日の社会福祉法体系に至る経過を理解する。契約制度は市民法（私法）の象徴的存在である。“法”という概念そのものの理解が社会福祉法の理解の前提として重要になる。法学の振り返り学習が必要。
4	②社会福祉法の歴史	第1回目の講義内容と併せて、昭和25年、同37年、平成7年の社会保障制度審議会勸告と平成10年のいわゆる社会福祉基礎構造改革などを中心に述べていく。 キーワード：社会保障制度審議会勸告、社会福祉基礎構造改革など	社会福祉基礎構造改革などの一連の改革法、とりわけ平成24年の社会保障と税の一体改革の意味と内容を知り、今後の我が国の社会福祉法の方向を窺い知る。
5	③社会福祉法と社会権的基本権	基本的な人権の理解を確認しながら、社会権的基本権さらには社会福祉法体系との関連について、1回目、2回目の学習の内容を深化させて“社会福祉権利体系（社会福祉としての利用者の利益のまとめ）”について学習する。 キーワード：社会福祉、人権、権利、判例	人権あるいは権利の用語の使い分け方、社会福祉の現場で日常的に使用している“権利”を法律上の用法に添って使えるように学ぶ。
6	社会福祉と法（各論） 1. 社会福祉法①社会福祉法の概要	主要な社会福祉法（体系）制度について学習する。各種の社会福祉法（児童、高齢者、障害者など）に共通する、主として社会福祉行政の運営と管理に関する法律“社会福祉法（旧社会福祉事業法）”について学習する。関連法律として民生委員法、各種の国家資格法などを内容とする社会福祉の基盤や資源についても概説する。 キーワード：社会福祉法、措置、契約、権利擁護など	上記の昭和25年勸告内容を振り返りながら、社会福祉行政の運営管理の基本事項を確認しながら、民生委員制度や社会福祉事業に係わる関連法律についても学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	② 社会福祉と民事裁判	平成12年の法改正で、福祉サービスの利用制度として契約方式が導入された。社会福祉と契約との関連性について学習する。 キーワード：社会福祉、契約	社会福祉は公法（国家と個人との関係規範）、契約は私法（個人と個人との関係規範）である。両者の関係をどのように扱うのかについて学ぶ。
8	2. 生活保護の概要	生活保護法の概要を学習し、併せてホームレス自立支援法の概説も行う。 キーワード：生活保護、就労、ホームレスなど	憲法が保障する「健康で文化的な最低限の生活」を具体的に定めている生活保護法を学びながら、それらの“健康”とか“文化的”とか“最低限度”の意味を考えながら学ぶこと。
9	3. 老人福祉法の概要①	高齢者の国連原則の逐条概説と老人福祉法の規定との関連性について学習する。 キーワード：高齢者の国連原則	老人福祉法の理念は、高齢者の国連原則の各条の反映で、同じものである。我が国の老人福祉論の多くは、老人福祉法の解釈について制度と実践の視点を混同したものが多く見られる。社会福祉は制度と実践の車の両輪、と言う意味を考えながら学ぶこと。
10	3. 老人福祉法の概要②	老人福祉法の概要と介護保険法との関連及び介護保険制度のしくみや権利性について学習する。 キーワード：介護保険法など	老人福祉行政は、老人福祉法と介護保険法を中心として執り行われている。二つの法律の関係や高齢者の国連原則を読解しながら、我が国の高齢者福祉制度・政策の在り方について考える視点を持って学ぶこと。
11	4. 障害者福祉法の概要①	障害者の権利条約と我が国の障害者福祉法制度との関連について学ぶ。特に、権利条約批准以降の国内関連法の改正動向と意義について学ぶ。 キーワード：障害者の権利条約、社会参加など	障害者の権利条約は我が国国内関連法律の改正に大きな展開をもたらしている。条約の条項目と児童福祉法の条項目とを一覧表にして比較する意識を持って見比べてみる。
12	4. 障害者福祉法の概要②	障害者福祉は、身体障害者、知的障害者、精神障害者のそれぞれの法律が制定されている。併せて障害者基本法、障害者総合支援法の概説と上記三つの法律との関連について学習する。 キーワード：障害者福祉三法、障害者総合支援法	障害者総合支援法によって身体、知的、精神の各障害者福祉行政として給付するサービスの内容および提供の方法などが一元化されている。特に、老人福祉法と介護保険法との関連と比較して学ぶこと。
13	5. 児童福祉法の概要①	児童の権利条約に至る国連宣言などと我が国の児童福祉法制度について学ぶ。 キーワード：児童の権利条約、児童の最善の利益など	ジュネーブ宣言から始まり、権利宣言、権利条約と児童の権利に関する国連（連盟・連合を通じて）と我が国の児童の生育環境について比較しながら学ぶこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	5. 児童福祉法の概要②	児童福祉法の概説と併せて母子寡婦福祉法の概説を行う。 キーワード：児童福祉法、母子寡婦福祉法など	児童といわゆる“大人（成人・者）”との関連について考えながら制度を学んでみる。
15	6. 社会福祉と虐待法	現在、児童、高齢者、障害者のそれぞれの虐待防止法が制定されている。それらの概説と虐待防止法と社会福祉との関連について学習する。 キーワード：虐待と社会福祉など	一口に“虐待”といっても、どのような行為が虐待行為に該当するのか、その判断の基準や考え方について学んでみる。

■レポート課題

1 単位め	戦後（昭和20年8月15日以降）改正施行されたわが国の社会福祉関連法制度について、現在までの主要な流れについてまとめなさい。
2 単位め	社会福祉法の規定する苦情解決制度の意義についてまとめなさい。
3 単位め	「特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」とは何かについてまとめなさい。
4 単位め	児童虐待の課題について、児童福祉法および関連法律をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストの歴史の部分を精読して、まとめてみましょう。

1 単位め アドバイス

テキストの社会福祉法の解説の部分を精読してまとめてみましょう。特に苦情解決制度が福祉サービスの受給においてどのような役割を果たしているのか、あるいはどのような役割を果たすことを期待されているのかを考えながらまとめられるとよいと思います。

2 単位め アドバイス

テキストの老人福祉法の解説を精読し、老人福祉施設についてまとめながら、法令集（社会福祉六法：福祉小六法＝中央法規やミネルヴァ書房などから発行されています）に載っています上記「基準」の内容を読み比べてみれば、まとめることができると思います。また、「基準」を設けることの意義について考えてみましょう。基準の法的性格についても考えてみましょう（基準については法令に規定されていることが大半です）。

3 単位め アドバイス

4 単位め アドバイス

テキストで児童福祉法および児童虐待防止法についての解説や法律についてまとめてみるとよいでしょう。新聞などでは児童虐待問題について特集や虐待事実の報道がされていますので、それらの記事等を引用しながら、児童虐待防止についての制度上の問題点など

にも触れていただければよいと思います。

■科目修了試験 評価基準

それぞれの設題に対する記述内容の正確度が最も大切ですが、法律文章としての完成度も評価の対象として考えます（例えば、人権や権利の用語を、法律用語として適切に使用できているか）。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 志田民吉編著『改訂 法学』建帛社、2007年
- 2) 志田民吉編著『臨床に必要な人権と権利擁護』(福祉臨床シリーズ7) 弘文堂、2006年（絶版：アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です）
- 3) 志田民吉共著『里親制度の国際比較研究』ミネルヴァ書房、2004年
- 4) 社会福祉六法（名称はいくつかあります）(中央法規出版、ミネルヴァ書房などから発行されています。最新年度版を用意してください)
- 5) 志田民吉共著『先進諸国の社会保障・ニュージーランド・オーストラリア』東京大学出版会、1999年
- 6) 志田民吉・伊藤秀一編著『社会福祉サービスと法』建帛社、2007年（絶版：アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です）

以上の他は、テキストに引用している文献を参照してください。

国際福祉論

単位数	履修方法	配当学年
4単位	R	3年以上



科目コード	DH4115	担当教員	赤塚 俊治
-------	--------	------	-------

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書・レポート課題も一部変更されています。

■科目の内容

本講座は、国際福祉（国際社会福祉の略語として使用する）の基礎的導入編として位置づけています。国際社会では、国際福祉が重要な役割として期待されています。先進国、開発途上国、後発開発途上国における人々の現状や実態を理解することによって、国際福祉の理論はもとより国際福祉の実践的活動であるODAやNGOの今日的課題についても理解する必要があります。国益優先の時代は終焉を迎えています。国際社会がお互いに国際問題を共有し、児童労働、ストリートチルドレン、路上生活者、人身売買、難民、所得格差、貧困、南北問題など国際福祉分野に関する問題は山積しています。こうした国際問題に対して、国際社会は国際支援、国際協力など国際福祉を実践的に実行することによって、問題解決に向けた施策が必要となります。国際福祉を学ぶ基本は、理論学習はもとより、世界で生起している事象を踏まえながら、国際福祉の意義や役割及び機能について自分なりに論証することが重要となります。

■到達目標

- 1) 国際福祉には、教育分野や医療分野も含まれるが、世界各国で生起している国際福祉の対象になる人々の問題点や課題について説明することができる。
- 2) 世界各国に共通した社会福祉の特徴や問題点及び課題を広く理解することで、国際福祉の役割や機能について具体的な解決方法を説明することができる。
- 3) 国際福祉分野で活躍する人材になることができる。

■教科書

仲村優一ほか編著『グローバル化と国際社会福祉』中央法規出版、2002年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	国際福祉とは	国際福祉の3概念を理解する。 キーワード：国際、福祉、国際社会福祉、社会福祉国際比較、世界福祉	国際福祉と呼ばれる分野は3つの研究視点に分けることができます。これを整理した上で具体的な内容に取り組むことで理解しやすくなるでしょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	グローバリゼーションとは	グローバリゼーションとは何かを理解する。 キーワード：グローバリゼーション、国際化、冷戦、アメリカ化	グローバリゼーションはとても身近になった言葉ですが、曖昧でわかりにくい概念です。身の回りで起きていることでグローバリゼーションと関連していることをいくつか挙げられるでしょうか。
3	グローバリゼーション時代の福祉	冷戦終結後の1990年代から今世紀にかけて大きく変わってきた世界における福祉分野の現状を理解する。 キーワード：地域紛争、貧困、格差、国際機関、地域的枠組	冷戦後のグローバリゼーション時代到来とともに、福祉分野も大きな変動を余儀なくされました。大きな枠組みからこれを理解しましょう。
4	国際福祉と国家福祉	国家内の社会福祉政策と国際福祉との関連を理解する。 キーワード：社会福祉、国家福祉、国際福祉、選別主義、普遍主義、福祉国家	国家福祉の諸理論を整理し、さまざまな視点から分析することによって国家福祉の現状を理解しましょう。
5	国際福祉の現状と展望	国際社会が現在いかなる問題を抱えているかを理解する。 キーワード：国家、国際機関、国際NGO、NPO、ボランティア団体	国家をはじめとするさまざまな行為主体が多岐にわたる国際福祉問題に取り組んでいます。現在どのような問題が重要になっているのか理解しましょう。
6	アジアにおける福祉	アジアにおける国際福祉の課題について理解する。 キーワード：アジア、多様性、制度（ガバナンス）	アジアは非常に広く、多様な地域です。国境を越えてそこに存在する深刻な問題について理解しましょう。
7	アジアの貧困問題	アジアにおいてとくに深刻な貧困・格差の問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、植民地支配、多国籍企業	グローバリゼーションの進展に伴い、アジアにおける貧困・格差の問題は深刻化している現状を理解しましょう。
8	アジアの環境問題	アジアの環境問題について多角的に視る。 キーワード：貧困、環境、人口、エネルギー、女性	アジアの貧困問題と環境破壊の問題は、個別に解決できるものではない、複雑に関連し増幅し合う複合的な問題であることを理解しましょう。
9	アジアの児童労働問題	アジアの児童労働問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、ストリートチルドレン、多国籍企業、フェアトレード	アジアにおける児童労働問題の歴史的経緯と現代の市場主義的資本主義構造との関連を理解し、解決に向けての方策について考察しましょう。
10	国際福祉システム	国際福祉システムのあり方について考察する。 キーワード：国際福祉、人間福祉、システム	国家の枠を超えた国際福祉システムのあり方について、政治・経済・社会・文化という4つの視覚から、将来あるべき福祉世界の実現を考察しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	国際機関と国際福祉	国際連合をはじめとする国際機関の役割について理解する。 キーワード：国際機関、国際連合、経済開発、社会開発、人間開発	国際連合をはじめとする国際機関が第2次世界大戦後に果たしてきた役割および、経済開発から社会開発、さらに人間開発への流れについて理解しましょう。
12	国際協力と国際福祉	国際協力の歴史的発展について理解する。 キーワード：国際協力、国連開発の10年、南北格差	国際協力の歴史的発展過程を学び、戦後大きな問題となった南北格差の問題解決に向けての取り組みとその結果および課題について理解しましょう。
13	国際福祉における日本の役割 ①	日本のODAの現状と課題を理解する。 キーワード：ODA、国際協力機構、ひも付き援助、要請主義	日本政府が行ってきた政府開発援助（ODA）の果たしてきた役割を学び、今後の課題について考察しましょう。
14	国際福祉における日本の役割 ②	日本のNGOの現状と課題を理解する。 キーワード：NGO、顔の見える援助、政策提言機能	日本の非政府組織（NGO）が果たしてきた役割を理解し、ODAとの相互補完関係および今後の課題について考えましょう。
15	まとめ	国際福祉分野において私たち一人ひとりができることについて考察する。 キーワード：グローバリゼーション、国際福祉	グローバリゼーションが進む国際社会における国際福祉のあり方を整理し、一人ひとりがいかにして具体的な事例における実践的な行動をすべきかについて考えましょう。

■レポート課題

1 単位め	「国際福祉」の理念について論じてください。
2 単位め	グローバリゼーションと国際福祉について論じてください。
3 単位め	アジアにおける国際福祉について考察してください。
4 単位め	国際福祉分野において日本が果たすべき役割について論考してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 国際福祉は、国際社会の福祉という意味を持ち、世界的空間で考えられるべき福祉と解釈してよく、全人類の幸福及び全人類のよりよい生活を追及する学問として、国際福祉の分野があります。国際福祉の捉え方には、多面的な視点がありますが、それを踏まえて、「国際福祉」の理念を教科書に書かれている文章を理解して論述してください。なお、国際福祉研究者の代表的な人物としてミュルダールとロストウを紹介します。

○ミュルダール (Myrdal, K. G. スウェーデンの経済学者)

南北問題や福祉社会論について、国際的視野から発言している。『福祉国家を越えて』(1960)『豊かさへの挑戦』(1962)

「世界の福祉を増進させるためには、福祉国家を越えて世界を福祉社会群に分けることを提唱した。そして先進国社会群が開発途上国社会群を援助することによって、世界の福祉は向上すると説いた。」ミュルダールの福祉思想には、ヨーロッパ思想の優位性が読み取れる。

○ロストウ (Rostow, W. W. アメリカの経済学者) 『経済成長の諸段階』(1960)

経済成長論を基礎にした発展段階説を展開し、近代化論＝産業化論の代表的論者。

「思想よりも経済成長の必要性を説いた。開発途上国の人々の生活が質的に向上するためには、農業基盤を中心とする伝統的社会から離陸して、工業化された近代化への移行が必要と主張した。また、工業化による経済開発を促進し国民生活を向上させるためには、近代的な機械や設備に対応しうる教育を国民全体に行う必要があると説いた。」

2 単位め
アドバイス

(1)『グローバル化と国際社会福祉』第1章を読んでください。(2)昨今のグローバル化(グローバル化、地球規模化)について説明し、(3)そこに起きている具体的事例(例えば地域紛争や飢餓、国際経済協力など)をひとつ検証しながら、(4)国際福祉と国家との関連について論じてください。

3 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第3章および第4章を読み、アジアの発展途上国にある深刻な社会問題をひとつ題材として、その解決策について考察してください。

4 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第5章および第6章を読み、国際福祉分野において日本が果たすべき役割についてまとめてください。

■レポート 評価基準

- (1) 設問に答えているか(書いていくうちに話がそれないこと)。
- (2) 筋が通っているか(一貫した論理・話の最初と最後が矛盾しないこと)。
- (3) 結論・主張がしっかりしているか(自分の持っている考えを伝えること)。

レポートとは小論文です。字数制限もあることなので、書き始める前に以上の点を踏まえながらレポートの構成、アウトラインをまず作成し、たとえば序論・本論・結論という流れをまず作る必要があります。

■科目修了試験 評価基準

- ・出題された設問の内容についてきちんと理解しこれに答えることができるか。
- ・用語について一般的な基本事項が理解されているか。
- ・解答は筋が通っているか、一貫した論理構成であること。

・結論において自分が持っている考えをしっかりと主張できているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 赤塚俊治 「第3章第3節 フィリピンの障害者問題」 谷勝英編 『現代の国際福祉』 中央法規、1991年
- 2) 赤塚俊治 「II章5 シンガポール」 小嶋蓉子・岡田徹編 『世界の社会福祉』 学苑社、1994年
- 3) ジェームズ・ミッジリィ著 『国際社会福祉論』 中央法規出版、1999年
- 4) 川村匡由編著 『国際社会福祉論』 ミネルヴァ書房、2004年
- 5) その他赤塚俊治著の国際福祉に関する論文。『東北福祉大学研究紀要』 など。

レクリエーション概論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	R or SR	2年以上
科目コード	DL3280	担当教員	金 義信



※この科目は2017年度まで開講します。

※2017年度はスクーリングを開講しません。

※履修登録は2017年5月31日まで可能です。

■科目の内容

レクリエーション活動・支援分野について専門的に修得するには、幅広い環境や対象者、状況に対する汎用性を深める必要があります。本講ではまず、活動や支援の目的を明瞭化したうえで、レクリエーションの実践に必要な知識や方法について学習します。それらを理解したうえで、地域貢献という視点から、市民活動とボランティア活動についての意義を理解し、レクリエーション支援方法の幅広さ、対象者の主体性を重んじる姿勢や具体的な行動支援について考察を深めます。

■到達目標

- 1) レクリエーションの意義を通して、ホスピタリティの性質について学び「おもてなし」について考察することにより情緒的な人的接客サービスについて説明することができる。
- 2) アイスブレイキングの意義と基本技法について学び、説明できるようになる。
- 3) アイスブレイキングのプログラミングについて知り、説明できるようになる。
- 4) 「素材・アクティビティ」の提供と総合作用の活用を学び、説明できるようになる。
- 5) 目標や対象に合わせたレクリエーションを提供するためのコミュニケーションについて学び、コミュニケーション・ワークの重要性を理解し、説明できるようになる。
- 6) 素材アクティビティの提供と段階的なアレンジ法の応用について知り、説明できるようになる。
- 7) レクリエーションの特性を活かした減災支援活動について知り、説明できるようになる。

■教科書（「レクレーション実技」「レクレーション事業」と共通）

財団法人日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会、2008年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	レクリエーションの意義 (I-第1章)	レクリエーションという言葉の由来や様々な学説・定義からレクリエーションがどのようにとらえられてきたのかを理解し、基本的な考え方を理解する。 キーワード：遊び、余剰エネルギー説、生活準備説、リラクゼーション説、レジャー、回復、遊戯と労働の弁証法など	語原や定義、これまでの歴史からレクリエーションの意義について理解を深め、社会の中でレクリエーションに期待されることや、これからのレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方について考えてみましょう。
2	レクリエーション運動を支える制度 (I-第2章)	様々な社会的な課題に働きかけて運動の歴史を振り返り、現在のレクリエーション運動の使命を確認する。レクリエーション公認指導者制度の歴史、学習内容、資格、その活動の様子について理解を深める。 キーワード：日本クリーション協会、都道府県レクリエーション協会、市区町村レクリエーション協会、レクリエーション運動の使命、公認指導者、公認指導者資格の学習体系など	レクリエーション運動は、レクリエーションを活用して人々や地域を支える一人ひとりの支援者の活動やアクションと活動を支えるレクリエーション協会によって支えられています。そうした支援者を養成する公認指導者制度と公認指導者を支えるレクリエーション組織について理解しましょう。
3	レクリエーション・インストラクターの役割 (I-第3章)	レクリエーション支援方法について、どんな働きかけができるのか、また支援者の姿勢について理解を深める。 キーワード：支援者、個人、集団、環境、対象者の主体性、支援者の関わり方など	レクリエーションによる支援の考え方について理解を深め、その中でレクリエーション・インストラクターに期待されている役割について考える。また、レクリエーション・インストラクターの学習内容についても確認しましょう。
4	ライフスタイルとレクリエーション (II-第1章)	私たちは年代ごとに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知ることは、対象者のニーズを把握する第一歩である。ここでは、ライフステージごとの課題について理解を深める。 キーワード：乳幼児期、児童期、青年期、壮年・中年期、老年期、ライフステージなど	レクリエーション支援の対象となる人々は、老若男女、様々である。対象に合わせた支援をするために健常者は勿論のこと要支援者、家族という視点から、それぞれのライフステージにおける課題とそれに対するレクリエーション支援について考えてみましょう。
5	少子高齢化とレクリエーション (II-第2・3章)	少子高齢化の進展に伴う様々な課題についてレクリエーションの視点から子育て支援、子どもの居場所づくり、高齢者の介護、介護予防など、レクリエーションからの働きかけが期待される課題について確認する。 キーワード：日本の将来推計人口、介護予防、環境、子どもの居場所、子育て支援など	少子高齢化対策に求められる「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーション支援の考え方に沿いながら、それらの課題に向けた具体的な支援の方法について考えてみます。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	地域とレクリエーション (II-第4章)	<p>身近な地域「コミュニティ(小地域)」と、より広い範囲の「リージョン(広域地域)」、それぞれの「地域」が抱える問題を整理し、解決のためのレクリエーションの活用について理解する。</p> <p>キーワード：ボランティア、団塊の世代、地域文化や歴史、自然環境、地域の魅力、国際交流など</p>	<p>コミュニティとリージョンという二つの地域の捉え方と、それぞれの課題を理解する。また、それぞれの地域の課題への取り組みで、「つながり」の再生、創造にレクリエーションが寄与していることを学びましょう。</p>
7	レクリエーション事業 (III-第1章)	<p>楽しさを原動力としたレクリエーション事業の考え方について理解しを深める。自分も楽しみ、その楽しさが周囲の人々や地域に役立つことを通して、さらに事業を充実する方法について理解する。</p> <p>キーワード：スポーツ、趣味、生涯学習、単発イベント、市民サービス型事業、自己充足、自己実現、ネットワークなど</p>	<p>数名の取り組みから組織的なものまで、様々なレクリエーション事業がある。レクリエーション事業の一步は、小さなアクションで構わない。グループ間で、それぞれの得意なことを活かした事業の起こし方や継続する方法について考えてみましょう。</p>
8	事業計画① (III-第2章)	<p>A-PIE プロセス(アセスメント-計画-実行-評価)の手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない留意点について理解を深める。</p> <p>キーワード：身体的要素、知的要素、社会的要素、精神的要素など</p>	<p>高齢者施設や介護予防活動などにおいてレクリエーション支援を行う際のプログラムづくりについて、対象者個人のアセスメントに基づいてプログラムを計画し、実施、評価するプロセスと計画づくりの実際について学びましょう。</p>
9	事業計画② (III-第3・4章)	<p>「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-See プロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない留意点について理解を深める。また、レクリエーションにおける安全管理について理解する。</p> <p>キーワード：対象地域、対象者、特徴、状況、目標設定、事業のねらい、事業の効果、5W1H、広報、宣伝、安全管理など</p>	<p>地域づくり、少子高齢化への対応、家族の絆、健康づくりなどといった地域の課題に向けて実施される市民対象の事業について、企画から評価までの一連のプロセスを学びましょう。また、安全管理の考え方と対応について学びましょう。</p>
10	コミュニケーションワーク (IV-第1章)	<p>レクリエーションの提供を効果的に行うため、対象者との良好な関係性を築くために必要なホスピタリティの考え方を理解する。その上で、アイスブレイキングの特性について理解し基本的技術と提供について理解する。</p> <p>キーワード：姿勢、態度、行動、服装、視線、話し方、間合い、観察、空間、時間、当事者意識、目標設定など</p>	<p>コミュニケーション・ワークが目指すべき対象者の良好な変化・変容に向けたレクリエーション支援の最大の特徴であることを理解する。また、「無理なく」「無駄なく」「快く」、楽しさなど前向きな感情や行動を共有できる個人・集団の雰囲気づくりや、自分と他者、他者と他者を結ぶ信頼関係づくりには効果があることを考えてみましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	ホスピタリティ (IV-第2章)	1対1の場面を例として、ホスピタリティの示し方の原則を学び、「ペーシング」や「励まし・言い換え・要約」などポイントとなる技法について理解する。 キーワード：おもてなし、トラッキング、アコモデーション、マイム、バーバルコミュニケーション、ノンバーバルコミュニケーションなど	1対1や小集団、集団などそれぞれの場面で良好なコミュニケーションを築くための方法について学びます。対象者を受け止めているというメッセージはどのように示すとよいのかなど相互的な関係性について考えてみましょう。
12	アイスブレイキング (IV-第3章)	レクリエーション支援におけるアイスブレイキングの基本的な構造について理解するとともに、それを支援の手段という視点から構成された「アイスブレイキング・モデル」の意義と概要について理解する。 キーワード：同時発声、同時動作、効果的な素材の選択、合図出しなど	アイスブレイキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力。集団の中でのコミュニケーションを促進する方法を身に付けるため、コミュニケーションワークにおけるアイスブレイキングについて考えてみましょう。
13	目的に合わせたレクリエーション・ワーク (V-第1章)	レクリエーション支援の目的が、対象者のQOL向上につながるものであることを理解する。また、目的に合わせてレクリエーション支援を展開するイメージを理解する。 キーワード：アクティビティの選択、ハードルの設定、CSS プロセス、多様性、流動性、創作性など	目的に合わせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。基本技術としての対象者のよりよいQOLの向上というレクリエーション支援の目的に向けて有効な「素材・アクティビティ」を選択する様々な方法を知り、自ら想定する活用現場にあった方法を考えてみましょう。
14	対象に合わせたレクリエーション・ワーク (VI-第1章)	対象に合わせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。また、「環境の設定」について、その用例を学び、様々な「アレンジ」手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。 キーワード：生活のレクリエーション化、レクリエーションの生活化、余暇活用能力モデル、アレンジ、レクリエーション支援の概念など	対象に合わせたレクリエーション・ワークが対象者にふさわしいように「素材・アクティビティ」を提供する支援の手法であることを理解する。また、対象に合わせたレクリエーション・ワークの「環境の設定」と「アレンジ」の二つの技術の特徴、基本的な考え方を学びましょう。
15	段階的アレンジ法の応用 (VI-第2章)	もともとの素材アクティビティを最初の段階と位置づけ、それを楽しむことで個人と集団の成果を土台に、効力感を高めやすい段階を付け足していくという原則と原則を活かしたアレンジ法の応用について理解する。 キーワード：上付け方式アレンジ、分割方式アレンジ、個人と集団、デモンストレーション、プログラム作成など	簡易な「素材・アクティビティ」と難度の高い「素材・アクティビティ」それぞれの長所を活かすことと、対象者の効力感を高めやすい段階を設定するという、段階的アレンジ法の応用と考え方を学びましょう。

■レポート課題

1 単位め	レクリエーション支援における主目的をまとめたうえで、レクリエーションの実践が及ぼす対人的効果について述べ、さらに支援者としてのレクリエーションの在り方についてあなたの意見をまとめなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
2 単位め	地域とレクリエーションについてあなたの身のまわりでの事例をあげながら、人々が共創するその繋がりと、地域貢献を視野に入れた定着の意義について簡潔に論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

本課題では、レクリエーション運動における歴史と背景を学び、支援の実践に必要な知識や方法論について考察を深め、レクリエーション支援に必要な基礎的概要と行動支援について理解を深めることをねらいとしています。そのねらいを達成するためのポイントは、テキストを熟読したうえで、レクリエーション支援そのものの「意義」について洞察することが必要となります。この講座習得のねらいは、レクリエーションの基本的理論を踏まえ、実生活の場面や高齢社会、少子化社会になぞらえ、それぞれのライフステージでの意義を考えることにあります。したがって、レポート課題の内容は、①レクリエーション支援の目的を明瞭化し、②地域に在住する子どもから高齢者、障がい者への支援活動の意義を理解し、③汎用性のある具体的な行動支援について考察を深める、ことを段階的に進められるよう構成してあります。課題を簡潔にまとめる作業を効率的に進めると同時に、幅広い支援方法の視野を広げるため、レクリエーション関係資料なども有効に活用しながら、学習を進めてください。

2 単位め アドバイス

本課題では、「地域とレクリエーション」をテーマとして考察を深めて頂くことを目的としています。理論的な考え方から、現場を意識した支援をイメージして頂き、あなたの身の回りで実践されているレクリエーション支援を意識して観察してみましょう。これらの概要の中から、本来、レクリエーション支援が目指すべき方向性と果たすべき役割について、あなたの考えを含めて論じてください。人と人との繋がりや、地域における啓蒙、啓発も、さまざまなライフステージにおいて定着させるには必要不可欠なことです。テキストの「Ⅱレクリエーション支援論」第4章を中心に参考にとすると良いでしょう。

■科目修了試験 評価基準

試験内容は、単なる知識の確認ではなく、「レクリエーション支援の基礎」に関することについて自分自身の見解がどれだけ論述できるかを問います。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

レクリエーション実技

	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
科目コード	DL4281	担当教員	金 義信



※この科目は2017年度まで開講します。

※スクーリングは2017年度が最終開講となります。

※スクーリングは別教員（山内直子先生）も担当いたします。

※履修登録は2017年5月31日まで可能です。

■科目の内容

レクリエーション実技では、コミュニケーション・ワークが最も重要なテクニックとされています。関連科目となるレクリエーション事業を習得する前段階として、ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキング等の基本的技法を概説します。実際のレクリエーション支援においては、目的に合わせたレクリエーション・ワークと活動や種目、素材の選択が重要な要素となります。対象者間の相互作用を鑑みたくえて、活動・種目・素材の生きた活用が必要不可欠となり、心地よい刺激を享受できるようにアレンジや工夫が要されます。

さらに本学通信教育部におけるレクリエーション実技の特色は、わが国固有の伝統文化の一つである武道「短剣道形」を体験的に実技内容に盛り込んでいることであり、生涯的な活動としても老若男女が共に楽しみながら、幅広く活動できる内容も習得できます。

■到達目標

- 1) コミュニケーション・ワークの基本技術を使うことができる。
- 2) スポーツとニュースポーツの違いについて論じることができる。
- 3) 日本古来の伝統文化である武道に触れ、武道独自の考え方について論じることができる。
- 4) チャレンジ・ザ・ゲームを活用することができる。
- 5) 対象者や目的に応じてレクリエーションをアレンジすることができる。

■教科書（「レクリエーション概論」「レクリエーション事業」と共通）

財団法人日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』

※「レクリエーション概論」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「レクリエーション概論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	コミュニケーション・ワーク① (第1部)	効果的なレクリエーション支援を行うために必要な信頼関係づくりを「ホスピタリティ・トレーニング」を通して理解する。 キーワード：ホスピタリティ、信頼関係、受容と傾聴、姿勢、態度、行動など	対象者の良好な関係性を築くための「姿勢・態度・行動」について考察しましょう。
2	コミュニケーション・ワーク② (第1部)	「ホスピタリティ・トレーニング」でホスピタリティの構成要素を理解し、1対1の場面を想定し、その示し方の原則について理解する。 キーワード：ペーシング、励まし、言い換え、要約など	①お互いの意思の疎通を図りながら理解するコミュニケーションと、②その技術を駆使する、温かく、親切に「もてなす」という精神を考察しましょう。
3	コミュニケーション・ワーク③ (第1部)	レクリエーション支援におけるアイスブレイキングの機能的特性・構造的特性・効果的特性を理解し、合わせて基本技術の提供の仕方を理解する。(アイスブレイキングの基本技術) キーワード：アイスブレイキング、機能的特性、構造的特性、効果的特性など	①グループワークの中でのアイスブレイキング②レクリエーション支援におけるアイスブレイキングの基本技術を学びましょう。
4	コミュニケーション・ワーク④ (第1部)	アイスブレイキングの焦点は、一体感、安心感の共有であることを理解するために「同時発声・同時動作」が組み込まれた素材を選ぶという基本原則を理解する。(アイスブレイキングの応用技術) キーワード：同時発声・同時動作、効果的な素材の選択、合図出しなど	①アイスブレイキングの活用が期待される現場・場面や②様々な対象者へのアイスブレイキングの提供について考察しましょう。
5	ニュースポーツ① (第2部)	様々な歴史、多様な魅力を持つ多彩なニュースポーツを理解する。(種目：ウォーキング、ウォークラリーなど) キーワード：だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、気軽、生涯スポーツなど	レクリエーションの理念と同じく、だれもが、いつでも、いつからでも、どこでも、いつまでも、気軽に自由に楽しめるものとして、生涯スポーツ振興の原動力として多くのスポーツ愛好者から期待されていることを体験しましょう。
6	ニュースポーツ② (第2部)	スポーツとニュースポーツの違いを検討する。(種目：パターゴルフ、バッコーなど) キーワード：競うことよりも楽しむこと、新しいスポーツの概念など	競技性重視、勝利至上、あるいは結果主義を強調しようとするチャンピオン・スポーツに対して、新しい考え方のスポーツ「ニューコンセプト・スポーツ」としてのニュースポーツの意義を学びましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	ニュースポーツ③ (第2部)	対象者の年齢や技術レベルに合わせたルールを検討する。(種目：ターゲットバードゴルフ、ユニカールなど) キーワード：子どもの体力向上、中高年の健康維持・増進、介護予防など	①子どもの体力向上や中高年の健康維持・増進、高齢者の介護予防など、さまざまな分野で活用されるニュースポーツ②勝敗よりも、「楽しみ」「気晴らし」「人との交流」「健康・体力づくり」に重点を置いた生涯スポーツであること体験しましょう。
8	ニュースポーツ④ (第2部)	ニュースポーツの魅力を検討し解説できるように理解する。(種目：ウオークラリーなど) キーワード：多種目、簡易なルール、幅広い年齢層、能力に応じて楽しめるなど	ニュースポーツは多種目あり、ひとつの種目の中にも、多様なルールがあり、その人の能力に応じて楽しみ、幅広い年齢層の対象者に提供しやすい優れたスポーツ支援「素材・アクティビティ」の存在を知り、魅力を体験しましょう。
9	武道① (第3部)	短剣道形を実施するため打方と仕方との組合せにより短木刀を使って基本的な技の7本を一定の順序により相互が打突部位を形式的に打突し合う格闘技形式の運動を理解する。 キーワード：礼法、諸作法、心構、基本技えなど	我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動文化に対する考え方を理解し、それに基づく行動様式、運動特性を体験しましょう。
10	武道② (第3部)	短剣道形を実施するため打方と仕方との組合せにより短木刀を使って基本的な技の7本を一定の順序により相互が打突部位を形式的に打突し合う格闘技形式の運動を理解する。1本目から3本目 キーワード：構え、足裁き、打突、残心、応用技など	短剣道の運動特性（機能的特性）について体験しましょう。
11	武道③ (第3部)	短剣道形を実施するため打方と仕方との組合せにより短木刀を使って基本的な技の7本を一定の順序により相互が打突部位を形式的に打突し合う格闘技形式の運動を理解する。4本目から7本目 キーワード：攻防、理合、品格など	短剣道の運動特性（構造的特性）について体験しましょう。
12	武道④ (第3部)	短剣道形を実施するため打方と仕方との組合せにより短木刀を使って基本的な技の7本を一定の順序により相互が打突部位を形式的に打突し合う格闘技形式の運動を理解する。1本目から7本目 キーワード：人間形成	短剣道の運動特性（効果的特性）について体験しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	チャレンジ・ザ・ゲーム① (第4部)	技術や体力、勝敗を競うのではなく、グループでの交流を楽しみながら誰もが、記録に挑戦することができることを理解する。 キーワード：記録の申請、ランキング、学校、職場、地域全国いつでもチャレンジ・ザ・ゲーム大会など	チャレンジ・ザ・ゲームは、1989（平成元）年に日本レクリエーション協会が考案し、以降、全国各地で幅広い年齢層に親しまれているスポーツ・レクリエーション種目であることを理解しましょう。
14	チャレンジ・ザ・ゲーム② (第4部)	遊び感覚で身体を動かすことができるため、運動が苦手な人や体を動かすことが嫌いな人でも、楽しみながら健康維持・増進といった生活機能の向上に効果があることも理解する。 キーワード：遊び感覚、健康維持・増進、調整力、生活機能	チャレンジ・ザ・ゲームにはさまざまな種目があり、それぞれの種目の中には「力を入れたり抜いたり」「リズムに合わせて動く」といった「調整力」が含まれています。複数の種目に取り組み、バランスよく体力や運動能力を高めることができ、「調整力」の向上にも効果があることを学びましょう。
15	チャレンジ・ザ・ゲーム③ (第4部)	チャレンジ・ザ・ゲームは、体力差に関係なく、幅広い年齢層で取り組むことができるため、さまざまな場面で活用されていることを理解する。 キーワード：多種目、簡易なルール、幅広い年齢層、能力に応じて楽しめるなど	ボールや縄、棒といった用具を使うユニークな種目がたくさんあるため、体力や年齢に応じて自分に合った種目を選択することができるのも、魅力の一つであることを体験しましょう。

■レポート課題

1 単位め	目的に合わせたコミュニケーション・ワーク「相互作用の活用方法」について述べなさい。
2 単位め	対象者に合わせたコミュニケーション・ワーク「対象に合わせたアレンジ法」について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 「相互作用」とは対象者間の「関係性」を指します。したがって、対象者間に生まれる円滑な関係性の引き出し方と活用方法について、実技体験を踏まえて考察してみてください。対象者に見られた変容過程や段階的に主体性が生まれてくる様子を観察することで、個の活動そのものが、支えあう集団的活動に移行していく様相を見逃さないことが大切です。

**2 単位め
アドバイス** より効果的なレクリエーション支援を行うために必要な、活動・種目・素材を対象者にふさわしいように「アレンジ」することは、対象者の意欲を向上させ、かつ主体的な取り組みの達成には欠かせません。基本となるアレンジ法から応用するアレンジの技法について、学びを深めましょう。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

レクリエーション事業			単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			1単位	R + 実習	3年以上
科目コード	DL4282	担当教員	金 義信 / 山内 直子		



※この科目は2017年度まで開講します。

※履修登録は2017年5月31日まで可能です。

■科目の内容

本課程において、「公認指導者資格 レクリエーション・インストラクター」(公益財団法人日本レクリエーション協会)を取得する者は、地域において実施されているレクリエーション支援に関わる事業に3回以上参加することが必須となります。

レクリエーション事業は、いわゆる理論的、実技的学習の総合的演習を体系化したものです。具体的にはさまざまなワークが顕在し、対象を想定した支援「コミュニケーション・ワーク」としてのホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングの提供や事業の展開方法、アセスメントに基づいたプログラム計画、安全管理といったものがその主を成します。本講では、課程認定の指定を受けたレクリエーションに関係する各種の事業に実際に参画し、「事業にかかわるスタッフの様子」、「支援者の役割」、「事業のプロセスの理解」、「事業の企画運営や実施方法」等を事業に参加して学ぶ「事業参加」の形態と、実際に運営スタッフとして事業に参加する「スタッフ参加」の二つの形態があります。

インストラクターの役割を理解し総合的に実践力を身につけるためには、「事業参加」・「スタッフ参加」の両方に参加することが望ましいと思います。

■「事業参加」開始条件

「レクリエーション実技」のスクーリングを受講・合格済みであること(単位修得ではありません)。詳細については、レクリエーション実技のスクーリングの際にご説明いたします。

■到達目標

- 1) 都道府県および市区町村のレク協会が、地域でどのような活動を行っているかを説明することができる。
- 2) 都道府県および市区町村のレク協会が実施する行事・イベント等で、スタッフがどのような働きをしているかを区分することができる。
- 3) 行事・イベントの参加を通して公認指導者がどのような活動を行っているかを説明することができる。
- 4) 行事・イベントの企画や実施方法を応用することができる。

■教科書（「レクリエーション概論」「レクリエーション実技」と共通）

財団法人日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』

※「レクリエーション概論」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「レクリエーション概論」「レクリエーション実技」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■レポート課題（レクリエーション事業参加後の課題）

1 単位め	レクリエーション事業の考え方について述べよ。
-------	------------------------

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

事業参加とは、講義で学習したことを基本に、レクリエーション関係の団体が開催するイベントに参加し、運営やプログラムを参加者の視点で実践的に学習することです。

本講では、概論では見えにくい「実践における実技的」学習の習得にねらいを置いています。したがって、コミュニケーション・ワークとしてのホスピタリティトレーニングやアイスブレイキング等の専門的技法が、さまざまな局面や対象者の年齢層、雰囲気等によって、形態を変えながら展開されてきます。実際のレクリエーション支援の場面に自らを置くことで、主体である対象者や支援者の立場に立つことにより、レクリエーション支援そのものの本質について考察を深めてください。

各都道府県レクリエーション協会ホームページ掲載のレクリエーション協会主催イベントの中から選択できます。

○事業参加……地域におけるレクリエーション事業への参加（参加者として参加する）

事業参加では参加費用がかかる場合があります。

○スタッフ参加…レクリエーション事業への運営スタッフ（主催者のメンバーの一員）として事業へ関わる

「スタッフ参加」はイベント当日を含めて3回以上参加することを原則とします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

障害の理解

	EA2195	担当教員	単位数	履修方法	配当学年
			1単位	R	1年以上
科目コード	EA2195	担当教員	千葉 伸彦(上) / 三浦 剛(下)		



※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方は、履修することはできません。

※この科目は2018年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

■科目の内容

本科目では、障害のある人の身体機能および心理に関する基礎的知識、他職種との連携の必要性について理解することにより、障害のある人の生活を支援する際の基本的な考え方を習得することを学習のねらいとしています。障害のある人の生活状態とその家族を含めた周囲の環境を理解するために、「障害」とはなにか、現在の社会環境を把握した上で、障害の基礎的知識や障害のある人のニーズについて学習します。

■到達目標

- 1) 障がいのある人の身体機能および心理に関する基礎的知識を理解し、説明することができる。
- 2) 「障がい」の概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、説明することができる。
- 3) 様々な職種との連携の必要性について理解し、説明することができる。
- 4) 障がいのある人の生活の現状、障がいのある人および家族のニーズを述べることができる。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 第4版』中央法規出版、2015年（第4版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害の基礎的理解	障害のある人の思いや実態を理解し、障害の概念、障害のある人を取り巻く環境について理解する。 キーワード：障害の概念、障害の法的定義、国際障害分類、国際生活機能分類、障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害福祉に関する法律、発達障害者支援法、障害者総合支援法 など	障害のある人の生活状況や当事者の声を理解し、実際の暮らしについて理解しましょう。国際障害分類から国際生活機能分類における変遷の過程と背景について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	障害福祉の基本理念とその実態	障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解する。 キーワード：ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン など	基本理念がどのような社会背景や歴史の過程で生まれたものであるか理解しましょう。基本理念が障害のある人の地域生活においてどのように反映されているか理解しましょう。
3	障害の医学的側面の基礎的知識 (身体障害の基礎的理解)	視覚の構造と機能、聴覚・言語障害の状態、重複障害の状態、肢体不自由の原因や状態について理解する。 キーワード：視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害、肢体不自由障害 など	それぞれの障害の状態像や原因となる疾患などについて理解しましょう。障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。
4	身体障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	障害の心理的影響、障害の受容、支援する際にどのような点に注意するのかについて理解する。 キーワード：障害のある人の心理状態、障害受容過程 など	日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。障害の受容の過程やその際に支援者としてどのようなことが大切か考えてみましょう。
5	障害の医学的側面の基礎的知識(精神障害の基礎的理解)	精神障害の定義、精神疾患およびその症状について理解する。 キーワード：精神障害、精神疾患 など	障害がもたらす、さまざまなつらさについて考えてみましょう。障害によって生活リズムが乱れるなどの身体的変調があることを理解しましょう。
6	障害の医学的側面の基礎的知識(知的・発達障害の基礎的理解)	知的障害および発達障害の定義、特徴について理解する。当事者の生活とそのニーズについて理解する。 キーワード：知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害 など	地域生活の状況と課題について考えてみましょう。当事者の社会参加と自立に関するニーズを整理し、適切な支援のあり方について理解しましょう。
7	精神・知的・発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	当事者のニーズについて理解する。当事者の能力を活かし、エンパワメントする支援のあり方について理解しましょう。 キーワード：地域生活、社会参加、自立 など	障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。
8	障害の医学的側面の基礎的知識(内部障害・難病の基礎的理解)	心臓・腎臓・呼吸・膀胱・直腸・肝臓などの障害の状態像とその原因について理解する。難病の定義、疾患の特徴について理解する。 キーワード：内部障害、難病 など	一見、わかりにくい見えにくい障害のある人の生活のしづらさについて考えましょう。多様な生活上のニーズについて理解しましょう。
9	内部障害・難病に伴う機能の変化と日常生活への影響	障害の心理的影響、障害の受容、支援する際にどのような点に注意するのかについて理解する。 キーワード：心理状況、心理的变化(キューブラー-ロス)、チームケア	障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。
10	障害のある人の心理的理解	障害のある人の自己決定、エンパワメント、権利擁護について理解する。 キーワード：自己決定、エンパワメント、権利擁護、生活ニーズ	なぜ自己決定が大切であると言われるのか、その理由について考えてみましょう。障害のある人がどのようなニーズを抱え、どのような自己実現を望んでいるのかについて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	連携と協働① (地域におけるサポート体制)	障害のある人の周囲にある社会資源について理解する。制度やサービスについて理解する。 キーワード：社会資源の利用と開発、行政・関係機関の連携、フォーマルネットワーク、インフォーマルネットワーク など	地域に存在する社会資源について把握してみましょう。より生活が豊かになるためにどのような社会資源が必要になるか考えてみましょう。
12	連携と協働② (チームワーク、チームアプローチの意義)	個人でのアプローチとチームでのアプローチの違いについて理解する。チームアプローチの実際について理解する。 キーワード：チームワーク、チームアプローチ など	なぜチームアプローチが大切にされているのか考えてみましょう。実際にチームアプローチを進める過程で大切な視点について理解しましょう。
13	連携と協働③ (多職種の連携の必要性)	多職種との連携のあり方、それぞれの専門職の役割などについて理解する。 キーワード：保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携、各専門職の役割 など	それぞれの専門職が互いに連携する理由について考えてみましょう。どのように連携することによって地域生活が充実したものになるかについて理解しましょう。
14	家族への支援 ① (家族の障害受容過程)	家族にかかる介護負担や家族支援の重要性について理解する。障害受容の考え方について理解する。 キーワード：家族支援、障害の受容、家族の状態把握、介護負担 など	介護を担っている家族の身体的・精神的負担について考えてみましょう。家族を支援する重要性について理解しましょう。
15	家族への支援 ② (親亡き後の支援)	地域生活の継続としてレスパイトサービスが必要とされる状況や生涯にわたって一貫性のある支援を提供する重要性を理解する。 キーワード：親支援、きょうだい支援、地域支援、レスパイトサービス、地域生活の継続 など	一生涯を通じた一貫性のある支援の在り方について考えましょう。レスパイトサービスの意義やあり方について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	国際生活機能分類 (ICF) の概要についてまとめなさい。また、ICF をふまえ障害のある人の日常生活や現行の制度における問題点について考察し、あなたの考えを述べなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

まずはテキストを熟読しましょう。そして、課題レポートに関連する内容が理解することができたかどうか確認してみましょう。ご自分の読みやすい文献から読んでいく、基本書等の手に取りやすい書籍から読んでいくことも工夫の一つです。また新聞やニュースなど身近で取り上げられている内容は障害のある人の生活を知る参考資料になります。ノーマライゼーションやリハビリテーション等の障害者福祉の基本理念が障害者の地域生活にどのように反映されているのか、また地域生活を送っている人々の声を新聞等の記事からひろいあげていくことが障害のある人の生活状況を理解する第一歩となります。この機会に、自分自身がどの程度障害のある人の生活の実状について知っているか確認

してください。意外と理解していると思っけていても、自分自身の知らない点があることに気がつくはずでず。

何か気がつきたときには、その現状はなぜ起こっているのか、解決するべく策はないかと考える習慣を身につけていただきたいです。ご自身の周囲にいる障害のある方々の生活の現状や心情を聴いてみることも学びになるでしよ。普段気に留めていないことに視点を置き、じっくり観察してきてください。

あなた自身と障害のある方の生活を見比べてみると、何か気づきがあるかもしれません。自分自身の障害のある人へのイメージについても再考する機会としてみてはいかがでしよ。これまで述べたことを参考にしながら、レポート課題について答えることができるか随時確認しながら書き進めることが大切でず。

テキストに記載されている障害のある人の生活を理解し、障害のある人の地域生活において、どのようなニーズがあるか、そのニーズを満たすためにどのような取り組みが地域社会に必要なかといった基本的な事項をおさえましよ。

テキストの内容を理解していることが読み手に伝わるレポートを書くことを目標にしてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された問題の内容についてきちんと理解できているか。
- 2) 用語について一般的な基本事項が理解されているか。
- 3) 障害のある人を取り巻く環境をふまえ、かつ、障害のある人、その家族のニーズについて理解した上で、自身の考えが述べられているか。
- 4) 記述の分量も評価対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 定藤丈弘・岡本栄一・北野誠一『自立生活の思想と展望』ミネルヴァ書房、1993年
- 2) 寺本晃久・岡部耕典・末永弘・岩橋誠治『良い支援？知的障害/自閉の人たちの自立生活と支援』生活書院、2008年
- 3) 内閣府『障害者白書（最新年度版）』＝内閣府ホームページよりダウンロード可
- 4) 杉本章『障害者はどう生きてきたか：戦前・戦後障害者運動史』現代書館、2008年
- 5) 10万人のグループホームを！実行委員会編『もう施設には帰らない』中央法規出版、2002年

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

生活行動と人体

単位数	履修方法	配当学年
2単位	R	2年以上



科目コード	EA3194	担当教員	後藤 美恵子
-------	--------	------	--------

※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方は、履修することはできません。

※この科目は2018年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

■科目の内容

こころとからだは相互に影響し、意欲や行動などに影響をおよぼします。生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能を加齢や疾患とこころとの関連性から総合的に理解し、個々の残存能力・潜在能力を引き出し、人間の尊厳の尊重と自立を支援するための方法論を体系的に学習します。

■到達目標

- 1) 移動のしくみの概要をからだの動きと関連づけて説明できる。
- 2) 食事の摂食過程と精神機能の低下が食事に及ぼす影響について説明できる。
- 3) 排泄のメカニズムと排泄障害について説明できる。
- 4) 生活行動を関連づけて、人体のしくみについて説明できる。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ（第3版）』中央法規出版、2014年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	こころのしくみを理解する (第1章)	人間の欲求、自己実現と尊厳、こころのしくみの基礎について理解する。 キーワード：人間の欲求、自己実現、尊厳、こころ、脳、学習、記憶、思考、感情、認知、意欲・動機、適応、人格	人間の欲求、自己実現と尊厳、こころのしくみの基礎について理解し、説明できるようにしましょう。
2	からだのしくみを理解する (第2章)	からだのしくみ、からだの動きについて理解する。 キーワード：こころの調和、恒常性、からだの部位、機能低下、骨・関節、筋肉、神経系、ボディメカニクス	からだのしくみ、からだの動きについて理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	身じたくに関連したしくみ 身じたくのしくみ (第3章第1節)	身じたくに関連した、眼、爪、毛髪、口腔、舌の構造と機能について理解する。 キーワード：目、爪、毛髪、口腔、舌	身じたくに関連した、眼、爪、毛髪、口腔、舌の構造と機能について理解し、説明できるようにしましょう。
4	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 (第3章第2節) 変化の気づきと対応(身じたく) (第3章第3節)	からだのしくみ、からだの動きについて理解する。 キーワード：心身機能低下と身じたくの関連性	からだのしくみ、からだの動きについて理解し、説明できるようにしましょう。
5	移動に関連したしくみ 移動のしくみ (第4章第1節)	移動の目的、基本的な姿勢、移動に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：基本的姿勢、移動動作	移動の目的、基本的な姿勢、移動に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。
6	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 (第4章第2節) 変化の気づきと対応(移動) (第4章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が移動に及ぼす影響について理解する。 ・移動を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と移動の関連性	・精神機能、身体機能の低下が移動に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・移動を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
7	食事に関連したしくみ 食事のしくみ (第5章第1節)	食事の目的、食事に関連したところとからだのしくみ、代償的な栄養摂取法、食事の種類について理解する。 キーワード：食事のしくみ、栄養摂取法、食事の種類	食事の目的、食事に関連したところとからだのしくみ、代償的な栄養摂取法、食事の種類について理解し、説明できるようにしましょう。
8	心身の機能低下が食事に及ぼす影響 (第5章第2節) 変化の気づきと対応(食事) (第5章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 ・食事を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と食事の関連性	・精神機能、身体機能の低下が食事に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・食事を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
9	入浴・清潔保持に関連したしくみ 入浴・清潔保持のしくみ (第6章第1節)	入浴・清潔の目的、入浴・清潔に関連したところとからだのしくみについて理解する。 キーワード：入浴、清潔	入浴・清潔の目的、入浴・清潔に関連したところとからだのしくみについて理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 (第6章第2節) 変化の気づきと対応(入浴・清潔保持) (第6章第3節)	・精神機能、身体機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響について理解する。 ・入浴が身体に及ぼす負担、入浴・清潔を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と入浴・清潔の関連性	・精神機能、身体機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・入浴が身体に及ぼす負担、入浴・清潔を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
11	排泄に関連したしぐみ 排泄のしぐみ (第7章第1節)	排泄の目的、排泄に関連したところとからだのしぐみについて理解する。 キーワード：排泄機能	排泄の目的、排泄に関連したところとからだのしぐみについて理解し、説明できるようにしましょう。
12	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 (第7章第2節) 変化の気づきと対応(排泄) (第7章第3節)	・精神・判断力、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 ・排泄を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と排泄の関連性	・精神・判断力、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解し、説明できるようにしましょう。 ・排泄を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
13	睡眠に関連したしぐみ 睡眠のしぐみ (第8章第1節)	睡眠の目的、睡眠に関連したところとからだのしぐみについて理解する。 キーワード：レム睡眠、ノンレム睡眠	睡眠の目的、睡眠に関連したところとからだのしぐみについて理解し、説明できるようにしましょう。
14	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 (第8章第2節) 変化の気づきと対応(睡眠) (第8章第3節)	・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下、睡眠障害について理解する。 ・睡眠を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解する。 キーワード：心身機能低下と睡眠の関連性	・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下、睡眠障害について理解し、説明できるようにしましょう。 ・睡眠を支援する際の観察、医療との連携のポイントについて理解し、説明できるようにしましょう。
15	死にゆく人に関連したしぐみ (第9章)	・死のとらえ方、尊厳死、終末期(ターミナル期)について理解する。 ・身体機能の特徴、臨終期の対応、死後のからだの変化、死後の連絡について理解する。 キーワード：終末期、尊厳死、臨終期	・死のとらえ方、尊厳死、終末期(ターミナル期)について理解し、説明できるようにしましょう。 ・身体機能の特徴、臨終期の対応、死後のからだの変化、死後の連絡について理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	移動のしぐみの概要をからだの動きと関連づけながら概要を整理し、心身の機能低下が移動に及ぼす障害要因と対応方法について自立支援の観点から具体的に論述しなさい。
-------	--

2 単位め	①食事の摂食過程を整理し、精神機能の低下が食事におよぼす影響と対応方法について論述しなさい。 ②排泄のメカニズムと排泄障害を整理し、人間の尊厳を尊重した排泄への関わりについて論述しなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

移動はすべての生活行為の基本です。第4章の移動のしくみについて、第2章第2節のからだのしくみと関連づけながら概要を整理し、心身の機能低下が移動におよぼす要因と対応方法について自立支援の観点から自身の考えを具体的に述べてください。

2 単位め
アドバイス

①人は生まれた時から死ぬまで、毎日の生活に必要なエネルギーを食事によって補っています。食事は日常生活の中で、人の命に関わることで一日も欠かすことのできない大切なものであり、精神的満足感や個人の生活歴や生きてきた文化を象徴するものでもあります。一方、食欲は健康状態や生活意欲を反映するとも言えます。第5章を読み、食事の摂食過程としくみについて整理し、精神機能の低下が食事におよぼす影響と対応方法について、テキストの内容を踏まえ自身の考えを述べてください。

②排泄は生命を維持していくための大切な行為であり、健康状態を知るバロメーターともなります。一方で、個人の尊厳に関わる行為でもあります。テキスト第7章の排泄に関連したしくみの概略を整理し、個人の尊厳を尊重した関わりについて自身の考えを述べてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された課題の内容について理解できているか。
- 2) 課題に対する解答が指定のテキストの内容を踏まえているか。
- 3) テキストの内容を踏まえて、課題に対する自身の視点で考察がされているか。
- 4) 記述の分量が、800字程度以上書かれているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに生活行動と人体「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 住居広士編『こころとからだのしくみ』ミネルヴァ書房、2009年
- 2) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解（第2版）』中央法規出版、2011年

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

介護技術

	EA4193	担当教員	単位数	履修方法	配当学年
			2単位	SR	1年以上
科目コード	EA4193	担当教員	後藤 美恵子		



※本科目は、2017年度より1年以上配当科目に変更になりました。

※この科目は2018年度まで開講します。スクーリング受講、レポート提出は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

※スクーリングは2017・2018年度開講予定です。

■科目の内容

個人の尊厳を保持しながら主体的に生活できるように、介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を構築します。(1) 介護実践技術の基本目標、介護観についての理解、(2) 生活支援の展開における基本介護の意義、目的の理論的背景に基づいた介護技術の習得、(3) 生活機能アセスメント方法の理解、(4) 個々に応じたケアスキルの展開方法の理解について、学習します。

■到達目標

- 1) 身体各部の名称、運動・移動の原則、生活環境整備について説明できる。
- 2) 体位と姿勢、トランスファーの理論を踏まえ、実践できる。
- 3) 衣生活の理論を踏まえ、実践できる。
- 4) 排泄の理論を踏まえ、実践できる。
- 5) 食事の理論を踏まえ、実践できる。

■教科書（「高齢者福祉論」「介護概論」と共通）

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第5版）』中央法規出版、2016年（第5版でなくても可）

※「高齢者福祉論」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「高齢者福祉論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習10のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	第12章 介護過程 第1節 介護過程の概要	・介護保険制度におけるケアマネジメント過程と介護過程の関係について理解する。また、介護過程の概略について理解する。 キーワード：アセスメント（課題分析）、ニーズ、介護計画	・介護保険制度におけるケアマネジメント過程と介護過程の関係、および介護過程の概略について理解し、説明できるようにしましょう。
2	第2節 介護過程の展開技法	・介護過程におけるアセスメントの視点と対象について理解をする。さらに、展開の実際について事例を通して理解を深める。 キーワード：アセスメント、ICF、情報収集、サービスと生活	・介護過程におけるアセスメントの視点と対象について理解し、説明できるようにしましょう。さらに、展開の実際について事例を通して理解を深めましょう。
3	第13章 介護各論① 第1節 自立に向けた介護	・「自立」の概念の理解を深め、自立支援としての介護の展開について理解する。 キーワード：自立支援、阻害要因、依存	・「自立」の概念の理解を深め、自立支援としての介護の展開について理解し、説明できるようにしましょう。
4	第2節 家事における自立支援	・家事援助における自立支援について理解する。 キーワード：生活援助、家事、自立支援	・家事援助における自立支援について理解し、説明できるようにしましょう。
5	第3節 身支度・移動・睡眠の介護	・身支度・移動・睡眠の介護について理解する。 キーワード：身支度、移動、ボディメカニクス、睡眠の仕組み	・身支度・移動・睡眠の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
6	第4節 食事・口腔衛生の介護	・食事・口腔衛生の介護について理解する。 キーワード：食支援、寝食分離、摂食・嚥下過程、口腔ケア	・食事・口腔衛生の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
7	第5節 入浴・清潔・排泄の介護	・入浴、清潔、排泄の介護について理解する。 キーワード：入浴の意義、清潔法、排泄動作とアセスメント	・入浴、清潔、排泄の介護について理解し、説明できるようにしましょう。
8	第4章 介護各論② 第1節 認知症ケア	・認知症の中核症状と周辺症状（BPSD）、および原因疾患による症状と進行について理解する。また、認知症高齢者とその家族の支援について理解する。さらに、地域での連携体制について理解する。 キーワード：中核症状、周辺症状、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、個別化、受容、家族ケア、地域連携体制	・認知症の中核症状と周辺症状（BPSD）、および原因疾患による症状と進行について理解し、また、認知症高齢者とその家族の支援について理解し、説明できるようにしましょう。さらに、地域での連携体制について理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	第2節 終末期ケア	<p>・終末期ケアの概念、および高齢者の終末期ケアの特徴について理解する。また終末期ケアの基本的な考え方について理解する。</p> <p>キーワード：終末期ケアの概念、終末期ケアの介入方法、グリーフケア</p>	<p>・終末期ケアの概念、および高齢者の終末期ケアの特徴、また終末期ケアの基本的な考え方について理解し、説明できるようにしましょう。</p>
10	第3節 住環境	<p>・高齢者に対する住環境整備について、家族との関係を踏まえ理解する。</p> <p>キーワード：居住環境、バリアフリー、住環境整備の視点</p>	<p>・高齢者に対する住環境整備について、家族との関係を踏まえ理解し、説明できるようにしましょう。</p>

■レポート課題

1 単位め	要介護者の生活支援を展開する上での基本的な生活支援技術をまとめなさい。その上で、要介護者がその人らしく生活することの意義を考え、それを可能にするために専門職としてあり方について具体的に論述しなさい。
2 単位め	認知症高齢者の状態像についてまとめ、中核症状を踏まえた上でBPSD（周辺症状）への対応方法を含め、専門職に求められる認知症介護のあり方について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

専門職として、生活支援（介護）を展開する上での基本的な専門技術について、テキスト第13・14章を参考に理論的根拠を踏まえた上で介護技術の内容について簡潔にまとめてください。テキストでは、間接技術の一つであるコミュニケーションが網羅されておりませんので、他の文献を参考にしてください。専門職としての生活支援のあり方も介護保険導入と共に変化しています。介護保険の基本理念である「利用者本位」「自立支援」を具現化する上でその人らしい生活の意義について自身の考えを述べ、基本的な専門技術の個別展開のあり方についてまとめてください。

2 単位め アドバイス

高齢社会と共に認知症高齢者が増加し、認知症介護についてはゴールドプラン21に基づいて国レベルで取り組まれております。これまで「問題行動」と言われてきた周辺症状も近年では「BPSD」と新たな概念で呼ばれるようになりました。ここでは、新たな介護の専門性を押さえる意味で、テキスト第14章第1節を中心に「認知症高齢者とは」といった状態像をまとめ、認知症高齢者に対する適切な生活支援を展開する上での介護のあり方について、BPSDの対応方法を含めて自分の考えを具体的に述べてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに介護技術「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ (第3版)』中央法規出版、2014年
- 2) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ (第3版)』中央法規出版、2014年
- 3) 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 (第3版)』中央法規出版、2016年

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「介護技術」のスクーリングは、「高齢者福祉論」「介護概論」の2科目について、学習に取り組んでから受講することをお奨めいたします。

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

卒業研究	単位数	履修方法	配当学年
	8単位	卒業研究	4年
科目コード	ZZ5991	担当教員	本学専任教員

「卒業研究」の内容については、『レポート課題集2017 C (心理専門編)』p.176～183をご覧ください。
ここでは、最近数年間の「社会福祉学科 卒業研究指導教員」と「過去の指導論文タイトル」を掲載しておきます。

社会福祉学科 卒業研究指導教員一覧（五十音順）

指導教員名	過去の指導論文タイトル
阿部 正孝	精神障害者の差別の歴史 －差別とは何か－
高橋 誠一	当事者ソーシャルワーカーの可能性における一考察 地域包括ケア推進における地域密着型サービスと地域包括支援センターの連携・協働の重要性 －ネットワークを拡げる運営推進会議の活用－ 福島市に於ける高齢者権利擁護に関する現状と課題 －市内地域包括支援センター等の訪問調査を通して－ 介護保険制度についての比較
寺下 明	「現代社会教育における『寺子屋』の展開」 －地域で心豊かな子どもを育てるアクション・リサーチ－
庭野賀津子	子どもの遊びの発達における意義
根岸 直樹	高齢者における在宅ケアまでの問題点と現状 －廃用症候群における保険・医療・福祉の役割－ 要介護高齢者の「食」の楽しみについて 放射線検査における医療被曝カウンセリング －医療用放射線・放射能への心理的緩和－
三浦 剛	「精神病」者運動の歴史 1987年精神衛生法改正の理由 障害者福祉事業におけるマネジメントの必要性
志村 祐子	行きたいを支援する －高校生の復学支援のための高校・病院の連携－ アンダーコントロールトレーニングの応用における一考察 －若年者の自傷行為に対応した事例的研究－

特講・社会福祉学



2016年度よりスクーリングの申込みが必要となりました。下記の申込締切日までに、履修登録とスクーリングの申込み両方を行ってください。申込みは、『With』巻末のハガキか、「TFU オンデマンド」上で行ってください。受講上のルールは、通常のスクーリングと同じです。「特講・社会福祉学」は、原則として同じ科目は次年度以降開講いたしません（一部隔年開講をしている科目があります）。

2017年度の開講予定は下記の通りです。

科目名	開講日	履修・申込(取消)締切	受講料納入期限
特講・社会福祉学1 (介護保険と社会福祉士の課題)	6 / 24・25	5 / 25	6 / 10
特講・社会福祉学10 (スクール・ソーシャルワーク論)	2018. 3 / 3・4	2018. 1 / 5	2018. 2 / 5
特講・社会福祉学13 (福祉産業論)	12 / 23・24	11 / 15	12 / 5

※「特講（防災土研講座）」は、履修登録不要で申込方法等も異なりますので、上記の表には掲載していません。

特講科目と他の科目とで手続きが異なる点は、2016年度より下記の通りです。

●締切日までに取消連絡をすれば特例で履修取消が可能

スクーリングに出席できない方は、上記に定めるスクーリング申込締切日前ならば、履修登録の取消が可能です。取消を希望される方は、書面（メール・FAX・郵送）でご連絡ください。ただし、超過履修費を納入したことがある方は原則として履修取消はできません。

特講・社会福祉学 1 (介護保険と社会福祉士の課題)			単位数	履修方法	配当学年
			1単位	S	1年以上
科目コード	DT2201	担当教員	佐々木 裕彦		

※この科目は2017年6/24・25の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は5/25までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワーク実践について、欧米での発展と我が国における施設福祉、在宅福祉、地域福祉の変遷を理解し、その歴史的な背景と意義を学ぶ。

また、介護保険制度とケアマネジメントについて、直近の制度改正や見直し案等を理解し、医療・介護総合確保の推進による現場実践の現状と課題を学ぶ。

さらに、地域包括ケアシステムについて、政策課題であるニッポン一億総活躍プラン、骨太の方針2016、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現等から、全世代・全対象型の福祉サービス提供ビジョンが目指す近未来を理解し、新たな地域福祉時代での社会福祉士の課題を学ぶ。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの変遷とその意義が説明できる。
- 2) 我が国の歴史的な背景と意義が説明できる。
- 3) 介護保険制度の改正内容とその目指すものが説明できる。
- 4) 社会福祉士への役割期待と課題が説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの変遷①	欧米での発展と意義
2	ソーシャルワークの変遷②	我が国の施設福祉実践
3	ソーシャルワークの変遷③	我が国の在宅福祉実践
4	ソーシャルワークの変遷④	我が国の地域福祉実践
5	新たな地域福祉時代の構築①	介護保険制度改正の内容と課題
6	新たな地域福祉時代の構築②	地域包括ケアシステムの内容と課題
7	新たな地域福祉時代の構築③	新たな福祉サービス提供ビジョンの内容と課題
8	新たな地域福祉時代の構築④	新たな社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込可）。スクーリング試験は論述式とし、とくに授業で学び得たこと及び考えた事を問います。

■スクーリング時の教科書・講義の進め方

スクーリングにあたって、教科書は使用しません（パワーポイント資料使用）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

下記の参考図書や市町村作成のパンフレット等で、介護保険制度の基本的な概要を理解し、新聞記事や厚生労働省ホームページ等の制度改革や報酬改定の資料に目を通してくと講義の理解が深まります。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

「到達目標」記載内容の理解を深め、新たな地域福祉時代の構築に向けての専門的力量を高めていくてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「応用的知識」「コミュニケーション力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 『社会保障制度 指さしガイド 平成27～29年度介護報酬対応版』日総研出版、2015年
- 2) 『七訂 介護支援専門員基本テキスト』第1巻 介護保険制度と介護支援』長寿社会開発センター、2015年
- 3) その他（厚生労働省ホームページ等）

キーワード：一億総活躍国民会議（ニッポン一億総活躍プラン）、経済財政諮問会議（骨太の方針2016）、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部（地域共生社会の実現）、社会保障制度改革国民会議（医療・介護機能の再編将来像）、新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチーム（新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン）等

■担当教員紹介

佐々木裕彦 社会福祉法人岩手和敬会青山和敬荘施設長・社会福祉士・介護支援専門員

特講・社会福祉学10 (スクール・ソーシャルワーク論)			単位数	履修方法	配当学年
			1単位	S	1年以上
科目コード	DT2210	担当教員	川口 正義		

※この科目は2018年3 / 3・4の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は2018. 1 / 5までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

スクールソーシャルワーク（SSW）は人権と社会正義を基盤とし、児童生徒が学校生活を円滑に送れるようにするための、また教師や学校組織が立案した教育活動を十分に展開できるようにするための方法・技術です。

スクーリングでは今日の学校現場の現状と課題をふまえたうえで、わが国の学校現場で切に求められてきているスクールソーシャルワークの概念、支援方法、役割及び課題について皆さんとともに学び、考えてみたいと思います。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校教育現場を取り巻く現状と課題	児童生徒、保護者・家族、こどもの貧困、教師・学校
2	SSWを導入する必要性、目的と価値、機能	導入に至る経緯、概念、視点、目的、機能、活動スタイル、職務内容
3	教師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割分担	それぞれの役割と違い
4	SSWの実践①	事例の紹介
5	SSWの実践②	事例検討（グループワーク）
6	SSWの可能性と意義	SSWに期待される役割
7	SSW活用に際しての留意点、今後の課題	学校・教職員との連携のあり方、課題
8	質疑応答	社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

■到達目標

- 1) 学校現場の現状と課題をふまえたうえで、スクールソーシャルワークを導入した必要性と目的について述べることができる。
- 2) スクールソーシャルワークの価値、倫理について解説することができる。
- 3) 学校・教師文化の特徴、及びスクールソーシャルワークの基本的視点と役割、機能、支援方法について説明することができる。
- 4) スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の相違点、及び連携の必要性につ

いて説明することができる。

5) スクールソーシャルワーカーに必要な資質と専門性について述べることができる。

6) 日本におけるスクールソーシャルワークの今後の課題について述べるができる。

■スクーリング 評価基準

- ・ 授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込みはすべて不可）
- ・ 試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書・講義の進め方

スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

参考図書などをもとに、スクールソーシャルワークとはどのような営みであるのか、その目的や役割などについて自分なりに考えイメージしてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

学校教育現場と子ども・保護者・家庭を取り巻く社会状況に関心を寄せるなかで、スクールソーシャルワークが担うことができる役割と可能性について、さらに学習を深め考えていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関係

とくに「基礎的知識」「専門的知識」「応用的知識」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- ・ 山野則子・峯本耕治編著『スクールソーシャルワークの可能性—学校と福祉の協働・大阪からの発信—』ミネルヴァ書房、2007年
- ・ 日本スクールソーシャルワーク協会編、山下英三郎・内田宏明・半羽利美佳編著『スクールソーシャルワーク論—歴史・理論・実践—』学苑社、2008年
- ・ 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと—学校ソーシャルワーク実践ガイド—』中央法規出版、2009年
- ・ 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子編『スクール [学校] ソーシャルワーク論』中央法規出版、2012年
- ・ 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012年
- ・ 門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際—』中央法規出版、2014年

特講・社会福祉学13 (福祉産業論)

	単位数	履修方法	配当学年
	1単位	S	1年以上
科目コード	DT2213	担当教員	江尻 行男

※この科目は2017.12/23・24の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は11/15までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・福祉の慈善性ではなく産業性、ビジネス性および営利性という現実について学ぶ。
- ・障害者向けの福祉産業については特に取りあげないが、この場合での産業性・ビジネス性もあることを学んでほしい。

■到達目標

福祉産業の概要について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉産業とはいかなる産業か	(1) 福祉産業の主たる対象 ①高齢者 ②障害者 ③その他 (2) 高齢者福祉産業進展の背景
2	高齢者福祉事業の構造と形態	(1) 元気高齢者向け事業の拡大・発展 (2) 介護事業の構造と産業的特徴
3	介護サービス事業の発展	(1) 介護保険制度の導入と介護産業の拡大 (2) ①施設介護サービス ②在宅介護サービス
4	介護製品等の産業の進展	(1) 介護製品等の開発と生産ならびに流通 (2) 高齢者食(介護食)事業の展開
5	介護サービス事業の経営戦略 —主として訪問介護ビジネス戦略—	(1) 事業拡大化戦略 (2) マーケティング戦略 (3) 人事・労務・雇用戦略 (4) 財務戦略 (5) その他
6	介護経営上の諸問題	(1) 2025年問題と介護人材不足と確保の問題 (2) 介護リスクマネジメント (3) 介護の海外輸出 (4) 介護事業の進展(国際化と地方化) (5) その他
7	シニアによるビジネスの起業化 —高齢者がビジネスの主役—	(1) 高齢者が日本の産業を支える(真の生涯現役社会の形成) (2) 過疎地、被災地での高齢者起業 (3) その他
8	今後の展望	成長期待産業から成長産業へ
9	スクーリング試験	

■スクーリング 評価基準

授業参加状況50%+スクーリング試験50%

■スクーリング時の教科書・講義の進め方

レジュメを配付

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容のうち関心のあるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

介護人材の不足と確保について学習を深めてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「応用的知識」「創造的思考力」を身につけてほしい。

特講(防災士研修講座)	単位数	履修方法	配当学年
	1単位	S	1年以上
科目コード	DT2250	担当教員	船渡 忠男 他

※この科目は、履修登録は不要です。『With』で案内する申込み手続きを開講日の3カ月前からすることで受講できます。

※他の科目と異なり、受講手続き（受講料の請求・教材の発送・事前提出レポートの受付）は本学防災士研修室が行います。スクーリング受講申込み者に、防災士研修室から詳細を案内いたします。

※防災士資格を取得するためには、①この講座を受講し、②最終コマに実施する「防災士資格取得試験」に合格し、③後日（もしくは当講座受講前）、お近くの消防署などで実施している「普通救命講習」を受講し、本学防災士研修室で資格取得の手続きをすることが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

防災士は、市民が行う防災行動に関して十分な意識・知識・技能を持った、地域社会における防災リーダーの役割が期待される存在である。講義では、自然災害の歴史や地震・津波のメカニズムをはじめ避難所の開設と運営の演習等13科目を受講、防災士として災害の事前対策、復旧・復興活動を含む応急対策に対応可能な幅広い知識と技術を習得する。

■到達目標

- 1) 自助、共助、協働を原則とした防災士の活動理念について説明できる。
- 2) 地震、津波、風水害等自然災害の発生の仕組みについて説明できる。
- 3) 災害時の安否確認の方法、災害情報の収集、通報要領について説明できる。
- 4) 地域や職場における災害リスク等を把握し、その対策について事例をあげて説明できる。
- 5) 地域と連携した防災訓練指導や児童生徒への防災教育指導の方法について説明できる。
- 6) 新たな減災や危機管理の手法について、具体例をあげて説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	近年の自然災害に学ぶ	東日本大震災など近年の地震・津波災害と教訓、火山噴火による災害と教訓、風水害による災害と教訓について。
2	被害想定、ハザードマップ	被害想定はどのように作成・活用されるか。ハザードマップには主にどのような種類があるか。
3	行政の災害対応	災害対策基本法はどのような法律か。国や地方公共団体が平常時に行っている防災対策について。
4	地震のしくみと被害	日本列島周辺が世界有数の変動帯となっているのはなぜか。「震度」と「マグニチュード」の違いについて。

5	津波のしくみと被害	津波発生のメカニズム、津波地震、遠地津波とは何か。津波による被害を軽減するためにはどのような対策が必要か。
6	身近でできる防災対策	地震に備えてやるべきことは何か。火災に備えてやるべきことは何か。被災後の暮らしを守るためにどうするか。
7	避難所の開設と運営①	避難所とは何か、避難所運営で配慮すべきことは何か。避難所の開設手順について。
8	避難所の開設と運営②	東日本大震災の被災地における事例や教訓を踏まえた演習で次の災害に備えた避難所の開設と運営について考える。
9	災害医療	災害医療の3つのTとは何か。災害時に多発する可能性のある、注意すべき病態は何か。東日本大震災の災害医療の課題について。
10	災害情報と報道	災害情報とは何か。被災者の情報ニーズはどのように変化するか。災害情報はラジオ、テレビ、新聞でどのように提供されてきたか。災害情報の新しい伝達手段はどうなっているか。
11	風水害と対策	日本の気候・地域特性と風水害の関係について。災害をもたらす気象現象にはどのようなものがあるか。「自助」としての水害対策にはどのようなものがあるか。
12	避難と避難行動	避難に関するしくみにはどのようなものがあるか。豪雨災害時の避難体制と課題は何か。東日本大震災における避難行動と津波防災教育の教訓は何か。
13	耐震診断と補強	耐震基準はどのように整備されてきたか。既存不適格とは何か。どのような対策があるか。東日本大震災の家屋被害の特徴について。
14	防災士の役割	防災士はどのようにして生まれたか。防災士はどのような場面で活躍するか。防災士に期待される役割とは何か。防災士の活動はどのように広がっているか。
15	防災士資格取得試験	日本防災士機構が実施する資格取得試験で、30問出題され21問以上の正解者が合格。

※他の科目と異なり、1コマ60分の講義です（試験を含み全15コマ）。

※各時間の担当講師は、募集案内に掲載される予定です。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。途中グループワークを行います。

パワーポイントを使用し、途中ビデオなども見ながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

防災士資格取得試験をスクーリング試験とし、試験合格の方のみに単位を付与します。

※単位修得はスクーリング受講および資格取得試験合格でできますが、防災士資格を取得するためには、各自でお近くの消防署などで申込み可能な「普通救命講習」を受講し、本学防災研修室で資格取得手続きをすることが必要です。

■スクーリング時の教科書

特定非営利活動法人 日本防災士機構『防災士教本』、2017年版

東北福祉大学編『履修確認レポート』、2017年版

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：15時間）

お申し込みを頂いた方に「防災士教本」(日本防災士機構・編)ほか教材一式を、スクーリングの3週間前までにお送りします。スクーリングまでの間に、ご自宅で学習に取り組み、穴埋め式のレポートを完成させてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：10時間）

教本の第3講身近でできる防災対策、第7講災害医療、第8講行政の災害対応、第15講地震のしくみと被害、第16講津波のしくみと被害、第18講風水害と対策、第21講災害情報の発信と入手、第25講被害想定ハザードマップを復習して下さい。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに、「基礎的知識」「専門的知識」「コミュニケーション力」「自己管理力」「協調性・主体性」「市民としての社会的責任」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

教科書の各章に参考文献を掲載しています。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかとまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問って難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずですよ。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2017 B共通基礎・福祉専門編

2017年3月1日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話022-233-2211 <http://www.tf.u.ac.jp>
印刷・製本 (株)ホクトコーポレーション

©Tohoku Fukushi University 2017 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

